

4114

14. 2イ-789



1200701635636

4

昭和十一年九月開催

地方耕地課長會議要録

農林省農務局



始



地方耕地課長會議要録



次

一、諮問事項

農村振興上耕地事業ノ實績並將來採ルヘキ指導方針如何

北海道	四頁	群馬縣	二頁
青森縣	三頁	埼玉縣	三頁
岩手縣	三頁	千葉縣	三頁
宮城縣	三頁	東京府	三頁
秋田縣	三頁	神奈川縣	三頁
山形縣	三頁	新潟縣	三頁
福島縣	三頁	富山縣	三頁
茨城縣	三頁	石川縣	三頁
栃木縣	三頁	福井縣	三頁

目次

山梨縣	三二頁
長野縣	三三頁
岐阜縣	三四頁
靜岡縣	三五頁
愛知縣	三六頁
三重縣	三七頁
滋賀縣	三八頁
京都府	三九頁
大阪府	四〇頁
兵庫縣	四一頁
奈良縣	四二頁
和歌山縣	四三頁
鳥取縣	四四頁
島根縣	四五頁
岡山縣	四六頁

廣島縣	四七頁
山口縣	四八頁
徳島縣	四九頁
香川縣	五〇頁
愛媛縣	五一頁
高知縣	五二頁
福岡縣	五三頁
佐賀縣	五四頁
長崎縣	五五頁
熊本縣	五六頁
大分縣	五七頁
宮崎縣	五八頁
鹿兒島縣	五九頁
沖繩縣	六〇頁

一、協議事項決議

第一 自作農創設ノ爲ニスル農耕地開發ニ關スル事項	四九頁
第二 開墾事業ノ經營ニ關スル事項	四九頁
第三 機械利用ニ依ル田地床締ニ關スル事項	五〇頁
第四 農業水利統制調査ニ關スル事項	五〇頁
第五 農村計畫工事ノ進展上考慮ス可キ事項	五〇頁
一、地方提出協議事項及決議	五〇頁

第一 耕地整理ニ關スル事項	五〇頁
第二 開墾助成ニ關スル事項	五〇頁
第三 用排水幹線改良事業ニ關スル事項	五一頁
第四 事業資金ニ關スル事項	五一頁
第五 開墾地移住及經營ニ關スル事項	五一頁
第六 農用機械ニ關スル事項	五二頁
第七 暗渠排水ニ關スル事項	五二頁
第八 農村計畫工事ニ關スル事項	五二頁
第九 農業水利制度ニ關スル事項	五二頁
第十 災害ニ關スル事項	五二頁
第十一 其ノ他ノ事項	五二頁

目次

地方耕地課長會議要錄

(昭和十一年九月)

議事經過

地方耕地課長會議、各地方ヨリ耕地課長其ノ他關係官出席ノ上九月十日ヨリ十四日マテ農林省會議室ニ於テ開催セラレ本省提出諮問事項、協議事項及地方提出協議事項ニ付慎重審議シタリ

本省提出諮問事項及協議事項ハ左ノ如シ

甲 諮問事項

第一 農村振興上耕地事業ノ實績並將來採ルヘキ指導方針如何

乙 協議事項

第一 自作農創設ノ爲ニスル農耕地開發ニ關スル事項

第二 開墾事業ノ經營ニ關スル事項

第三 機械利用ニ依ル田地床締ニ關スル事項

第四 農業水利統制調査ニ關スル事項

第五 農村計畫工事ノ進展上考慮ス可キ事項

第一日 (九月十日)

午前十時戸田農務局長開會ノ辭ヲ述ヘ農務局長ノ指示、片岡耕地課長ノ耕地事業ニ關スル注意アリ戸田農務局長議長席ニ着キ本省提出諮問事項「農村振興上耕地事業ノ實績並將來採ルヘキ指導方針如何」ニ付片岡耕地課長ノ説明アリ

議事經過

議長ノ指名ニ依リ岩手、新潟兩縣ニ答申セシム 正午休憩
午後一時三十分再開午前ニ引續キ諮問事項ニ對シ秋田、長野、大阪、徳島、鹿兒島、福岡、島根及三重ノ各縣ニ答申
セシメ午後四時散會セリ

第二日 (九月十一日)

午前九時半開會戸田農務局長議長席ニ着キ本省提出協議事項ノ審議ニ入り片岡耕地課長ヨリ各事項ニ付夫々説明ヲ爲
シ第一「自作農創設ノ爲ニスル農耕地開發ニ關スル事項」ニ付テハ徳島、廣島及鳥取ノ各縣ヨリ、第二「開墾事業ノ
經營ニ關スル事項」ニ付テハ長野、長崎及宮城ノ各縣ヨリ、第三「機械利用ニ依ル田地床締ニ關スル事項」ニ付テハ
神奈川、栃木及靜岡ノ各縣ヨリ、第四「農業水利統制調査ニ關スル事項」ニ付テハ大分、埼玉、靜岡及宮城ノ各縣ヨ
リ、第五「農村計畫工事ノ進展上考慮ス可キ事項」ニ付テハ岐阜、宮崎及岩手ノ各縣ヨリ夫々意見並希望ノ陳述アリ
次テ以上ノ諮問事項、協議事項及各地方提出協議事項ハ夫々左ノ通第一乃至第五委員會ニ附託シテ正午休憩
午後一時ヨリ各委員會ヲ開會シ附託事項ニ付審議セリ

委員會附託事項及委員氏名

第一委員會

諮問事項 耕地事業ノ將來探ルヘキ指導方針如何

地方提出協議事項第十一 其ノ他ノ事項

宮城 宮本 邦彦 埼玉 前川 純三 福井 永井 一郎
山梨 石田 省吾 兵庫 野呂 勇之助 岡山 宮本 憲象
愛媛 藤本 達次郎 大分 中島 保人 沖繩 上條 林三郎

第二委員會

協議事項第四 農業水利統制調査ニ關スル事項

福島 上田 朝夫 千葉 山中 謙輔 愛知 守能 邦人
滋賀 秋山 鏞太郎 大阪 青木 勝治 和歌山 大庭 實
島根 小泉 靜雄 山口 三谷 憲二 福岡 萩原 大介

第三委員會

協議事項第一 自作農創設ノ爲ニスル農耕地開發ニ關スル事項

地方提出協議事項第二 開墾助成ニ關スル事項

青森 小森 谷光三 岩手 田原 剛 秋田 矢島 敏彦
茨城 中島 愿三 群馬 齋藤 美代司 新潟 坂部 重遠
長野 穂坂 申彦 鳥取 市橋 友次郎 徳島 吾郷 精造
鹿兒島 瓜生 和夫

第四委員會

協議事項第二 開墾事業ノ經營ニ關スル事項

協議事項第三 機械利用ニ依ル田地床締ニ關スル事項

地方提出協議事項第四 事業資金ニ關スル事項

地方提出協議事項第五 開墾地移住及經營ニ關スル事項

地方提出協議事項第六 農用機械ニ關スル事項

地方提出協議事項第七 暗渠排水ニ關スル事項

山形 林 直樹 栃木 雨森 常夫 富山 川村 長作
岐阜 重政 庸徳 靜岡 石井 家吉 廣島 佐藤 主一
高知 後藤 與治 長崎 上村 英一 熊本 石川 房吉

議事經過

出席者

宮崎 柳原 鹿松

第五委員會

協議事項第五 農村計畫工事ノ進展上考慮ス可キ事項

地方提出協議事項第一 耕地整理ニ關スル事項

地方提出協議事項第八 農村計畫工事ニ關スル事項

北海道	吉川 宥一	東京	山田 稔	神奈川	芝池 眞吉
石川	大竹 憲成	三重	大屋 貞雄	京都	樺島 多賀助
奈良	淵田 秋廣	香川	翠	伊賀	伊地知 四郎

第三日 (九月十二日)

午前九時ヨリ前日ニ引續キ各委員會ヲ開會シ夫々附託事項ニ付審議ヲ了セリ

第四日 (九月十四日)

午前九時半戸田農務局長議長席ニ着キテ開會シ島田農林大臣ノ訓示アリ終リテ千葉、山形兩縣ヨリ地方農村ノ實狀ヲ述ヘ農村ノ振興更生上耕地事業ノ齎ラセル幾多ノ例證ヲ舉ケテ益斯業ノ普及徹底ヲ圖ルノ要アルヲ力説セリ次テ第一委員長野呂勇之助、第二委員長守能邦人、第三委員長穂坂申彦、第四委員長佐藤圭一、第五委員長芝池眞吉ヨリ各委員會ニ於ケル決議ノ報告アリ何レモ異議ナク可決セラレ最後ニ戸田農務局長閉會ノ挨拶ヲ述ヘ午後四時閉會セリ

出席者

北海道	道廳技師 吉川 有一	宮城	耕地課長 地方技師 宮本 邦彦
青森	耕地課長 地方技師 小森 谷光三	秋田	耕地課長 地方技師 矢島 敏彦
岩手	耕地課長 地方技師 田原 剛	山形	耕地課長 地方農林技師 林 直樹

福島	耕地課長 地方技師 上田 朝夫	兵庫	耕地課長 地方技師 野呂勇之助
茨城	耕地課長 地方技師 中島 愿三	奈良	耕地課長 地方農林技師 淵田 秋廣
栃木	耕地課長 地方技師 雨森 常夫	和歌山	耕地課長 地方農林技師 大庭 實
群馬	耕地課長 地方技師 齋藤 美代司	鳥取	耕地課長 地方技師 市橋 友次郎
埼玉	耕地課長 地方技師 前川 純三	島根	耕地課長 地方農林技師 小泉 靜雄
千葉	耕地課長 地方技師 山中 謙輔	岡山	耕地課長 地方技師 宮本 憲象
東京	整地課長 地方農林技師 山田 稔	廣島	耕地課長 地方技師 佐藤 圭一
神奈川	耕地課長 地方技師 芝池 眞吉	山口	耕地課長 地方農林技師 三谷 憲二
新潟	耕地課長 地方技師 坂部 重遠	徳島	耕地課長 地方農林技師 吾郷 精造
富山	耕地課長 地方技師 川村 長作	香川	耕地課長 地方農林技師 翠
石川	耕地課長 地方技師 大竹 憲成	愛媛	耕地課長 地方農林技師 藤本 達次郎
福井	耕地課長 地方技師 永井 一郎	高知	耕地課長 地方技師 後藤 與治
山梨	耕地課長 地方技師 石田 省吾	福岡	耕地課長 地方技師 萩原 大介
長野	耕地課長 地方農林技師 穂坂 申彦	佐賀	耕地課長 地方技師 伊地知 四郎
岐阜	耕地課長 地方技師 重政 庸徳	長崎	耕地課長 地方技師 上村 英一
静岡	耕地課長 地方技師 石井 家吉	熊本	耕地課長 地方技師 石川 房吉
愛知	耕地課長 地方技師 守能 邦人	大分	耕地課長 地方技師 中島 保人
三重	耕地課長 地方技師 大屋 貞雄	宮崎	耕地課長 地方技師 柳原 鹿松
滋賀	耕地課長 地方技師 秋山 鏑太郎	鹿兒島	耕地課長 地方技師 瓜生 和夫
京都	耕地課長 地方農林技師 樺島 多賀助	沖繩	耕地課長 地方技師 上條 林三郎
大阪	耕地課長 地方農林技師 青木 勝治		

出席者

五

尙此ノ外各地方ヨリ青森縣農林技師栗田禮藏、岩手縣屬佐藤盛、宮城縣地方農林主事伊藤坦、山形縣屬安部龜五郎、

四

福島縣地方農林技師平石鍊二、茨城縣地方農林主事清水敬信、群馬縣地方農林主事鈴木吉五郎、埼玉縣農林主事補寺尾忠作、千葉縣屬長谷川宗三郎、神奈川縣技師兼屬松本吉友、農林技師山浦末一、農林技師山村德一郎、新潟縣地方農林主事富樫幸次郎、石川縣地方農林技師大西洋平、福井縣屬福山多右衛門、山梨縣農林技師豐田巖、長野縣屬櫻井一、岐阜縣地方農林主事丹羽道胤、靜岡縣地方農林主事西尾榮作、地方農林技師深澤榮伴、愛知縣地方農林技師北野友之、三重縣地方農林技師中田芳三、滋賀縣地方農林技師古市與一、屬平井佐一、大阪府地方農林技師增田收、農林主事補木戸幸三郎、兵庫縣地方農林主事石井定藏、奈良縣屬山口甚作、島根縣農林主事補中山七三、岡山縣地方農林主事平岸卯之吉、地方農林技師三浦岩次郎、屬兼技師草野八治、農林技師中村正義、廣島縣地方農林技師宮内義彦、山口縣農林主事補柳綠、德島縣技師兼屬岩田眞、香川縣地方農林技師打越篤、屬須藤豐、福岡縣地方農林主事野田茂人、長崎縣地方農林技師紫竹武男、熊本縣技師兼屬橋本辰男、大分縣地方農林主事後藤泰藏、宮崎縣農林主事補村角龍夫、鹿兒島縣屬大野義治、沖繩縣屬高嶺朝盛、拓務省ヨリ屬白石義夫、朝鮮總督府ヨリ技師淺野健一、同津田正道、屬池田庄治、臺灣總督府ヨリ技師荒木安宅、東京帝國大學ヨリ教授田中貞次、京都帝國大學ヨリ教授可知貫一、九州帝國大學ヨリ教授田町正譽、日本勸業銀行ヨリ鑑定課長望月藏六、玉井則衛其ノ他ノ出席アリタリ

農林大臣訓示 (要旨)

今回地方耕地課長會議ノ開催ニ際シマシテ一言所懷ヲ述フルノ機會ヲ得マシタコトハ洵ニ欣幸トスルコトコロテアリマス
 近時農村ハ災害其ノ他經濟界ノ打撃ヲ被リ窮境ニ陥テ居ルコトハ各位ノ既ニ御承知ノ通りテアリマス之カ對策トシテ各方面ヨリ種々ナル施設カ講セラレテ居ルノテアリマスカ就中耕地事業カ現下ノ實狀ニ鑑ミ對策ノ一トシテ重要ナル事業ナルコトハ疑ヲ入レヌトコロテアリマシテ益其ノ普及發達ニ努メナケレハナラナイト存スルノテアリマス

政府ハ昭和十一年度ニ於テハ從來施設シ來レル事業ヲ繼續スルノ外新ナル豫算トシテ東北方集團農耕地開發事業及特殊地方耕地事業ノ助成金ヲ計上シ又經濟更生特別助成事業中ニ小耕地事業ヲ織込ム等農林漁業各般ノ諸施設ト相俟テ農山漁村ノ窮乏ヲ打開シ之ヲ振興セシムルコトニ努メツツアルノテアリマス
 而シテ耕地事業カ農村ノ振興上適切有效ナルハ論ヲ俟タサルトコロテアリマスカ其ノ效果ノ全キヲ期スル爲ニハ直接其ノ衝ニ當ル各位ノ努力ニ俟ツコト最必要テアツテ其ノ結果ハ直ニ事業ノ實績ニ反映スルモノテアリマスカラ今後共益奮勵セラレ以テ斯業ノ遂行ニ一段ノ努力ヲ拂ハレムコトヲ望ム次第テアリマス
 今回協議ヲ煩ハス事項ハ何レモ重要ナルモノテアリマスカラ各位ニ於テハ十分意見ヲ開陳セラレ遺憾ナク審議ヲ遂ケラレムコトヲ希望致シマス

農務局長指示

耕地事業ニ對スル方針ニ付テハ大臣ノ訓示アルヲ以テ予ハ此ノ機會ニ於テ聊カ細目ニ互リテ諸君ノ留意ヲ希望セムトス
 一、耕地事業ノ指導監督ニ關スル件
 近年耕地事業ノ實施ニ關聯シテ往々不正事件ノ發生ヲ見ルハ誠ニ遺憾トスルコトナリ此ノ事ニ關シテハ從來ノ會議ニ於テ屢々注意シタルトコロニシテ各位ノ十分留意セラレタルコトナリト信ス然ルニ近年不正事件ノ内容ヲ觀ルニ當業者ハ不正ノ行爲ヲ以テ補助金、助成金ヲ詐取スルモノ多ク之カ指導監督ノ任ニ在ル官公吏ニシテ之等當業者ノ不正行爲ニ關與シ遂ニ法網ニ觸ル者アリ誠ニ言語ニ堪ヘサルトコロナリ從來屢々注意シタル如ク指導監督ノ任ニ當ル官公吏ハ各自ニ身ヲ持スルコト嚴正ニシテ綱紀肅正ノ實ヲ示ササルヘカラス然ルニ今官公吏ノ間ヨリ斯ノ如キ不正ノ者ヲ出スニ於テハ耕地事業ノ爲ニ定ニ寒心ニ堪ヘサルトコロナリ此席上ニ於テ各位ニ指示スルコトコロノモ

ノハ決シテ一片ノ儀禮ヲ以テスルモノニ非サルヲ以テ十分ニ趣旨ノ存スルトコロヲ了解セラレ各位ハ克ク部下諸員及當業者ヲ督勵セラレ不正事件ノ根絶ヲ期セラレムコトヲ望ム

二、土地賃賃價格改訂法施行ニ伴フ耕地整理法ノ特例ニ關スル法律施行ノ件

今回土地賃賃價格改訂法施行ニ伴フ耕地整理法ノ特例ニ關スル法律公布セラレタルカ元來耕地整理賃賃價格配賦ニ關スル法規ハ頗ル難解ニシテ手續亦複雑ナルカ故ニ整理施行者ニ對シ十分ノ指導ヲ加フル要アルヲ以テ各位ハ擔任職員ヲ督勵シテ指導上遺憾ナキヲ期セラレムコトヲ望ム

三、特殊地方耕地助成ニ關スル件

連年ノ冷害其ノ他災害ニ因リ窮乏甚シキニ至リタル東北地方及産業不振ニシテ疲弊甚シキ離島ニ於テ窮乏緩和ノ爲行フ耕地ニ關スル小用排水及小設備、暗渠排水事業助成ノ爲昭和十一年度ニ於テ助成金ヲ交付スルコトト相成リ去ル六月二十五日附夫々助成金割當ヲ通牒セリ當該縣ニ於テハ諸般ノ準備ヲ整へ實施中ト存セラルルモ事業助成ノ趣旨ニ鑑ミ周到ナル指導監督ヲ爲シ所期ノ成果ヲ收メラレムコトヲ望ム

四、開墾助成ニ關スル件

開墾助成ニ關シテハ昭和十二年度ニ於テハ相當豫算ヲ要求シ之カ成立ニ付努力中ナルモ十一年度ニ於テハ新規豫算ノ成立ヲ見サリシヲ以テ既指令地區中事業ヲ廢止シ又ハ縮小スルモノニ付整理ヲ行ヒ之ニ依リ生シタル豫算ノ餘裕ヲ以テ既出願中特ニ急施ヲ要スルモノノ一部ヲ指令スル見込ニシテ前年ノ本會議ニ於テモ同様趣旨ヲ指示シ爾來各位ノ努力ニ依リ相當ノ成績ヲ示シツツアリト雖未整理ノモノ尙存在スヘキカ故ニ一層之カ整理ニ努力セラレ豫算ノ運用ニ協力セラレムコトヲ望ム

五、開墾地移住及經營ニ關スル件

開墾事業ノ進捗ニ伴ヒ之カ利用經營ニ從事スル爲移住農業者ヲ土着安定セシムルハ開墾事業ノ目的ヲ貫徹スル爲必

要缺クヘカラサルモノナルト共ニ一面舊農村ニ於ケル人口増加ヲ緩和スル爲ニモ亦有效ナリ然ルニ開墾地ハ地味未成熟ノモノナルヲ以テ耕耘、施肥ヲ始メトシ之カ農業經營ヲ適確ニ行フコトハ容易ノ業ニアラサルヲ以テ周到ナル注意ヲ拂ヒ指導獎勵上遺憾ナキ様努メラレムコトヲ望ム

六、耕地事業資金ニ關スル件

本年度ニ於ケル耕地事業資金トシテ預金部ヨリ融通セラレタルモノハ普通耕地整理事業資金、東北地方耕地事業資金、東北地方集團農耕地開發事業資金、災害關係資金及高利債借替資金ニシテ其ノ總額一千餘萬圓ニ及ヒ目下夫々貸付ノ手續中ナリ又本年度ヨリ水利組合ニ對シテハ預金部直接貸付ノ途ヲ開カレ關係法規ヲ改正セラレタリ之等資金ノ運用ニ付テハ各地方ニ於テ十分ナル注意ヲ拂ヒ其ノ遺憾ナキヲ期セサルヘカラス又耕地整理事業中ニハ天災其ノ他不測ノ障害ヲ蒙リ或ハ經濟界不況等ノ爲經營困難ニ陥リタルモノ尠カラサルヲ以テ之等ニ對シテハ昭和十年度ニ於テ預金部ヨリ二千八百萬圓ノ長期借替資金ヲ供給シ既ニ各地方ニ割當ヲ了シ一方ニ於テ利率ノ低下ヲモ行ヒ之等ニ依リ事業施行者ハ年々ノ負擔ヲ輕減シ償還ノ緩和ヲ圖リ得ヘント雖其ノ財務計畫ニシテ適確ニ勵行セラレサルニ於テハ以上各種ノ施設モ其ノ效果ヲ擧クルコト能ハサルヘキカ故ニ今後引續キ長キ年月ニ亙リ工事並財務ニ關シ周到ナル指導監督ヲ加ヘサルヘカラス之等ニ關シテハ十分留意セラレムコトヲ望ム

以上諸君ノ留意ヲ請フヘキ事項ノ要點ヲ陳述セリ惟フニ耕地事業ハ農業經營ノ根幹ヲ爲スモノニシテ恒久的ニ之カ遂行ヲ期セサルヘカラス之カ爲ニハ今後中央地方協力一致シテ本事業ノ目的ヲ達成セシムヘキナリ從テ本會議ニ於テハ腹藏ナキ意見ヲ開陳セラレ十分ナル考究ヲ遂ケ斯業ノ發展ニ貢獻セラレムコトヲ望ム

耕地課長注意

一、耕地整理ニ關スル件

耕地課長注意

- (一) 換地處分ノ認可アリタル整理施行地區ニ付テハ耕地整理登記及賃賃價格ノ配賦ヲ促進スル様盡力セラレタキコト
- (二) 地方廳ト稅務署トノ間ニ賃賃價格配賦等ニ付協議ヲ遂ケタル場合ハ其ノ決定事項ハ直ニ之ヲ報告シ且重要ナリト認ムル事項ハ本省ノ指揮ヲ受ケテ後實行セラルル様取扱ハレタキコト
- (三) 換地處分又ハ賃賃價格配賦ヲ行ハサル整理施行地區ハ其ノ工事完了屆(稅務署長ニ提出スルモノヲモ含ム)ニ必ス其ノ旨ヲ附記セシムル様取扱ハレタキコト
- (四) 本年六月二十七日農局第一九八五號農務局長通牒耕地整理法附則第十六條第二項ノ規定ニ依ル指定ニ關スル件ハ地租上ノ利害ニ影響スルカ故ニ期限内ニ漏ナク調査報告相成度尙稅務署長トノ意見ハ強ヒテ一致セシムルコトヲ要セサルコトヲ了承アリタキコト
- (五) 土地賃賃價格改訂法ニ依ル整理施行地ノ改訂賃賃價格ヲ適正ナラシムル様配意アリタキコト
- (六) 耕地整理法第三條ノ二ノ指定地稟請ニ付テハ豫メ所轄稅務署長ト協議スル必要無キ義ト了知アリタキコト
- (七) 耕地整理ニ關スル報告ハ大臣内訓ニ準據ス可キモノナルモ内訓ノ條項ニ拘泥シテ報告ノ要不要ヲ論スルトキハ徒ニ照會往復ヲ重ヌル事トナルヲ以テ左ノ如キ事項ハ内訓ニ明示無キモ適宜報告スル様取扱ハレタキコト
 - (イ) 特殊工事費五千圓以上ナルモ設計書ヲ添附ヲ要セサルトキハ該工事ノ箇所敷設所要費用ヲ附記スルコト
 - (ロ) 整理前後ノ地積ニ異動無キトキハ事業ノ概要ヲ察知スル能ハサルヲ以テ事業ノ目的ヲ附記スルコト
 - (ハ) 工事費ト其ノ他ノ費用ト權衡ヲ失スルモノハ其ノ他費用中寄附金、負擔金等ノ金額ヲ附記スルコト
 - (ニ) 換地處分又ハ賃賃價格ノ配賦ヲ爲ササル地區ハ工事完了報告ノ際其ノ旨附記スルコト
 - (ホ) 設立施行認可後地區ノ擴張、除斥ヲ行ハスシテ區ヲ分チタル場合ハ之ヲ報告スルコト
- (八) 大臣内訓第七項ニ依ル耕地整理事業報告ハ從來屢注意ヲ促シタルモ未タ規定期限迄ニ提出セサルモノ多數アリ

リ若シ事業者ヨリ報告遲延等ニ依ル場合ハ第一號乃至第五號ノ五事項ハ之ヲ分割シテ必ス期限迄ニ提出スル様取扱ハレ度コト

(九) 指定技術員設置ニ關スル補助申請ノ手續、昇給、轉任等ノ場合ノ報告遲延シ取扱上支障ヲ來スコト尠カラス注意セラレタキコト

二、開墾助成ニ關スル件

開墾助成金請求書ニ付テハ往々其ノ提出遲延シ爲ニ當該年度内ニ交付ヲ終了シ能ハス多額ノ繰越ヲ生シ事務上支障尠カラサルヲ以テ之カ請求ノ手續ヲ遲延セサル様指導アリタキコト

三、開墾地移住獎勵ニ關スル件

(一) 開墾地移住獎勵金國庫豫算少額ニシテ府縣ノ要求ノ一部ヲ充タスニ過キサレハ獎勵金交付ニ當リテハ地區土地利用狀況其ノ他ノ事情ヲ能ク調査シ其ノ急施ニ迫レルモノヲ先ニ考慮スルコト

(二) 開墾地移住獎勵手續第五項ニ基キ農林大臣ノ認可ヲ受クヘキ書類ハ例年不備ノ點アリテ照會ニ時日ヲ遷延スルモノ屢アルヲ以テ該手續ニ依リ不備ナキ様十分注意アリタキコト

四、用排水幹線改良事業ニ關スル件

(一) 用排水幹線改良事業施行ニ關シテハ豫メ見込地全部ニ付一定方針ノ下ニ之ヲ實施スル年度計畫ヲ樹テラレタキコト

(二) 補助ニ關スル打合書類ノ提出期限ニ付テハ屢注意セルトコロナルニモ拘ラス遲延スルモノアリ處理上不便尠ナカラス今後ハ提出期限ヲ勵行セラレタキコト

(三) 補助申請ニ際シ事業計畫書ヲ具シ打合アルヘキ管ナルニ事業計畫書ノ添附ナキモノ或ハ添附セルモノ内容不備ニシテ計畫書ト認メ難キモノアリ補助打合ニ當リテハ必ス完備セル計畫書ヲ添附セラレタキコト

- (四) 補助ノ見込ノ旨通牒アリタル場合ハ遲滞ナク正規ノ申請書ヲ提出セラレ度從來遲延スルモノ多ク處理上支障尠カラス今後ハ速ニ提出スル様注意セラレタキコト
- (五) 補助指令ヲ受ケタル事業ニシテ直ニ工事ヲ開始セス甚シキハ翌年ニ到ルモ尙着工セサルモノアリ斯クテハ補助採擇ノ趣旨ニ反シ甚タ遺憾トスルトコロナルヲ以テ今後申請ニ際シテハ事業地ノ選擇ヲ誤ラサル様注意アリタキコト

(六) 溜池土堰堤ノ計畫ニ當リテハ左記事項ニ對シ一層慎重ニ留意セラレタキコト

(イ) 堰堤基礎地盤及池敷地盤ノ地質、地層、岩層、地下水等ノ調査ハ必ス試錐又ハ試掘ニ依リ之ヲ檢シ且標本ヲ採取シ置カレタキコト

(ロ) 池敷地盤ノ地層、地質等ヲ示ス縱横断面圖ヲ作ラレタキコト

(ハ) 堤體ト基礎(側面ノ地山ヲ含ム)トノ接觸面ニハ水流ヲ阻止スル方法ヲ講セラレタキコト

(ニ) 堰堤下流側ニハ排水設備ヲ設ケラレタキコト

(ホ) 堰堤上流側基礎地盤ノ被覆物ニシテ透水ノ虞アルモノハ除去スルコト

五、耕地整理事業資金ニ關スル件

耕地整理事業資金トシテ普通地方資金、高利債借替資金等ノ借入申込ニ當リテハ特ニ左記事項ニ付注意セラレタシ

(一) 既借入金ノ償還ニ延滞金アルモノ、費用ノ徴收成績不良ナルモノ、財務計畫ノ適確ナラサルモノ等ニ對シテハ割當困難ナルヲ以テ整理ノ上借入申込ヲナスコト

(二) 事務費、年賦償還金及利子等ハ可成借入金ニ依ラス徴收金ヲ以テ支辨スル様取扱ハレタキコト

(三) 普通地方資金ハ新規事業費ニ充當シ舊債ノ借替ニ使用セサル様取扱ハレタキコト

六、災害施設ニ關スル件

(一) 各種災害復舊耕地事業國庫助成率ノ異ルモノ相互間ニ於ケル事業費ノ流用ニ關シテハ屢注意セルトコロナルモ特別ナル事由ノ存セサル限り認メ難キヲ以テ之カ取扱ニ當リ特ニ注意セラレタキコト

(二) 各種災害耕地事業決算及成績書ノ提出期限ハ毎年六月三十日迄ナルニ拘ラス往々遅延シ事務處理上支障尠カラサルニ付期限ヲ嚴守セラレタキコト

(三) 今回割當相成タル本年度雪害復舊耕地事業ニ付テハ當該助成要項ニ基キ適確ナル計畫ヲ樹テ至急提出セラレタキコト

尙地ニ地ノ復舊耕地事業ニ付テハ工事着手前實施計畫書ヲ提出ノ上豫メ打合セラレタキコト

(四) 災害施設耕地事業中特ニ縣營事業ニ付テハ往々事業ノ遅延ヲ來セルモノアルヲ以テ事業年度内ニ完了スル様十分督促セラレタキコト

(五) 災害報告ニ關シテハ被害ノ大小ニ拘ラス其ノ都度耕地、公共施設等ニ付各工種別被害數量、金額並復舊ニ要スル費用等ヲ詳記シ速ニ報告セラレタキコト

七、災害防止ニ關スル件

昭和九、十兩年ニ於ケル異常ナル水害ノ慘禍ニ鑑ミ災害ノ防止ニ關シテハ過般關係各省ノ水害防止協議會ヲ組織シ農務局ヨリ數名ノ技術官參列シ屢協議ヲ重ネタル結果別途配布ノ通具體案ヲ決定シ尙引續キ協議會ヲ設置シ各省間ノ緊密ナル聯絡ヲ計リ之カ實行ニ努ムルコトニ決シタリ依テ各位ニ於テモ格段ノ考慮ヲ拂ヒ之カ實行ニ努力セラレタキコト

八、農業水利調査ニ關スル件

(一) 本省農業水利調査希望地區ニ於テ水力發電計畫、中小河川改修計畫、風致、鑛區等トノ關係ノ有無ニ付豫メ調査セラレタキコト

(二) 本省農業水利調査班ノ調査地區ニシテ事業實施セラレタルモノニ付テハ實施後ノ成績ニ關シ技術上參考トナルヘキ事項(流出歩合、用水量ノ適否等)ヲ調査セラルル様留意セラレタキコト

諮問事項

農村振興上耕地事業ノ實績並將來採ルヘキ指導方針如何

答申

北海道

一、農村振興上耕地事業ノ實績

一、實績 本道ニ於ケル耕地關係事業ハ拓殖事業トシテ補助獎勵セルヲ以テ農林省主管ニ屬スル耕地關係事業ハ昭和七年度以降實施セル冷害凶作應急農業土木事業ノミニシテ其ノ施行面積ハ

種別	面積	種別	面積
小用排水	四五、六三二町	小設備	五、八一九町
暗渠排水	二、八九一町	計	五四、三四二町

以上ノ如ク冷害並病蟲害ノ防止對策トシテ著シキ效果ヲ舉ゲ窮迫セル農村ノ振興上最有效適切ナルヲ認ム

二、現況 本道ハ他府縣ト其ノ事情ヲ異ニシ特有ノ泥炭地、濕地三十五萬町歩ノ廣大ナル地積ヲ有スルノミナラス拓殖ノ道程漸ク半ニ達シタルニ過キサルヲ以テ拓殖事業ノ進展ニ伴ヒ漸次開發セラレ從テ耕地改良事業モ年ト共ニ増大スルノ實情ニ在リ然ルニ近年頻發セル不測ノ災害ニ農家經濟ハ極度ニ疲弊困憊セルヲ以テ農業經營ノ根幹ヲ爲ス耕地改良事業ハ到底自力ニ依リ施行シ得サルノ狀況ニ在リテ之カ事業ノ施行ハ農村振興上ニ重大ナル關係ヲ有スルニ付相當ノ補助ヲ與ヘ以テ事業ノ促進ヲ圖ルハ本道トシテ最緊要事ニ屬ス今拓殖事業計畫外ニシテ補助獎勵ヲ要スヘキ事業ヲ掲クレハ次ノ通トス

種別	面積	積	事業費
小排水	一〇四、三六八町	三、五四八、五一二町	
暗渠排水	二〇、〇〇〇町	三、〇〇〇、〇〇〇町	
小設備	三九、一八一町	九、三二五、〇七八町	
床締備	六、一五一町	三〇七、五五〇町	
客土	一二、〇六六町	三、二五七、八二〇町	

一、農村振興上耕地事業ノ將來採ルヘキ指導方針

- 一、近年頻發セル冷害、凶作ノ實情ニ鑑ミ特ニ補助工事トシテ一定計畫ノ下ニ獎勵スルコト
- 二、補助率ハ農家ノ經濟事情ヲ考慮シ五割以上トスルコト
- 三、本工事ニ要スル設備費ハ全額國庫補助トナスコト

青森縣

一、農村振興上耕地事業ノ實績

本縣農村ニ於テハ累年各種ノ災害交々到リ爲ニ其ノ疲弊言語ニ絶セシモ政府ニ於ケル各種振興施設機宜ヲ得タルト今後ノ振興計畫ノ發表ヲ見タルトニヨリ漸次更生ノ曙光ヲ認メ得ルニ至レリ

特ニ耕地事業ニ於テハ昭和七年以來時局匡救事業ヲ初メトシ各種災害應急施設事業及復舊事業實施セラレ絶望ニ瀕セシ窮乏農村ヲシテ更生ノ緒ニ就カシメシ功顯著ニシテヨク事業ノ趣意ヲ達成セシムルヲ得タリ然リト雖本縣農村ノ疲弊ノ原因タルヤ各種災害ハ直接的ニ損害ヲ及ホシ疲弊ヲ加重促進セシメタルモ其ノ根本的ナルハ一戸當耕地反別ノ狭小ト耕地ニ關スル各種設備工事ノ不備、不完全ニ在リ又以テ是等ヲ除去スヘキ恒久的對策ノ樹立實施ヲ必須トシテ要望セラルル所以ナリトス今昭和七年度以降ノ事業施行狀況ヲ示セハ次ノ如シ

昭和七年度 昭和八年度 昭和九年度 昭和十年度 計	小 開		小用排水及小設備		暗 渠 排 水	
	事業費	施行地積	事業費	關係地積	事業費	施行地積
	五三、〇七〇	七、七〇〇町	二七、三九〇	五、九五五町	九、五九六	二八、〇〇〇町
	四四、二七七	六、三三三	三六、七六六	一四、四九九	一〇、〇〇七	六、五〇〇
	三三、〇六〇	三、〇六八	七、四三六	五、三〇三	七、三三三	三、七〇〇
	八、五四三	六	一、六四〇、四三三	二八、五二二	一、二五七	五、六〇〇
	一、二五〇、〇八七	一七、二九	三、〇四八、八八〇	一九、八八八	三、三三五	二、三五六

備考 各年度ノ事業量ハ該年度ノ決算高ニヨル

右表ニ示スカ如ク特ニ事業費ノ大ナル小用排水及小設備ノ新設、改良ニヨリ各種施設、工事ノ完備セルモノ多大ナルヲ以テ農業生産率ノ安全、作業上勞力ノ節約、生産ノ増加等ヲ來シ之カ農村振興ニ及ホシタル好影響大ナルモノアル

事言ヲ俟タス

翻テ耕地面積ノ變化ヲ逐年的ニ見ルニ一方ニ開墾アルモ他面宅地、道路、水路、鐵道、飛行場等ノ爲潰地多ク漸ク之ヲ補フカ如キ狀況ニシテ左表ニ明ナリ

計 畑 田	昭和六年度	昭和七年度	昭和八年度	昭和九年度	昭和十年度
		七一、五一七町	七一、五八六町	七二、〇三六町	七二、二五一町
	五九、〇六三	五九、四四七	五九、九〇三	六〇、六〇一	六一、三二六
	一三〇、五八〇	一三一、〇三三	一三一、九三九	一三二、八五二	一三四、五九七

右表ニヨリ年々幾分ノ増加ヲ見ルモ一方農家戸數ノ變化ヲ見ルニ

本 業 副 業 計	昭和六年度	昭和七年度	昭和八年度	昭和九年度	昭和十年度
		七四、一七六戸	七四、一七四戸	七四、六四六戸	七六、四七三戸
	五六、三五九	五六、五五〇	五八、七八五	五八、五二一	五六、三四五
	一三〇、五三五	一三〇、七二四	一三三、四三一	一三四、九九四	一三四、〇六九

ノ表ノ如クナリサレハ農家一戸當耕地面積ハ必スシモ増加ヲ來ササル事次表ニ依テ之ヲ示サルヘシ

農家一戸當田畑反別表

田畑	昭和六年	昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年
計	九・九	九・九	九・七	九・七	九・八
畑	四・五	四・五	四・四	四・四	四・四
田	五・四 ^反	五・四 ^反	五・三 ^反	五・三 ^反	五・四 ^反

即ち從來ノ開墾ニ向ケラレシ努力ハ漸ク從來ノ農家一戸割ノ耕地地積ヲ維持セムカ爲即チ潰地ノ補充ト農家戸數ノ増加ニ對應セシメムカ爲ニ外ナラスサレハ農家窮乏ノ原因タル耕地ノ不足ヲ緩和シ進テ十分ノ耕作地ヲ與ヘテ生産ノ増加ヲ計リ生計ノ安定ヲ得セシムルノ域ニ達セス茲ニ更生ノ曙光ヲ認メナカラ尙完全ニ窮乏ヲ克服シ得ス況ヤ躍進的發展ヲ見得サル一大原因ノ存スルヲ知り得ヘシ

如上ハ耕地事業カ農村振興上寄與シ來リシ事ヲ示スト共ニ又以テ今後ノ指導方針ヲ規定スル示唆タルヘシ

一、農村振興上耕地事業ノ將來採ルヘキ指導方針

從來ノ耕地事業カ農村振興上如何ナル寄與ヲナセシカハ前項述ヘシ如クナルカ將來採ルヘキカ指導方針ニ付テハ其ノ實績ニ鑑ミ耕地ノ改良ト擴張トニ分チテ述フヘシ

一、耕地ノ改良ニ對シ將來採ルヘキ指導方針

耕地ノ改良ニ對シ從來實施シ來リシ處ハ前ニ實績ノ項ニ述ヘシ如ク主トシテ小用排水及小設備ニ對シテ力ヲ注カレ地方ニ於テモ喜ヒ迎ヘラレタルハ本縣耕地ノ諸施設ノ實情ヨリ觀テ當然ト認メラレ尙他縣ニ比シ數段ノ遅延アリ農業生産上、農業經營上多大ノ損失ヲ招來シツツアル不完全ナル諸設備工事ノ改良ヲ進ムルハ今後ト雖忽緒ニ付スヘカラサル事トス

サレト特ニ農村振興上留意スヘキハ用排水幹線改良事業、普通耕地整理事業ノ普及並屢被レル冷害ニ對スル方策ニシテ左記各項ノ指導ニ努メムトス

(一) 用排水幹線改良事業並普通耕地整理事業ノ普及

耕地改良事業ノ根幹タル本改良事業ハ從來カ適用ヲ見農村振興上多大ノ貢獻ヲナシツツアル處ナルヲ以テ今後ニ於テ改良施設ヲ要スルモノ尠カラサル現狀ニ鑑ミ逐年カ普及發達ニ努メムトス

(二) 暗渠排水

從來施行セル地積僅少ナリシモ漸次其ノ效果ヲ知ルニ及ヒ近時カ施行ヲ希望スルモノ増加シツツアリ此際一層其ノ效果ヲ認識セシムルニ努メ施行ノ獎勵指導ヲ行ハムトス

(三) 田地ノ床締

用水節約、水源費ノ節減、水利紛争ノ緩和等ヨリ見テモ本事業ノ效果大ナルモ特ニ地温ノ上昇ヲ計ラムカ爲本事業ヲ施行セシメ牽曳機ニヨル轉壓器牽曳ニヨリ施工セシムル事トシ工事普及ヲ圖ラムトス

(四) 田地ノ客土

本縣ハ泥炭質土、火山灰質土、砂質土ノ土地多ク稻作上不利大ナルヲ以テ耕土薄キ所ハ耕土ヲ、滲透水量大ナル所ハ良質ノ盤土ヲ夫々客土セシメ以テ土地ノ改良ヲ計ラムトス本事業ハ床締工事ト相伴フ事多ク共ニ冷害克服ニヨル振興上ノ功大ナルヘシト認メラル

(五) 溜池ノ新設並改良

本事業ハ直接的ノ耕地改良ニ非ルモ溜池ニ一度溜溜シタル温度高キ水ヲ灌溉ニ供スル事ハ冷害克服上大ナル效果アル事數多ノ實例ニヨリ實證サレタル處ニシテ又一面降雨量少ナル本地方ニ於テ水源ヲ豊富ナラシメ從來用水管理上ニ拂ヒシ大ナル努力ヲ節約シテ生産方面ニ向ハシムル事ハ間接ニ農村振興ノ一助タリ得ルヘク積極的

ニ本事業ノ指導ヲ行ハムトス

一、耕地擴張ニ對シ將來採ルヘキ指導方針

農家一戸當耕地反別ノ少キ事ハ既ニ記セシクナルモ從來ノ耕地擴張ニ向ケラレシ努力ハ單ニ從來ノ一戸當反別ヲ維持スルニ過キス然ルニ農家經濟ノ窮乏ハ一戸當耕地反別ノ少キニアリ或ハ食糧ノ自給モ十分ナラサル者スラ見受ケラレ況ヤ經營ノ改善、經濟ノ更生ニ資スヘキ施設ニ充當スヘキ金錢收入ヲ得ルモノノ如キハ稀少ナリト云フモ過言ニ非ス依テ

(一) 集團地大規模ノ開墾ヲ行ヒ縣内移住ヲ行ハシメ移住部落ノ建設ニヨリ土地ノ開發ヲ計ルト共ニ一戸當耕地反別ノ増加ヲ圖ラムトス

(二) 前記ノ事業實施ニ際シテ移住者ヲシテ自作農タラシムヘク自作農資金ヲ十分活用セムトス

(三) 尙開墾地ノ經營ニ對シテハ十分ノ指導ヲ行ヒ經濟ノ確立ヲ計ラシメ模範農村タラシムルト同時ニ農村振興ノ契機トシテ活動セシメムトス

岩手縣

一、農村振興上耕地事業ノ實績

一、用排水幹線改良事業

和賀郡笹間村

(一) 事業施行前ノ狀況

本村ノ東半部ハ和賀中央耕地整理組合區域内ニアリ用排水幹線水路完成前ニ於テハ尻平川、宇南川、寒澤川、其ノ他溪流ニ依リ灌溉セラレタリシカ是等水源ノ流域ハ地積狭小ナル爲流下水量常ニ少ク年々旱害ヲ蒙リ或ハ田植ノ時期ヲ失シ或ハ植付不能ニ陥ルコト稀ナラサルノミナラス昭和九年ノ如キ寒冷ナル年ニアリテハ冷水ヲ直

接灌溉スルノ結果屢冷害ノ襲フ處トナリ爲ニ農家ノ負債ハ逐年累加シ停止スル處ヲ知ラサル狀況ナリキ

(二) 事業ノ概況

前項ノ如キ狀況ニアルヲ以テ大正十五年和賀郡中央部農業水利改良事業起ルニ及ヒ同耕地整理組合ニ加入シ事業費總額七十四萬七千九百八十圓九錢ニテ昭和六年度之カ完成ヲ見タリ而シテ水量豊富ナル和賀川ニ水源ヲ求メ上堰、下堰ノ二大用水幹線ヲ以テ灌溉セルニ依リ本村ノ東半部約四百九十五町歩ハ前項ノ各川ヨリ引水スル要ナク從テ地區外區域ハ用水ヲ比較的潤澤ニ使用スルヲ得ルニ至リシ爲地區外ニ對シテモ好影響ヲ與ヘタリ

(三) 事業ノ實績

用水幹線水路開鑿ニ依リ和賀川ヨリ導水灌溉スル結果灌溉排水ハ容易ニシテ植付等モ適期ヲ得又蜿蜒三里ノ大幹線ニ依リ五千分ノ一ノ緩勾配ヲ以テ極メテ緩ヤカニ流下シ來リ自然水溫モ上昇セラルル爲昭和九年度冷害ニ依ル凶作ニ際シテモ尙且次表ノ如キ好結果ヲ與ヘタリ

而シテ舊來ノ儘ノ用水狀態ニ於テ昭和九年ノ凶作ニ遭遇セシモノト想定スレハ同村大字横志田附近即チ八割以上ノ減收地ト同様ノ被害アリシモノト推定セラルルヲ以テ次表ニ示ス如ク實收量ニ於テ三千七百五十四石四合ノ被害ヲ免カルヲ得タリ即チ九萬三千八百五十一圓ノ利益ヲ得タル結果トナルヘシ

和賀郡笹間村昭和九年度凶作比較表

大字名	耕作地積	自昭和四年至同八年		昭和九年實收量		幹線水路未成ノ場合假定		幹線水路開鑿ニ依ル増收量	摘要
		反當收量	總收量	反當收量	總收量	反當收量	總收量		
中笹間	110町	1,775石	1,213石	0,996石	1,099石	0,345石	3,819石	719石	和賀中央耕地整理組合 地區内
南笹間	87町	1,771石	1,566石	0,905石	760石	0,354石	3,904石	483石	同 同

北 笹 間	一六・三	二・三〇	三・九八・七二	一・〇八七	一、八元・四三	〇・四七四	九七・四	一、〇三・六八	和賀中央耕地 理組合 地區内
森 木	八九・〇	二・〇四	一、八五・六八	一・〇四三	九七・元	〇・四二七	三七一・三	五五・五	同
同	八八・九	二・〇四	一、八五・六八	〇・八四	七四・四	〇・四二七	三〇・七	三〇・七	地區外
栃 内	四〇・〇	一・七〇	六四・〇〇	〇・四二	三七・四	〇・四二	一三・八〇	三九・六〇	同
同	九九・二	一・七〇	一、六六・三三	〇・六九九	六九・四	〇・四三	三九・六	三九・六	地區内
同	四・五	一・三三	五三・六	〇・三六	九四・六	〇・三六	四・六	四四・五	同
横 志 田	四二・五	一・三三	五三・六	〇・三六	九四・六	〇・三六	四・六	四四・五	同
尻 平 川	一七・九	一・三六	三三・三	〇・二五	二四・七	〇・二五	二四・七	二四・七	同
計			一四、二五・三		六、五七・〇		二、八三・六	三、七四・〇	同

以上ノ如ク冷害防止ニ對シ極メテ好結果ヲ與ヘタルノミナラス早害ハ全ク防止セラレ早植ニ依リ努力ノ按配良好トナリ用水管理ノ努力ハ副業ニ轉化セル等其ノ振興上ニ寄與セル處尠カラスト雖其ニ及ホセル精神的影響ハ尙優ルモノアリト云フヘシ

二、用水改良事業(昭和七年度匡救事業)

紫波郡志和村

(一) 事業施行前ノ概況

地區内舊田地積約四十二町歩ノ灌溉用水ハ主ニ上記溪流ヲ利用シ來タレルモ近年水源著シク涸渴シ平年ニアリテモ用水不足ヲ感シタメニ番水灌溉ヲ行ヒ來タリシモ之カ爲分水ノ爭議ヲ醸スカ如キ事屢ニシテ遂ニハ流血ノ慘ヲ見ルノ状態ナルヲ以テ早植時ニ於テハ植付不能ニ陥ルモノ不尠前年ノ如キハ植付ヲナササル田地其ノ約三分ノ一即チ十一町歩ニ及ヒタリ

(二) 事業ノ實績

現在利用ノ溪流ヲ堰止メ貯水池ヲ新設シテ舊田地積約四十二町歩ノ補水ヲ行ヒシ爲貯水池完成後ハ以上ノ如キ早害ヲ蒙ル事ナク不安ヲ一掃シ且本地区ハ高嶺ナル山林ニ近キ地域ナル關係上常ニ冷水ヲ受ケ昭和九年度ノ如キハ冷害ニヨリ附近田地ハ五割以上ノ被害ナリシニ比シ本地区ハ貯水ニ依リ温水ヲ灌溉セラレタル結果被害ハ約三割内外ニ止ムルヲ得タリ

本地区事業施行前後ノ收量比較及附近田地トノ冷害ニ依ル收量減收比較

區 分	種別	地積	事業施行前收量		事業施行後收量		利 益	備 考
			收 量	金 額	收 量	金 額		
平 年	米	四町	六四・〇石	一六、三三・〇円	一、〇一・六石	一八、二五・三円	施行前反當平均收量	二・二〇
早 魃 年	同	同	六四・八	一、六四・四	一、〇三・三	一八、三九・六	同	二・四一
冷 害 年	同	同	四三	八、三三・〇	七九・八	三、七六・四	同	一・四〇
備 考	同	同	四三	八、三三・〇	七九・八	三、七六・四	同	一・四〇

備考 平年施行後增收歩合一割、早魃年施行前減收歩合約四割ナリ

冷害年施行後ハ平年ノ三割減、施行前即チ附近ノ田ハ平年ノ五割減ナリ

三、暗渠排水事業(自昭和七年度至同九年度)

岩手郡西山村

(一) 事業施行前ノ概況

本村ハ岩手山ノ南麓標高二百米以上ノ高地ニ在リ村内田地積五百六十四町歩中約三百餘町歩ニ及フ過濕地アリ夫等ノ土地ハ一帯ニ亘リ地下水高ク其ノ水位ハ地表ニ達スル高サニ及ヒ甚シキニ至リテハ冷水ノ田面ニ湧出シツツアル箇所モ少ナカラス從テ耕作上農民ノ努力ヲ徒費スルコト多大ナルノミナラス收量僅ニ七斗乃至一石ナルカ如キ狀況ナルヲ以テ之カ改良ニ對シテハ村民ノ多年苦慮シツツアリシ處ナリシモ其ノ地下水量過多ニシテ

從來ノ經驗ニ徴スルニ小部分ノ工事ニテハ其ノ效果ヲ奏セス現在ニ至リタルヲ以テ天候不順ニ遭遇スレハ直ニ其ノ被害ヲ受ケ收穫皆無トナルコト頻々ナリキ

(一) 事業ノ實績

然ルニ昭和七年時局匡救事業及暗渠排水獎勵補助ノ認メラルルニ至リシヲ以テ好機逸スヘカラストナシ同年度ニ於テ時局匡救事業十八箇所、地積三十七町四反歩、暗渠排水獎勵事業ニ依リ二箇所、地積十五町四反歩ヲ行ヒシニ昭和八年ハ豐作ニ恵マレ工事施行前ニ於テハ僅ニ七斗ノ收量ナリシ過濕田ハ一躍二石三斗ノ收穫アリ益其ノ希望増加セルモ時局匡救事業費少額ナル爲暗渠排水獎勵事業トシテ昭和八、九年度ニ八箇所、地積十二町五反三畝歩ヲ施行セルヲ以テ本村ノ施行地ハ合計二十八箇所、地積六十五町三反歩ニ及ヘリ

昭和九年ノ冷害ニ於テハ暗渠排水未施行地ハ殆ト收穫皆無ナリシニ拘ラス施行地ニ於テハ昭和七年度施行地一反歩一石四斗、昭和八年工事施行直後ノ箇所ニ於テモ幸ニ僅少ナリト雖四斗ノ收穫ヲ擧ゲ得タルニ附近ノ未施行地ハ何レモ皆無ノ慘狀ヲ呈セリ從テ本年事業ニ對スル村民ノ希望ハ熱烈ナルモノアリ目下村役場ニ助成ヲ申請シ來レルモノ七十七名、地積五十三町五反歩ノ多數ニ及ヒタルヲ見ルモ其ノ效果顯著ナルヲ知ルヘシ

事業年度	種別	箇所數	地積	昭和八年年度		同總		昭和九年年度(凶作)		昭和十年年度(冷害)	
				一反歩收量	施行前差額	増收量	當收量	一反歩收量	總收量	一反歩收量	總收量
昭和七年度	時局匡救事業	一八	三三・六反	平均二・〇石	〇・七石	六三・〇石	一・四石	六三・〇石	一・三石	四八・三石	
同七年度	暗渠排水獎勵事業	二	一四・二	二・〇	〇・九	二五・九	一・四	二五・七	一・三	一八・九	
同八年度	同	七	六五・三	—	—	—	—	〇・四	二六・一	一〇	
同九年度	同	一	六〇・一	—	—	—	—	—	—	一〇	
計		二八	六五・〇			八六・七		八六・八		七六・五	

四、小設備事業(昭和八年度匡救事業)

二戸郡小島谷村

(一) 事業施行前ノ概況

本村ハ標高百五十米以上ノ所ニアルモ冷害最激甚ナル箇所ニシテ田面積約百三十餘町歩アリ

本村中央部水田二十八町四反歩ハ専ラ本水路ノミニヨリ灌溉サレツツアリ本工事箇所ハ元木造掛樋ナリシモ全ク腐朽シタル爲用水ノ大半ハ本掛樋ヨリ落水シ其ノ下流部ハ常ニ用水ノ不足ヲ來シ植付期遅ルルノミナラス甚シキニ至テハ植付不能ノ地ヲ生スルコト稀ナラス之カ改修ハ多年ノ懸案ナリシモ完全ナル掛樋ニ改造セムトスレハ桁下約六十尺ノ高キニアルヲ以テ樋脚ノ建設費ニ莫大ナル工費ヲ要スル爲止ムナク放置セラレタルモノナリ

(二) 事業ノ實績

然ルニ昭和八年度匡救事業ノ恩恵ニ浴シ逆サイフォンニ改修ヲ完成シタル結果、用水不足ノ不安ハ一掃サレ別表ニ示スカ如キ利益ヲ得ルニ至レリ表中野中、穴久保、野里上字ノ甚シキ減收ハ植付期遅レタルト土質ノ惡シキニ因ルモノニシテ上里、仁昌寺、篠田字ノ増收ハ植付期ノ適期ヲ得タルト品種優良ナルニ因ルトコロ大ナリト雖昭和九年度ニ於テハ幸ニ本サイフォン完成サレタルヲ以テ收穫皆無ヲ免レ收量九十一石七斗、金額ニ於テ二千二百九十三圓餘ノ利益ヲ得タリ

字名	耕作地積	昭和九年實收量		逆サイフォン未完成ノ場		逆サイフォン完成ニヨル	
		反當收量	總收量	反當收量	總收量	増收量	金額
上里	三三・四町	一・〇石	三三・四石	〇・七石	三三・六石	三・六石	四

差引利益						
			二年三毛作 =付年産		二八・〇〇	
						一三・八〇
						八・二〇
						五二・八二

右ノ外蔬菜畑五反歩アリ馬鈴薯、大根、瓜類等ヲ栽培セルモ工事施行前後ニ於テ變更ナシ

(四) 事業ノ效果

(イ) 畑作ノミノ自作農ニシテ年々飯米十石ノ購入ヲ爲シツツアリシカ一町歩ノ開田ニ依リテ之カ自給自足ヲ爲スト共ニ生活ノ向上ヲ來シ尙餘剩米ヲ信用組合ヲ通シテ販賣セル處村内ニ水稻田ナク年々ノ飯米購入五百石其ノ他雜穀ニ於テモ不足シ年々六百石ニ上ルカ如キ状態ナルヲ以テ忽チ村内ニテ消化セラレタリ

(ロ) 藁ハ從來之ヲ村外ニ仰カサルヘカサルノ狀況ニシテ養蠶其ノ他副業ニ於テ困難シ居リシカ之カ自給ニ依リ冬期積雪間ノ勞力利用並副業經營ニ至大ノ好影響ヲ與ヘタリ

(ハ) 水田ハ畑作ニ比シ勞力ヲ要スルコト少ナケレハ勞銀支出ヲ少クシ且雇ハレ勞力ヲ増加スルヲ得タリ

(ニ) 收入増加、支出ノ節約ニ依リ舊債ノ償還、農事ノ改善等更生ノ一路ニ邁進シツツアリ
要スルニ開田總地積十四町步餘ニシテ地積少ナリト雖曾テ見サル水稻ノ收穫ヲナシ食糧自給ノ範ヲ示シ養蠶業不振、各種産業ノ不況ニ依リテ喰フニ糧ナク購フニ金ナク塗炭ノ苦ニ喘キ萎靡沈退シ自棄的氣分ニ陥リシ本村民ニ一條ノ光明ヲ與ヘ更生ノ氣ヲ喚起セシメ本村振興ニ絶大ノ寄與ヲ爲シタリ

六、小設備改良事業(昭和九年度匡救事業) 和賀郡笹間村

(一) 事業施行前ノ狀況

本村ハ一般ニ道路ノ數少ナク又各道路ノ連絡宜シキヲ得サルノミナラス土質一般ニ透通性ニ乏シキヲ以テ濕潤期ニ於テハ細道ハ勿論、主要路線タル縣道瀬畑線ニ至ル迄泥濘膝ヲ沒スル惡道トナリ交通運搬上支障甚シク振

興計畫ノ進捗ヲ阻害スルコト夥シキ狀況ニアリ

(二) 事業概況

農道改良又ハ新設ハ農村振興上主タル要素タルハ敢テ記述ノ要ナシト雖較近運搬機具ノ變遷著シク貨物自動車「リヤーカー」等ノ農業上ノ利用急速ニ増大セル結果幹線道路、耕作道ニ於テ其レ等運行ニ支障ナカラシムルハ最急速ヲ要ス依テ本村ニ於テハ農村計畫ヲ樹立シ時局匡救耕地事業トシテ先ツ農道ノ改廢、新設工事ニ着手シ尙引續キ冷害對策耕地事業ヲ以テ逐次之カ施行ヲ爲シツツアリ其ノ工事成績次ノ如シ

路線名稱	延長	幅員	工事施行額	施行年度
計第一號線ノ内	七二・一〇〇*	三・五*	一、七三〇・〇〇 ^円	昭和九年度匡救事業
計第一號線ノ内	一、二一八・五〇	三・五	二、九五〇・〇〇	"
計第四號線	一、八一〇・〇〇	三・五	三、九七〇・〇〇	"
計第六號線	六七一・〇〇	三・五	一、三〇〇・〇〇	"
計第八號線	一、三一七・〇〇	五・〇	四、六八〇・〇〇	"
計第三號線ノ内	七二八・〇〇	五・〇	一、三八〇・〇〇	"
計第五號線ノ内(延長部分)	九五九・〇〇	五・〇	一、八〇〇・〇〇	"
計第八號線ノ内	一、二〇五・七〇	五・〇	二、八五〇・〇〇	"
計第三號線ノ内	三、六七二・〇〇	五・〇	五、四七〇・〇〇	同 十年度冷害對策事業
計第四號線ノ内	一、〇六〇・〇〇	三・五	一、一四〇・〇〇	"
計第七號線	一、四一七・〇〇	五・〇	四、六〇〇・〇〇	"

計第七號線延長部分	三五〇・〇〇	五・〇	一、五〇〇・〇〇	昭和十年度冷害對策事業
計第九號線改修線	三、三六一・〇〇	五・五	四、一三〇・〇〇	〃

(三) 事業施行ニ因ル實績

農村計畫ニ於ケル農道ノ改良、新設事業ハ未タ完成ニ至ラストハ雖振興上ニ於ケル其ノ成果誠ニ見ルヘキモノ多ク或ハ生産物販賣、肥料購買ニ於ケル運賃ノ低下、或ハ火災擴大ノ防止上、或ハ植付ニ將又挿秧等ニ及ホス直接ノ利益ハ元ヨリ尙間接ニモ亦生活ノ改善ニ、或ハ餘剩勞力ノ轉化ニ依リ有畜農獎勵、副業ノ普及ニ、又思想善導ニ其ノ利スル處枚擧ニ追ナシト雖今數學的ニ統計シ得タルモノノミニ限り之カ利益ノ程度ヲ掲記スレハ次表ノ如シ

イ、道路工事施行ニ依ル直接ノ利益

種別	利益金額	記	事
購入金肥運賃ノ利益	一、七七〇	本村ニ於ケル昭和九年金肥ノ購入數量ハ七千八十噸ニ及ヘルモ道路工事施行ノ結果其ノ運賃一噸當十五錢乃至三十五錢平均二十五錢低下セシムルヲ得タリ	
耕作上ノ利益	九、九〇〇	厩肥搬入又ハ農産物ノ搬出ニ於ケル利益平均反當一人五分、單價六十錢、作反別一千百町歩餘付	
農産物販賣上ノ利益	二、八四九	農産物ノ集散地黒澤尻町、花巻町ニ至ル幹線道路變成ニヨリ農産物賣價一般ニ高騰シ石三十七錢ノ値賣高、昭和九年度ノ米穀移出量七千七百石	
計	一四、五一九		

ロ、道路工事施行ニ依ル間接ノ利益

(イ) 工事施行ノ爲得タル勞賃ノ轉化ニ依リ無職者カ一定ノ營業ニ付キタル者 三十戸

要救濟者ノ減シタル數 四人

小學校兒童ノ缺食者ノ減シタル數 九人

(ロ) 小農者ニシテ從來資金ノ融通ニ苦シミ不如意ナル農業經營ヲ爲シタル者ノ耕馬若クハ「リヤーカー」等ノ購入ヲ爲シ得ルニ至リタルモノ五十三人

(ハ) 農耕上利益シタル勞力、資金ノ轉化等ニ依リ有畜農資金トシテ昭和九年度ニ於テ購入シタル牛、綿羊、豚六十五頭及鶏一千五百羽、此金額三千七百三十九圓ニ及フ

(ニ) 低學年兒童ノ通學ニ際シ父兄ハ泥濘ナル道路ノ歩行ヲ常ニ苦慮セルモ道路改良工事施行以來其ノ杞憂キ免レ又疾病ニ對スル醫師ノ來應診ノ容易ナルニ依リ精神的ニ安スル等利スル處至大ナルモノアリ

前記ノ如ク道路工事施行ニ依リ直接、間接ニ利益ヲ得延テハ農業經營ヲ逐次隆盛ナラシメ厩肥ノ増産、獎勵、男女青年團員ノ指導訓練、國縣村稅ノ納入成績ノ向上等殆ト模範農村トシテ恥サルニ至リツツアリ

七、開墾助成事業(自昭和六年度至同七年度)

九戸郡宇部村

(一) 事業施行前ノ狀況

本開墾地ハ九戸郡宇部村小倉山國有林ニシテ從前放牧地トシテ利用セラレタルモノニシテ地勢一般ニ南ヨリ北ニ傾斜シ地區内ニ相當起伏アルモ土性ハ腐植質壤土ニシテ作物栽培上好適ナル土地ナリ

本組合員十五名ハ悉ク小作者ニシテ平均耕作地積五反歩ニ過キス因テ農業ノミニテハ到底其ノ生計ヲ維持スルコト能ハス漸ク日傭等ニテ糊口ヲ凌キツツアリシカ近時各種産業ノ不振ニヨリ經營全ク不可能ニ陥リ負債ハ益増加スルノミニシテ總額三千八百圓餘ニ達シ現狀ニテハ到底更生ノ道ナキ窮境ニ陥リタルヲ以テ本組合長ハ自作農創設ヲ決意シ營林當局ト交渉ノ結果前記國有林四十七町四反歩ノ貸付ヲ受ケ耕地整理組合ヲ組織シタリ

(一) 事業ノ実績
 本事業ハ自作農創設ノ目的ニ依リ昭和六、七兩年ニ亙リ事業費二萬八千二百八十六圓ヲ投シ山林四十三町七反九畝歩ノ開畑ヲナシ全組合員十五戸ノ移住ヲ完了シタリ茲ニ昭和八年度ニ於ケル經營狀態ヲ掲ケテ參考ニ資ス

農産物收量調

作物	作付反別	收量	價額	摘要
大麥	二町九〇	二三・七	一六三・八〇	
小麥	四・九〇	三二・六	三九〇・八〇	
大豆	一一・一〇	六八・八	六八八・〇〇	
粟	三・九八	一八・三	二五六・二〇	
蕎麥	四・四〇	二八・一	二八一・〇〇	
稗	四・五五	一八・〇	一四四・〇〇	
馬鈴薯	一六・三〇	三二六・〇	一、六三〇・〇〇	
蔬菜	一一・一〇	二一六・〇	二一六・〇〇	
計	一一・二一	二一六・〇	三三六・〇〇	一月當生産額二七三・七三
			四、一〇五・八〇	

總收入支出調

種目	金額	摘要
農産物	四、一〇五・八〇	
勞務	四、一〇五・八〇	
肥料	三、一五三・一〇	
農具	五八六・五〇	
農具損料	一一七・五〇	
公租公課負擔金	一〇二・〇八	
計	三、九五九・一八	一月當九圓七七
差引利益	一四六・六二	

現金收入支出調

種目	金額	摘要
農産物	八七五・〇〇	木炭
林産物	二、三五〇・〇〇	
畜産物	一四九・二二	
勞務	六六八・〇〇	被傭勞力
計	四、〇四二・二二	

(三) 事業施行ニ依ル実績

開墾ハ一致協力専ラ自力ヲ以テ完了シ尙營林署ノ各種作業ノ賃金ノ幾分ト農林産物ノ共同販賣及共同作業ニ依ル益金ヲ貯蓄シ共同農具、共同作業場ノ設備等隣保共助ノ精神ニ則リ逐次理想郷ノ建設ニ努力シツツアリ現在ニ於ケル成績次ノ如シ

貯金調

- イ、共濟積立金
- ロ、各組合員貯金
- ハ、農林業經營自己資金積立金
- ニ、共同施設事業準備積立金

計

一三・〇〇
三八〇・四六
六一七・六一
八六三・八六
一、八八四・九三

外ニ共同農具五種(價額百六十五圓) 鍮詰用機械二種(價額百十五圓十錢) 製糶機其ノ他(價額八十圓)等ヲ所有ス

而シテ昭和十年四月本部落ノ經濟更生計畫ヲ決定シ各種産業ノ共同化、土地勞力利用ノ合理化、經營組織ノ多角形化ニヨル收入ノ恒久的増加ヲ計ルト共ニ一面生活改善ニ依ル經費ノ緊縮ヲ實行シ以テ今後十年ヲ期シ一萬二千圓相當ノ經濟力ヲ蓄積セムトス

斯シテ全ク共同精神ヲ以テ各種事業ニ當リ勞力ノ按配宜シキヲ得テ交通全ク不便、標高高ク極メテ不利ナル状態ニアルニモ拘ラス其ノ成果著シク農村振興ノ一範トシテ齊シク刮目スルトコロナリ

九、開墾助成事業(自昭和七年度至昭和八年度)

下閉伊郡小本村大牛内耕地整理組合

(一) 工事施行前ノ概況

本村ハ縣ノ東海岸ニ位シ耕地ハ畑地ノミニシテ然モ農家一戸當僅ニ六反歩ニ過キス故ニ昭和八年ノ大豐作ノ年ニ於テスラ年消費糧食ノ三分ノ一ヲ充スニ過キサルノミナラス既耕地ノ大部ハ溪谷低地ニアリ日照及通風惡シク爲ニ昭和九年ニ於テハ其ノ被害程度特ニ激甚ニシテ皆無トナリシ箇所モ尠カラス

(二) 事業ノ実績

然ルニ昭和七年及同八年ノ兩年度ニ於テ匡救事業トシテ施行セル大牛内開墾地百一町三畝歩、五十戸(大牛内耕地整理組合四十五町歩、十八戸、清水野耕地整理組合六十六町三畝歩、三十二戸)ハ平坦高臺地(標高百五十米)ナルモ日照及通風ヨク又道路及區劃ハ整備サレ側溝ニヨリテ排水完全ナルタメ被害程度大イニ緩和セラレ附近畑ハ七割以上ノ減收ナルニ拘ラス開墾地ハ比較的僅少ニシテ麥、稗、粟ハ八分作、大豆ハ六分作以上ノ好成绩ヲ得加フルニ一戸當耕地地積二町二反二畝餘歩ヲ有セシメタル爲移住農家五十戸ハ之カ收穫ヲ以テ凶作ニ遭遇セル昨秋ニ於ケル收量ニテモ本年ノ食糧ヲ自給スルヲ得タリ

即チ本開墾地ハ氣候、地形其ノ他生産の條件ニ恵マレサルモ開墾地大ナル地方ニ於ケル農業經營ハ集約的ナラシムルヨリモ寧ロ耕地ヲ擴張シ移住ヲ行ヒ耕作地積ヲ増大シ以テ總量ノ増加ヲ計リ而シテ氣温ノ寒冷ニヨル被害ヲ免レシメ食糧ノ自給自足ヲ行ヒタル適例ナリト謂フヘシ

重ナル畑作物總收量及一戸當收量

種目	作付地積	反當收量	總收量	一戸當收量		備考
				總收量	計金	
麥	〇・〇五町	〇・〇石	一・〇〇〇石	一〇・〇石	一〇・〇〇〇圓	凶年ニ於テモ附近畑地ノ平年作ト同等ノ收量ヲ擧ケタリ
稗	〇・〇三町	〇・〇石	一・一〇〇石	一三・〇石	一三・〇〇〇圓	
			計	計	計	
			一・一〇〇	一〇・〇	一三・〇〇〇	

大豆	三〇・〇	〇・七	三・〇	二・三〇	四・三	四・〇	凶作ニ於テモ附近畑地ノ平年作ノ八分作
計	一四〇・〇	三・三〇	一九八・〇	六・三	三九・二〇		

備考 一、作付地積ニ於テ大豆ハ麥ノ間作ヲ行ヒタルヲ以テ作付地積ハ重複セリ
 二、尙麥、稗、大豆ノ外粟、蕎麥ヲ作付セルモ省略セリ

一、農村振興上耕地事業ノ將來採ルヘキ指導方針

一、他ノ農村振興計畫ト相俟テ耕地ニ關スル一切ノ事業ヲ十箇年ニ施行スヘキ計畫ヲ樹立シ之カ實行ヲナスコト
 即チ本縣ニアリテハ東北振興十箇年計畫ニ則リ縣内二百三十七箇市町村ヲ大體十等分ナシ前記方針ニ基キ實行ヲ
 ナサムトス
 之カ爲ニ本省ニ專任係官ノ設置ヲナスト共ニ地方ニ主任官外數名ノ專任技術員ノ配置ヲ要ス
 二、氣候其ノ他ノ條件ヲ考慮シ全國ヲ適宜地方的ニ區分ヲナシ農業土木上必要ナル試驗ヲナシ天然事情ノ克服ニ資
 スヘク農業土木試驗地ノ設置ヲナスコト

宮 城 縣

一、農村振興上耕地事業ノ實績

本縣ニ於ケル耕地總地積ハ田九萬八千五百六十九町步、畑五萬六千七百七十一町步、合計十五萬四千七百四十町步ニシ
 テ耕地ハ一般ニ灌溉排水狀態不良ナルノミナラス道路ノ配置亦不完全ニシテ交通運搬等ニ支障ヲ生スルモノ甚タ多シ
 此カ爲頻年、水害、旱害、雪害、冷害等各種ノ災害ヲ受ケ作毛ノ損害甚タ多ク之カ改良、防止ハ農村振興上焦眉ノ急
 ニ迫レル狀態ナリ

本縣ニ於ケル耕地整理事業ハ昭和十一年五月末日現在ニ於テ施行地區數六百七十六箇所、總地積五萬八千九百三十一
 町步ニシテ其ノ内工事完了セルモノ五百二十五箇所、其ノ地積四萬三千五百三十二町步、換地處分ノ認可ヲナセルモノ
 ノ四百二箇所、其ノ地積三萬八千五百三十二町步、事業終了セルモノ二百七十三箇所、其ノ地積二萬六千三百三十九
 町步ニシテ此等整理施行ノ効果ハ頗ル顯著ニシテ交通運搬ニ便ニシテ灌溉排水良好トナリ、耕耘肥培ニ利シ、水害、
 旱害、冷害等各種災害ヲ防除シ農村振興上其ノ功績著大ナリ

開墾助成事業ハ大正八年六月開墾助成法施行以來漸次發達シ昭和十一年五月末日現在ニ於テ助成承認地區數九十四箇
 所、開田地積五千三百三十三町步、開畑地積一千七十町步、合計六千二百三十三町步アリ此等ハ耕地不足ノ地方ニ農耕地ヲ
 與ヘ農産ノ増殖ヲ來シ農村振興上裨益スルトコロ亦寡カラス

用排水改良事業ハ縣營トシテ施行ニ屬スルモノ總計十八箇所、其ノ受益總地積二萬六千五百五十町步、事業費豫算總額
 六百五十三萬一千四百八十八圓ニ達シ其ノ内七箇所、受益地積八千四百四十五町步ハ既ニ工事完了シ從來ノ旱害又ハ水
 害地方ノ耕地ハ全ク其ノ被害ヲ免レ農村振興上多大ノ効果ヲ收メタリ

昭和七年度乃至同九年度ニ至ル三箇年繼續ヲ以テ施行セラレタル時局匡救耕地事業モ用排水改良、小用排水改良、二
 年量開墾、小開墾、小設備改良及暗渠排水等各豫期ノ目的ヲ達シ普遍的ニ窮乏農民ニ勞銀ヲ與フルト共ニ耕地ノ擴張
 改良ヲ圖リ其ノ實績良好ナリ又昭和十年度乃至同十一年度ニ於テ施行ノ凶作對策耕地事業其ノ他各種災害復舊耕地事
 業モ普遍的ニ窮乏農民ニ勞銀ヲ與ヘ且耕地ノ改良擴張ニ依リ農産ノ改良増殖ヲ來シ農村振興上其ノ効果多大ナルモノ
 アリ其ノ詳細ハ次ノ如シ

其ノ一、耕地整理事業

本縣ニ於ケル耕地總地積ハ田九萬八千五百六十九町二反步、畑五萬六千七百七十一町一反步、計十五萬四千七百四十町
 三反步ニシテ耕地ハ一般ニ灌溉排水狀態不良ナルノミナラス道路ノ配置亦不完全ニシテ交通運搬等ニ支障アルモノ甚

ク多シ此カ爲頻年水害、旱害、雪害、潮害、冷害其ノ他ノ被害ヲ受ケ損害多カリシヲ以テ縣ニ於テハ耕地整理事業ニ對シ事務及工事費ノ助成ヲ爲シ獎勵ヲ圖リタル結果昭和十一年五月末日現在ニ於テ施行地區數六百七十六箇所、總地積五萬八千九百三十一町步ニ達シ全國第二位ヲ占ムル狀態ナリ今其ノ進捗狀況ヲ示セハ左ノ如シ

組合設立認可		工事完了		換地處分認可		事業終了	
地區數	地積	地區數	地積	地區數	地積	地區數	地積
六六	天、九三町	五五	四、五三町	四三	六、五三町	三五	二六、三九町

前表中舊耕地整理法ニ依ルモノハ百五十地區、總地積一萬一千八百五十七町步アリ其ノ他ハ現行耕地整理法ニ依リ施行中ノモノナリ而シテ工事完了後換地處分等末済ノモノアルヲ以テ目下之カ施行ヲ督勵シツツアリ
尙耕地整理事業中主ナルモノノ實績ヲ舉ケレハ左記ノ如シ

名取郡愛嶋村耕地整理組合事業實績

一、地區ノ現況

本地區ハ愛嶋村北目、小豆島、笠島ノ三大字ニ亙ル一團ノ耕地ニシテ本村ノ東南部一帯ノ地ニ位ス地形東西約一千二百間、南北約一千百間ヲ有シ稍々方形ヲ呈ス地勢一般ニ西方ヨリ東方ニ向ヒ傾斜シ概ネ五百分ノ一ノ勾配ヲ有ス全地積三百九十五町四反二畝二十四步ヲ算シ其ノ地目別地積左ノ如シ

地目	地積	地目	地積
田	二六七・六五一八	畑	一四・二二一八

宅地	山林	原野	池沼	雜種地	國有地	丈量地	總計
〇・〇三三	〇・〇三一五	〇・〇八〇五	〇・〇四二一	〇・〇二〇	二〇・〇九二九	九三・二四〇五	三九五・四二二四

二、計畫ノ概要

(一) 用水計畫

本組合地區ノ用水ハ名取川ヲ水源トシ高館村熊野堂地内六郷堰ヨリ取入上江堀ヲ廻リテ回水ヲ爲スノ慣行ニ從ヘリ而シテ灌漑引水用水路ハ其ノ支配地積及灌水ノ難易ノ程度ニ依リ斷面ヲ決シ三十間毎ニ此ノ路線ヲ配置シタリ更ニ用水期ニ於ケル補水計畫トシテ溜池ノ改築及新設ヲセムトス

主要工作物ノ内譯

- (1) 水門二箇所、(2) 井堰十六箇所、(3) 土管三百七十三箇所、(4) 溜池ノ改築 貯水量百三十九萬七千七十九立方尺

- (5) 溜池ノ新設 貯水量百五十二萬八千六百二十六立方尺

(二) 排水計畫

從來地區内ニ於ケル排水ハ用排兼用ノ屈曲著シキ溝渠ニ依リタレハ降雨出水ノ際ハ排水極メテ悪シク灌水ノ夥シキ場所アルニ鑑ミ流域勾配等ヲ參酌シテ相當斷面ヲ有スル第一號乃至第四號ノ排水幹線ヲ設ケ更ニ横堀ノ斷面擴張ヲ行ヒ從來地區ノ南北兩邊ヲ東走スル川内堀及二間堀ニ於ケル排水能率ト相俟テ其ノ完全ヲ期セムトス

主要工作物 樋管六箇所

(三) 交通計畫

道路ハ樞要部落ノ連絡、支配地積ノ大小、他町村ニ通スル地區外道路トノ連絡等ヲ考慮シテ相當斷面幅員ヲ定メ概ネ縱線ハ六十間毎ニ設ケ之ニ適當ノ橫線ヲ配置ス
 主要工作物 橋梁五十三箇所

(四) 堤塘計畫

堤塘ノ斷面ハ水路ノ大小ニ應シ加減シ即チ上幅一間八分、下幅八分、深サ五分ノ水路級ニ對シテハ上幅五分、下幅七分、高サ二分トシ其ノ他ノ小水路ニ對シテハ上幅二分、下幅四分、高サ二分トシ其ノ他ハ一般ニ上幅二分、下幅三分、高サ一分五厘ニ決ス

(五) 區劃計畫

區劃ハ可成同高線ニ竝行シテ長邊ヲ置キ長三十間、幅十間ノ長方形トシテ地積一反步ヲ標準トシ一部急勾配ノ所ハ長邊二十間、短邊七間五分ノ五畝歩ニ計畫シ從テ畦畔幅ハ三分ト爲ス之ニ依テ牛馬耕並其ノ他耕作上ノ能率ヲ増進セシメ且農業經營上ノ便利ヲ享ケシム

三、工事施行後ノ利益

本組合ノ工事ハ大正十四年度ニ着手昭和四年八月竣功セリ
 耕地整理施行ノ結果田ハ三百二十九町八反三畝七步、畑十五町四反二畝十二步之ニ國有地五十町十二步ヲ加ヘテ總地積三百九十五町四反二畝二十四步トナレリ水田ハ水稻ヲ主作トシ一部所ニ依リ二毛作ヲ爲スヲ見ル
 畑ハ麥、豆作ヲ主トシテ桑作、蔬菜等ノ栽培ヲナスモノ漸次増加ス
 一般ニ耕地ハ施行前ニ比シ品位著シク向上シ且排水設備ノ効果ヲ奏シ其ノ經營極メテ合理的ニ進ムルヲ得農業上ノ利用ハ年ト共ニ増進セラレツツアリ
 其ノ施行ニ依ル利益ノ概算ヲ示セハ次ノ如シ

地目	總地積	反當收量			總增收量	同上換算額	諸經費反當支出高	同上總額	差引利益
		施行前	施行後	増差量					
田	三九八反	二〇〇石	二〇四石	〇・四〇石	一、三九〇石	三、九七五円	一六四九〇円	一六四八五円	
畑	一五〇反	二〇〇石	二〇四石	〇・四〇石	三三〇石	三、四八八円	四六五	一三三	
計	五四八反	四〇〇石	四〇八石	〇・八〇石	一、七二〇石	七、四六三円	一六五五五	一六六二六	

備考 總增收量換算額ハ米石二十五圓、麥石八圓、大豆石十五圓トス
 四、工事費其ノ他一切ノ費用

種目	金額	種目	金額
道路新設費	一四、一〇〇・五九	經始測量費	一、五〇五・八七
水路新設費	一一、四六四・八八	工事監督費	一、五五五・九〇
堤塘新設費	二、二七五・〇三	小計	一二五、六二四・八三
畦畔新設費	三、六八五・八六	桑葦澤溜池新設費	二七、五三七・六一
地均取費	二一、八三〇・九五	大澤溜池新設費	九、四九二・六〇
舊導水路堤塘畦畔取費	一三、七七八・九八	小計	三七、〇三〇・二一
崩及埋立費	三四、四〇四・七〇	事務費一切計	一七、〇六九・一七
水開費	二〇、〇二二・〇七	合計	一七九、七二四・二一
橋梁費			

其ノ二、開墾助成事業

本縣ハ開墾適地多キニ拘ラス農家一戸當耕作地積ハ平均一町四反歩ニシテ之レ以下ノ小農家非常ニ多ク農家全戸數ノ六割以上ニ及フ状態ニアルヲ以テ開墾事業ヲ行ヒ其ノ耕作地ヲ擴張スルノ要アリ故ニ縣ハ大正八年六月開墾助成法施行以來其ノ勸奨ニ努メタル結果本年三月現在ニ於テ開墾助成地區九十四箇所、此地積六千二百八十八町二反三畝二十五歩ヲ算シ事業施行後ノ成績概ネ良好ナリ今開墾事業中主ナルモノノ實績ハ左ノ如シ

登米郡米山村短豪耕地整理組合事業實績

一、地區ノ現況

本地區ハ登米郡米山村地内迫川左岸ニ位シ廣大ナル原野及大具沼、平湯沼等大小數個ノ池沼ヨリ成リ其ノ總地積一千四百餘町歩アリ土質ハ北上川及迫川ニヨリテ形成セラレタル沖積層ニシテ表土ハ植實壤土ニ屬シ心土ハ植土ヨリ成リ所ニ依リ異ナルト雖平均一尺内外ノ腐植土アリテ地味一般ニ肥沃ナリ地下水位ハ季節ニヨリ異ナルモ冬季間ハ低ク夏期ニ於テハ三、四尺ノ間ニ在リ
本地區ハ概ネ平坦ニシテ且北上川及迫川ノ合流點ニ近キヲ以テ一朝豪雨ニ際會スレハ全地區ハ之カ遊水地帯トナリ湛水十數日ニ及フヲ常トスルヲ以テ古來芹、茅其ノ他雜草ノ自然繁茂ニ委シ農耕地トシテ何等利用スル企圖ヲナス能ハサルノ状態ナリキ

二、事業ノ計畫説明

現況ニ於テ述ヘタル如キ本地區ヲ左ニ項ヲ分チテ説明スルカ如キ工事ヲ施行シ田、畑トナシ農業上ノ利用ヲ増進シ地方産業ノ開發ヲ計ラムトス

(一) 排水計畫

(イ) 外水排除

地域ハ迫川洪水時ニ際シテハ河水湛水地タルヲ以テ本開墾ノ目的ヲ達スル爲先ツ迫川ニ添ヒテ堤防ヲ繞ラシ以

テ外水ノ排除ニ備ヘムトス本計畫ニ於テハ堤防天端幅員ヲ二間、表法二割、裏法一割五分トシ盛高最高十二尺、最低五尺トス

(ロ) 内水排除

地區内水及一部地區外ヨリノ排水排除ハ努メテ自然排水ニ依リ西揚水機場及用排水機場樋門ニ依リテ迫川ニ排水スルモ迫川ノ水位上リ自然排水不可能トナリタル時ハ黒谷地用排水機ニ依リテ之ヲ機械排水スルモノトス其ノ計畫左ノ如シ

ポンプ 口径二八吋 渦巻ポンプ二基 全揚程一五尺 揚水量三二・五立方尺毎秒

原動機 一〇〇馬力ディーゼル機關二基

(二) 用水計畫

地區隣接地古田及附近開田地竝地區減水量調査等ヨリ考察シテ單位用水量ヲ〇・〇五町秒尺ト決定ス地區水源ヲ迫川ニ求メ前記黒谷地用排水機ニ依リテ揚水シ迫川堤防添幹線水路ニヨリテ導水シ適宜支線ニ分水灌溉スルモノトス

右揚水機ノ外苗代灌溉用トシテ小型揚水機二基ヲ設置セリ其ノ計畫左ノ如シ

(イ) 東揚水機

ポンプ 口径六吋渦巻ポンプ一基、全揚程一一尺 揚水量 七二立方尺/分 原動機 五馬力石油發動機

(ロ) 西揚水機

ポンプ 口径八吋渦巻ポンプ一基、全揚程一一尺、揚水量一七〇立方尺/分 原動機 七馬力石油發動機

(三) 區劃

田畑、一區劃ノ大サハ長邊四十間、短邊十五間、地積二反歩ヲ標準トセリ

(四) 道路計畫

地區内外ノ交通運搬ニ便スル爲幹支線道路ヲ配置セリ幹線ニハ有効幅員十五尺及九尺ヲ、支線ニハ六尺及三尺ヲ採用セリ

(五) 開墾地移住計畫

本地區耕地擴張地積ハ頗ル廣大ニシテ附近農家ニ耕作セシムルモ尙勞力ニ不足ヲ告クルコト甚シキヲ以テ新ニ三百七十餘戸ノ移住計畫ヲ樹テ宅地十五町餘歩ヲ造成セリ

(六) 開墾計畫

本地區ニ於ケル排水及用水工事ハ組合全工事ノ成功ニ及ホストコト甚大ナルヲ以テ昭和二年工事ニ着手スルト同時ニ先ツ之等ノ防水、排水、灌漑工事ニ主力ヲ盡シ第四年度ヨリ逐次開墾ニ着手シ昭和十年八月ヲ以テ一千四百町歩ノ耕地擴張工事完成シ全ク美田ト化スルニ至レリ

三、工事施行後ノ利益

(一) 一時的利益

地目	工 事 前			工 事 後			比 較	附 記
	地積	反當價格	總價額	地積	反當價格	總價額		
田	町	—	—	町	—	—	—	—
畑	町	—	—	町	—	—	—	—
宅地	—	—	—	—	—	—	—	—
山林	町	—	—	町	—	—	—	—
計	町	—	—	町	—	—	—	—

地目	工 事 前			工 事 後			比 較	附 記
	地積	反當價格	總價額	地積	反當價格	總價額		
原野	町	—	—	町	—	—	—	—
池沼	町	—	—	町	—	—	—	—
計	町	—	—	町	—	—	—	—

(二) 生産増加ニ依ル利益

イ 自作ノ場合

地目	工 事 前			工 事 後			比 較	附 記
	地積	反當價格	總價額	地積	反當價格	總價額		
田	町	—	—	町	—	—	—	—
畑	町	—	—	町	—	—	—	—
宅地	—	—	—	—	—	—	—	—
山林	町	—	—	町	—	—	—	—
原野	町	—	—	町	—	—	—	—
池沼	町	—	—	町	—	—	—	—
計	町	—	—	町	—	—	—	—

ロ 小作ノ場合

地目	工事前		工事後		比較	附記
	地積	反當價格	地積	反當價格		
田	四、八七〇	七五〇	一、四六、七〇八	二、五〇	三三、八五八	
畑	六、五二八	七五〇	七〇、九三四	六、〇〇	三、七六六	
宅地	八、八七八	三〇〇	一六、七〇四	五、〇〇	三、七六六	
山林	一、三八、七〇七	三〇〇	五〇、三〇八	二、〇〇	四〇、五〇三	
原野	二、九、九三六	二〇〇	一、八〇〇	〇、〇〇	五九、八七	
池沼	一、四〇、〇三九	四、三五六	一、二八、七九七	三、七〇	四〇、八四二	增九、九三〇
計						

ハ一 反步當收支計算表

(イ)、工事前

地目	作物	收		入		支		出		差引	附記	
		收量	單價	金額	雜收入	金額	勞銀	肥料代	農具			公租
田	桑	二〇〇	三〇〇	六〇、〇〇〇	一、八〇〇	三、〇〇〇	一、四〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	自作ノ場合公租公課中ニ水利費ヲ合算
畑	水稻	二〇〇	三〇〇	六〇、〇〇〇	一、八〇〇	三、〇〇〇	一、四〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	自作ノ場合	
畑	水稻	二〇〇	三〇〇	六〇、〇〇〇	一、八〇〇	三、〇〇〇	一、四〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	自作ノ場合	
原野	茅	七、七	〇、八〇	六、一六〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	小作ノ場合	
山林	薪木	一〇〇	〇、一〇	一〇、〇〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇		
計												

(ロ)、工事後

四、工事費其ノ他一切ノ費用(昭和十年八月末日工事完了迄)

科	目	入		出		差引	附記
		金額	雜收入	金額	計		
道	路費	八三、一八六	〇、七九	一四三、〇二〇	〇、二〇	一、七三二	九〇
水	塘費	一六、九三〇	〇、〇九	一、七三二	〇、九〇	一、七三二	九〇
堤	塘費	二〇、〇二二	〇、九二	一、七三二	〇、九二	一、七三二	九〇
揚	水機費	五二、七六五	〇、九九	二、七六四	〇、一五	二、七六四	一五
建	造物費	三〇、四五六	〇、七七	三、七三九	〇、七四	三、七三九	七四
開	墾費	四二、九一二	〇、七五	二、二三四	〇、〇〇	二、二三四	〇〇
手	直工事費	一、二二二	〇、三二	一、四五六	〇、六九	一、四五六	六九
計		一、二二二	〇、三二	一、四五六	〇、六九	一、四五六	六九
合	計	一、二二二	〇、三二	一、四五六	〇、六九	一、四五六	六九

其ノ三、用排水幹線改良事業

宮城縣

本縣下ニ於ケル耕地ノ區劃改良ヲ主トスル耕地整理事業ハ比較的進捗セルモ用排水改良事業ハ今尙其ノ緒ニ付キタル現況ニアリ今後尙施行ヲ要スルモノ甚タ多シ現在ニ於テ縣營トシテ事業ヲ施行セルモノハ總計十八箇所ニシテ其ノ受益地積ハ二萬五千七百四十八町步、事業費豫算額六百五十三萬一千四百十八圓ニ達ス而シテ其ノ内九箇所、受益地積一萬四百二十三町步ハ既ニ工事ヲ完了シタリ今其ノ内譯ヲ示セハ左表ノ如シ

種別	年 度	事業費豫算	受益地積	備 考
落堀沿岸排水改良	自大正十四年度 至昭和三年度	100,000 円	8,300 町	
伊豆沼沿岸排水改良	自昭和二年 至同八年	83,300	1,500	
内川尾袋川沿岸排水改良	自昭和二年 至同六年	80,000	2,300	
槻木用水改良	自昭和四年 至同六年	100,000	611	
澄川用水改良	自昭和三年 至同七年	328,000	1,100	
古川沿岸排水改良	自昭和四年 至同八年	328,900	1,100	
大江堀沿岸用水改良	昭和八年	84,000	400	
貞山堀沿岸排水改良	自昭和七年 至同十年	27,000	1,200	
鳩原用水改良	自昭和八年 至同十年	150,000	825	
計(九)		3,190,900	10,433	以上工事完了ノモノ

夏川沿岸排水改良	自昭和四年 至同十一年	75,400	2,891	
吉田川沿岸用水改良	自昭和九年 至同十一年	115,000	600	
遠田、桃生、牡鹿三郡 用水改良	自昭和八年 至同十四年	1,400,000	4,000	
七北田川沿岸用水改良	自昭和十年 至同十二年	180,000	1,800	
鳴瀬川沿岸用水改良	自昭和十年 至同十一年	150,000	658	
寶江排水改良	同	85,000	309	
追川沿岸排水改良	同	140,000	650	
五間堀沿岸排水改良	同	40,000	58	
田尻川沿岸排水改良	自昭和十一年 至同十三年	110,000	1,000	
計(九)		3,190,900	11,535	
合 計		6,381,800	22,968	以上工事中又ハ着工準備中ノモノ

鳩原用水改良事業実績

用排水改良事業施行ノ効果ハ頗ル顯著ニシテ旱水ノ被害ヲ免レ莫大ナル利益ヲ得タリ尙事業施行後ノ実績ハ次ノ如シ

一、現 況

本地域ハ亘理郡ノ南端太平洋沿岸耕地ニシテ其ノ地積左ノ如シ

町村名	面積	積	町村名	面積	積
亙理町		二〇・〇町	山下村		七〇八・〇町
逢隈村		三九・二	計		八一五・〇
吉田村		四七・八			

二、計畫ノ概要

本地域内山下村ノ上流部ヲ除ク大部分ノ耕地ハ阿武隈川ヲ水源トスルモノナルモ取水口ノ水位低キ爲機械揚水ヲナシ灌溉ヲナスト雖尙旱害ヲ被リ殊ニ山下村ハ水源ヲ溜地ニ求ムル所多ク常ニ非常ナル旱害ヲ蒙ル状態ナリ故ニ既設揚水機(水量六十二個)ノ外新タニ揚水機(水量八十四個)ヲ増設シ水路ノ擴張改良ヲナスト共ニ山下村ニ對シテハ導水路ヲ新設スルコトトセリ

事業費決算 二十五萬四千圓

三、事業年度

昭和八年度着手

昭和十年度竣功

四、利益

工事施行ノ結果得タル利益ハ田八百十五町歩ニ對シ昭和十一年度ハ別表ノ通收量増加米九千五百三十一石二斗、此利益ハ經常費ヲ控除シテ尙二十萬四千三百八十二圓ニシテ事業費ニ對シハ割強トナリ成績極メテ良好ナリ

工事施行ノ結果得タル利益

昭和十一年度

町村	受益面積	反當増収又ハ收穫	同上増収又ハ收穫量	同上換價	諸出額費	差引利益	備考
亙理町	三三〇町	〇・三石	二四〇石	六〇〇町	一〇〇町	四〇〇町	石二十五圓
同	八〇町	〇・四	三〇〇	八〇〇	三〇〇	四〇〇	
同	三三三	〇・四	八四八	二、一一〇	一、五二〇	六〇〇	
同	一八〇	〇・六	一〇八〇	二、七〇〇	八二〇	一、八八〇	
同	四三〇	〇・四	一、八〇〇	四、五〇〇	一、八〇〇	二、七〇〇	
同	二八	〇・八	三三	五〇	一六	三五	
同	五八〇	一・〇	五、〇〇〇	三、三〇〇	一、九〇〇	一、〇七〇	
同	一〇〇〇	二・〇	四、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	
計	八二五・〇		九、五三三	三六、二〇〇	三、八八六	二〇四、三二	

内川尾袋川沿岸排水改良事業實績

一、現況

本地域ハ伊具郡ノ北端阿武隈川ノ左岸ニ沿ヘル角田町外一町三箇村ニ亙ル平坦ナル耕地ニシテ其ノ地積左ノ如シ

町村名	總面積	田地	畑目
角田町	五〇一町	三六三町	一三八町
櫻田村	四二〇町	二八二町	一三八町

櫻 村	北 郷 村	同	西 根 村	同	小 計	合 計
二 三 町 大 麥	一 三 大 麥	一 四 大 麥	六 大 麥	一 三 大 麥	七 大 麥	二 、 三 七
〇 〇 石	〇 〇 石	〇 〇 石	〇 〇 石	〇 〇 石	〇 〇 石	
一 三 〇 石	一 九 〇 石	二 四 〇 石	二 〇 〇 石	一 八 七 五 石	一 三 五 〇 石	
九 四 〇 〇 円	一 五 六 〇 〇 円	一 、 四 〇 〇 〇 円	九 六 〇 〇 円	七 、 八 〇 〇 〇 円	三 、 八 〇 〇 〇 円	
五 五 〇 円	六 六 〇 円	七 二 五 円	四 〇 〇 円	六 七 五 円	三 、 八 〇 〇 円	
二 、 八 一 五 〇 円	五 、 八 七 〇 〇 円	三 、 六 六 六 〇 〇 円	三 、 五 〇 〇 〇 円	二 、 四 、 一 五 〇 〇 円	一 一 〇 、 一 一 〇 〇 〇 円	
大豆 石 八 五 圓						

其ノ四、暗渠排水事業

低濕地ノ地下水ヲ排除シ稻作ノ成熟ヲ早メ冷害ヲ防除スルト共ニ天候不順ニ依ル稻熱病ヲ豫防シ有機物ノ分解作用ヲ助長シ土地ノ收益増加ヲ計ル爲本省ノ獎勵ニ基キ縣ニ於テハ昭和七年八月暗渠排水工事助成規定ヲ制定シ同年度ヨリ助成金ヲ支出シ勸奨ニ努メタル結果施工スルモノ續出シ其ノ成績見ルヘキモノアリ今事業施行シタルモノノ内主ナルモノノ實績次ノ如シ

登米郡登米町長橋及布目暗渠排水事業實績

一、地區ノ現況

本地區ハ登米町ノ西南部及西北端ノ二箇所ニシテ數年前迄ハ溜池ナリシモ使用廢止ニヨリ干拓開田セラレタルモノナリ

土質ハ水草、根等ヲ混交セル腐植質壤土ニシテ泥濘深ク甚シキハ數十尺ニ及フ箇所アリ從テ稻ノ繁茂狀態頻ル惡シク又稻熱病ノ發生頻繁ニシテ農業經營上遺憾甚シカリキ

二、事業計畫說明

前記ノ如ク地區内ハ泥濘甚シキヲ以テ之ニ適當ナル暗渠排水事業ヲ施行シ濕田ヲ變シテ美田トナサムトスルモノニシテ登米郡地方ニ於ケル模範的暗渠排水地タラシメムカ爲泥濘最モ甚シキ箇所ヲ選定シ之ニ粗架暗渠排水工事ヲ施行ス

三、工事施行後ノ利益

工事施行ノ結果濕田ハ今ヤ全ク乾田トナリ耕作上其ノ他生産上大イニ見ルヘキモノアリ
施行ニ依ル利益次表ノ如シ

地 區 名	地 積	反 當 平 均 收 穫		種 類	同 上 金 額 (石二十五圓)	同 上 總 金 額
		施 行 前	施 行 後			
登米町長橋沼	一〇・八六	二・〇石	三・〇石	〇・九	二四・七五	二、五二・六九
同 布 目 沼	五・四七二	二・〇	三・〇	一・四〇	三五・〇〇	一、九六・九六
計	一五・六二七				五九・七五	四、四八・六四

四、工事費

四千五百五十六圓
內 譯

種目	金額	摘要
暗渠費(幹線)	九一九・六〇	水開五十二箇所
同(支線)	三、三九九・〇〇	
水路開闢費	二〇二・〇〇	
暗渠材料費	一八・五〇	
水路掘鑿費	一六・九〇	
計	四、五五六・〇〇	

一、農村振興上耕地事業ノ將來採ルヘキ指導方針

本縣下耕地整理施行見込地ハ田二萬八千八百七十町步、畑一千八百九十五町步、合計二萬八千七百六十五町步アリ今後道路ノ改良、灌溉排水設備ノ改善及區割改良ヲ行ヒ交通運搬並耕耘肥培ニ便シ灌溉排水ヲ良好ナラシムル爲耕地整理及農村計畫事業ノ施行ノ必要アルヲ以テ從來ノ獎勵施設ヲ擴充シ縣費ヲ以テ測量設計、工事監督及事務指導等ヲ行フ外國庫ノ助成ヲ得テ工費補助金ヲ交付セムトス

又暗渠排水及床締等ノ施行ハ縣下冷害防止上緊要ノ施設ナルヲ以テ國庫ノ助成ヲ得テ特ニ工費補助金ヲ交付シ又暗渠排水ニ在リテハ縣費ヲ以テ幹線ノ調査ヲ施行シ排水計畫ノ萬全ヲ期セムトス

縣下用排水幹線改良施行見込地中急速施行ヲ要スルモノ九箇所、其ノ受益地積一萬七千四百五十町步ニ對シテハ國庫ノ補助ヲ受ケ縣費ヲ以テ急速ニ之カ改良ヲ行ヒ用排水幹線改良ニ依リ耕地ノ水、旱害ヲ除却シ用排水ヲ完全ニシ以テ農産ノ改良増殖ヲ圖ラムトス

縣下開墾見込地ハ田トナルモノ六千五百九十九町步、畑トナルモノ一萬一千五百二十四町步、合計一萬七千五百八十三

秋田縣

一、農村振興上耕地事業ノ實績

町步アリ之カ開發ニ付テハ縣費ヲ以テ測量、設計、工事監督等ヲ施行スル外開墾助成金其ノ他各種耕地事業助成金ノ交付ヲ受ケ大規模ノモノハ國營又ハ縣營トシテ之カ施行ヲ圖リ其ノ他小規模ノモノハ民營トシテ之カ開發ヲ行ヒ農産ノ増殖ヲ圖リ且自作農ノ扶植ニ便セムトス

昭和十二年度以降東北振興計畫耕地事業實施ノ曉ニ於テハ國庫ノ助成ヲ受ケ縣下耕地ノ災害防止緩和策トシテ暗渠排水、用水溜池設置、床締及客土、用排水改良事業等ニ相當補助金ヲ交付シ縣下農村振興施設トシテ開墾事業、耕地改良及開墾地移住獎勵等ニ對シ同様國庫ノ助成ヲ受ケ相當補助金ヲ交付シ縣下農山漁村ノ振興ヲ圖ラムトス

本縣ニ於ケル耕地關係農業土木事業ハ各町村ニ可及的工事配當ヲ均等ニナシ用排水ノ圓滑、交通運輸ノ便ヲ計リ又山林原野ノ開墾ヲ施行シテ耕地ノ擴張ヲ圖リ爲ニ農作物ノ增收ハ實ニ顯著ナルモノアリ而シテ各地區共工事一般ニ好成績ヲ以テ完成シ目下農繁期ニ際シ本事業ノ恩惠ニ浴シ農村ノ歡喜大ナルモノアリテ其ノ效果特ニ顯著ナルモノアルヲ信ス

縣下ニ於ケル事業別ノ實例左掲ノ如シ

其ノ一、開墾助成事業

- 一、地區名 河邊郡新屋町第二耕地整理組合
- 二、工事ノ種類 開墾及地目變換
- 三、關係面積又ハ受益面積 五十五町六反步
- 四、事業ノ沿革並計畫ノ概要

本地區ハ東方羽越本線新屋驛ノ西方及雄物川ノ間ニ位スル扇狀地帯ニシテ雄物川ニ接スル高位部ハ從來蔬菜畑トシテ中央部ハ桑畑トシテ利用セラレツツアリタルモ他ハ原野ニシテ利用價值極メテ低キ土地ナレハ開墾及地目變換ヲ開墾助成事業ニヨリナシタルモノナリ

一般ニ本地區附近ハ耕地少キ爲農家ト雖農耕ノ傍行商、日傭等ヲナス状態ニシテ更ニ年々夏季ニ洪水ノ被害アルヲ以テ農家ノ經營ハ愈困難ヲ加フルニ至リタレハ昭和三年五月本地區ノ利用開發ヲナシ之カ匡救ヲ企畫シ全地區五十五町六反歩ノ内三十八町二反歩ノ開田計畫ノ所ニ耕地整理組合ノ設立認可ヲ得タリ

本地區總地積ハ五十五町六反歩ニシテ此ノ中高位標高ノ畑地十二町六反歩ヲ在來通トシテ區劃整理シ殘餘ノ畑地及原野合計三十八町二反歩ヲ開田セルモノニシテ雄物川左岸字館野ノ南端ニ四十馬力電動機ニ依ル揚水機ヲ設置シテ用水源トシ排水ハ新屋排水路ニ放水スル計畫ナリ

五、事業着手及終了ノ時期

事業着手 昭和四年九月一日

事業終了 昭和八年八月三十一日

六、事業ニ要シタル費用

總事業費	四一、三七六・七七
助成事業所要額	三七、九七六・〇二
事業費内譯	
工事業費	三四、二九三・八二
事務費	六、三三九・四四
創業費	七四三・五一

負擔内譯

國庫負擔額	一五、一九〇・四〇
府縣負擔額	—
地元負擔額	二六、一八六・三七

七、事業ノ實績並效果

開田地ハ平均シテ昭和四年度反當一石二斗、昭和五年度八斗、昭和六年度一石二斗、昭和七年度二石ノ收量ヲ得タリ

更ニ事業施行ノ結果交通至便トナリ隣接地ニ於ケル地價モ三割騰貴シ附近ノ住民ニシテ日傭、出稼、馬車曳又ハ蔬菜ノ行商等ヲナシ居リタル者モ水田ノ耕作ヲナス事トナリタル爲爾來冬期收入途絶ノ場合モ飯米ニ窮スル事ナク生活安定シ社會問題上ノ見地ヨリシテモ其ノ效果顯著絶大ナルモノト認メラル

尙本組合地區ハ總テノ借入金ヲ償還シ換地處分ヲ完了シタルニ依リ目下解散ノ手續中ナリ

其ノ一、時局匡救耕地關係農業土木事業

一、地區名 山本郡扇淵村檜山町聯合耕地整理組合

二、工事ノ種類 小用排水事業(溜池新設)

三、關係面積又ハ受益面積 二百八町歩

四、事業ノ沿革並計畫ノ概要

本地區ハ山本郡扇淵村、檜山町ニ跨ル水田二百八町歩ヲ包含スル地域ニシテ舊來ヨリ檜山川上流地帯數箇所ニ縮切木造堰堤ヲ設ケ用水ヲ取入レ灌溉セルモ夏期用水ノ必要期ニ至リ用水源タル同川ノ濁濁甚シク爲ニ前記水田八年々不撓旱害ヲ蒙リ就中六十餘町歩ハ收穫皆無トナル事屢ニシテ溜池築造ニヨリ灌溉設備ノ完全ヲ圖ル目的ヲ以テ昭和

七年十月三日組合設立ノ認可ヲ得タリ

本計畫ニ於ケル不足水量ハ最近二十箇年非灌漑期間降水量合計ノ第三位(昭和六年)ヲ基礎トシテ算出スレハ五萬四千立坪ナリ仍テ此ノ用水補給ノ目的ヲ以テ新設スル溜池ノ堤塘ニ付キ略記スレハ次ノ如シ
堤高四十七尺、堤頂幅十五尺、法内側二割五、外側二割、計畫水位百五十六尺、高水位百五十八尺、堤頂百六十一尺(以上假標高)餘水吐ハ洪水量三十三個八五ニ照シ溢流堰堤幅三十六尺、溢流水深二尺トシ右側地山ニ設置セリ

取水斜樋管ハ口径十二吋鑄鐵管ヲ地山ニ取付ケ「ヴァアルフ」二個ノ開閉ニヨリ調節ヲ圖ル
五、事業着手及終了ノ時期

工事着手 昭和八年八月八日
工事終了 昭和九年三月三十一日

六、事業ニ要シタル費用

總事業費	二六、五四二・二〇
助成事業費	一五、六五〇・〇〇
事業費内譯	二二、九八六・七八
工務費	三、〇六一・九三
創設費	四九三・三九
負擔内譯	七、八二五・〇〇
國庫負擔額	

府縣負擔額
地元負擔額
七、事業ノ實績並效果

昭和九年ノ實績ハ地區中工事施行前旱魃地帯ナル六十餘町歩ニ於テモ平均シテ平年作ノ六割強ノ收穫ヲ得タリ
昭和十一年ニ於テハ往時ノ旱魃地帯モ平年作(反當一石八斗)以上ノ收穫見込ニシテ其ノ他ノ箇所ニ於テハ三石近クノ收穫見込ナリトス

其ノ他左記事項ハ正ニ事業施行ニヨル效果ト認メ得ヘシ

- (一) 事業施行ニヨリ水利上ノ安定ヲ得安心シテ耕作ニ從事シ得ルニ至レリ
 - (二) 從來ノ狀態ニテハ毎年旱魃被害ノ爲常ニ小作人對地主ノ係争絶エサリシモ用水ノ潤澤ハ之等ノ小作問題ヲ解決セリ
 - (三) 舊來反當灌漑勞力十二三人ヲ要セシモ事業施行ニヨリテ半減セラレタリ
 - (四) 畑作ハ普通作物ニ限レシモ事業施行ニヨリ勞力ノ餘剩ヲ得タル爲園藝作物ノ利益アル作物ヲ栽培スルニ至レリ
 - (五) 事業ノ結果得タル餘剩勞力ニヨリ扇瀨村ハ目下畑地及雜地トシテ生産力尠キ土地ノ開田計畫ヲ樹立シ近ク之ヲ實行ニ移ルニ至レリ
- 其ノ三、凶作應急施設耕地事業
- 一、地區名 由利郡小出村農會
 - 二、工事ノ種類 暗渠排水工事
 - 三、關係面積又ハ受益面積 十七町五反五畝歩

四、事業ノ沿革並計畫ノ概要

本地區ハ羽越本線金浦驛ノ東南方約一里半ニシテ達スル小出村地内ニシテ十數年前ニ耕地整理施行完了シタルモノナリ然レトモ本地區ハ一般ニ心土砂質壤土ニシテ排水路ヲ掘鑿スルモ自然ニ埋没セラレ排水不良ニ陥リタル結果常ニ是等冷惡水ハ停滯シ稻ノ生育ヲ阻害スルコト甚大ニシテ年々二割乃至三割ノ減收ヲ免レサルノ結果昭和十年三月凶作應急施設事業トシテ暗渠排水工事ヲ計畫シ土地改良ヲ行ヒ之等冷惡水ヲ除去シ得タリ
即チ地表下ニ上幅一尺八寸、下幅九寸、深二尺七寸ノ堀鑿ヲナシ溝ヲ造リ之ニ粗朶又ハ玉石ヲ埋設シ土留用トシテ其ノ上ニ藁ヲ覆ヒ埋戻ヲナシ暗渠ヲ造リテ所期ノ目的ヲ達シタリ

五、事業着手及終了ノ時期

事業着手 昭和十年三月十日
事業終了 昭和十年十二月十六日

六、事業ニ要シタル費用

工	費	二、〇六三・〇九
負	擔	九三〇・〇〇
國	庫	九三〇・〇〇
府	縣	九三〇・〇〇
地	元	九三〇・〇〇

七、事業ノ實績並效果

本工事施行ニヨリテ土質改良ノ目的ヲ達シ耕作ヲ便ナラシメ稻ノ收穫ハ約二割ノ增收トナリ尙米ノ品質向上、農家經濟ノ向上等利益セルコト多大ナリ

其ノ四 水害復舊耕地事業

一、地區名 北秋田郡下大野村増澤地區

二、工事ノ種類 公共施設復舊(水門、水路、護岸復舊)

三、關係面積又ハ受益面積 四十三町步

四、事業ノ沿革並計畫ノ概要

本地區ハ阿仁合線上大野驛西北方約一里十町下大野村大字増澤地内ノ耕地ニシテ本工事施行地ハ落合村大字羽根山字羽根山澤口地内ニテ羽根山澤川ヨリ取入レ阿仁川ニ沿ヒ流下スル前記耕地ノ幹線用水路ナリ

而シテ前記用水路ノ取入水門、放水門、途中ノ用水路ノ全部又ハ一部及護岸延長約四十間ハ昭和十年八月下旬ノ洪水ニ際シ大破又ハ流失シ通水不能ニ陥リタルヲ以テ同十一年春季取入水門、放水門二箇所、水路延長五間ハ在來ノ寸法ニ依リ鐵筋混凝土ヲ以テ、護岸延長二十間ハ高三尺ノ詰杭工ヲ以テ復舊工事ヲ施行セリ

尙水路及護岸延長各二十間ハ昭和十一年度復舊工事ヲ施行シツツアリ

五、事業ノ着手及終了ノ時期

工事ノ着手 昭和十一年三月一日
工事ノ終了 昭和十一年三月三十一日

六、事業ニ要シタル費用

事	業	費	一、三四・〇〇
內	庫	負	一、七二・〇〇
府	縣	負	一、七二・〇〇
秋	田	縣	一

地 元 負 擔 額

一、一七二、〇〇〇

七、事業ノ實績並效果

本事業ノ完成ニ依リ關係耕地四十三町歩ハ昭和十年八月下旬ノ水害以前ノ如キ收量ヲ得ラルル事トナレリ

其ノ五 冷害應急施設耕地事業

- 一、地區名 鹿角郡宮川村深耕地整理組合地區
- 二、工事ノ種類 小設備工事(溫水池新設)
- 三、關係面積又ハ受益面積 六十四町四反歩
- 四、事業ノ沿革並計畫ノ概要

本地區ハ花輪線小豆澤驛ノ南方約三里乃至四里鹿角郡宮川村大字長谷川地内ノ高臺ニシテ標高海拔一千二百尺乃至一千五百尺ニ位シ年々冷水ニ依ル被害アリ殊ニ昭和九年及同十年ハ殆ト收穫皆無ノ状態ナリキ

前記ノ如キ状態ナルヲ以テ昭和十年秋季地區上流約一里同村大字長谷川字切留平地内ノ適所ニ水面積二千百面坪、容積九百四十五立坪ノ溫水池ヲ新設シ本地區水源ノ内特ニ冷質ナル溪流(流量毎秒七十五立方尺、溫水池上水五寸ノミ移動スルモノトセハ湛水時間一時間二十四分)ヲ導水シ加温ノ目的ヲ達シ年々ノ冷害ヲ防止セムト計畫セリ

五、事業ノ着手及終了ノ時期

工事着手 昭和十年十一月一日

工事終了 昭和十一年三月二十日

六、事業ニ要シタル費用

事 業 費

九〇〇、〇〇〇

内 譯

國 庫 負 擔 額	三六〇、〇〇〇
府 縣 負 擔 額	—
地 元 負 擔 額	五四〇、〇〇〇

七、事業ノ實績並效果

本事業ノ完成ニヨリ從來ノ冷水ハ相當加温サレ冷害防止上多大ノ效果ヲ見タリ

即チ昭和九、十兩年ノ收量ハ前述ノ如ク殆ト皆無ナリシモ昭和十一年度ニ於テハ全地區六十四町四反歩ノ平均反當收量約一石三斗ヲ見ルニ至レリ

一、農村振興上耕地事業ノ將來採ルヘキ指導方針

農村ノ疲弊困憊其ノ極ニ達セル現下ノ實狀ニ鑑ミ之等根本的ノ救濟對策ハ其ノ基礎的事業タル耕地事業ノ促進ニアルコト言ヲ俟タス且又本事業タルヤ非常時局ニ際會シテ國防上ヨリ觀タルトキ誠ニ忽カセニスヘカラサルモノト言フヲ得ヘシ此ノ秋ニ當リ官民相共ニ協力一致シ地方ノ特殊性ニ順應シテ斯業ノ完璧ヲ期スルト共ニ左記ノ事項ニ留意シ農民更生ノ實ヲ擧ケムトスルハ目下ノ急務ナリト思惟ス

一、恒久的農業土木事業ヲ實施獎勵スルコト

近年農村ハ災害ニ次クニ災害ヲ以テシ政府ノ復舊、應急等ノ保護施設ニ依リ辛シテ生色アリト雖多年疲弊困憊セル農村ハ未タ恒久策ヲ樹テ災害ノ禍根ヲ絶ツ能ハス又經營ノ合理化、生産費ノ節約等ノ爲ニ行フ農耕地ノ改良ハ遷延セラレ農村經濟ノ窮乏困憊ハ依然タリ

故ニ之ニ對スル根本的對策トシテ農村ニ於ケル耕地施設或ハ土地利用上ノ缺陷ヲ除去スヘク繼續年限ヲ定メ恒久的農業土木事業ヲ實施獎勵スルハ目下ノ急務ナリ而シテ國庫ニ於テ之等ノ事業計畫施設ニ對シ補助獎勵ノ途ヲ啓クハ最緊要ナリト信ス

一、換地處分及附帶事務ノ促進ヲ計ル爲專任職員ノ養成及設備費ニ對シ全額國庫ニ於テ補助金ヲ交付スルコト
 事業經營ニ伴フ事務管理ニ對シ專任職員ノ設置ヲ要望スルハ土地ニ關スル法規及耕地整理ニ關スル法令頗ル複雑
 ニシテ且廣範多岐ニ亙リ如何ニ施設計畫ヲ實施スルト雖之等諸般ノ手續ニ遺漏アル場合ハ決シテ其ノ成果ヲ收ム
 ル能ハサルハ技術ノ重要性ト同様ナリト信スレハナリ
 而シテ事務管理ニ於テハ法理論ト實際トノ調和ニ俟テ各施設事業ノ發展ヲ期シ得ルモノナルヲ以テ定ニ専門的知
 識經驗者ヲ求ムルハ緊要ノ事項ニシテ法規ノ運用如何ハ直ニ事業ノ消長ニ影響シ農業經營經濟策ノ重大ナル使命
 ヲ全フシ能ハサルモノト信ス
 故ニ職員ヲ配置スルハ國策タル農村問題ノ緊要事項タルモノト推考ス

一、開墾國營ニヨリ農耕適地ノ開發ヲナスコト

從來ノ農村振興ノ爲種々ナル農村對策實施ハ窮乏セル農村經濟上貢獻スル處尠サリシト雖尙耕地不足ナル根本的
 障害ヲ剪除スル能ハス農民離村、小作爭議、農村食糧等ノ現下農村ノ重大問題ハ總テ此ノ點ニ胚胎シ社會政策上
 由々シキ問題タリ之カ解決ハ未墾地ノ大規模開發ニ俟ツノ外ナシ
 然レトモ大規模ノ開發ハ多額ノ經費ト熟練セル技術ヲ要スル難事業ニシテ逼迫セル地方經濟ニ依リテハ到底實行
 不可能ナリ依テ政府ハ國營ヲ以テソノ重要工事ヲ施行シ地方ヲシテ行ハシムル開墾ノ第一難關ヲ解決セラルヘキ
 モノト信ス

一、用排水幹線改良事業ニ關スル政府豫算ヲ增額計上スルト共ニ新ニ其ノ設計調査費ニ對スル補助ノ途ヲ講スルコ
 ト

現在ノ豫算ヲ以テハ到底地方各地ニ於ケル熱烈ナル用排水改良事業ノ希望ヲ充ス能ハサルヲ以テ政府豫算ノ增額
 ヲナシ又其ノ設計調査ハ僅少ナル耕地整理及土地改良費規則ニ依ル補助金アルノミニシテ十分ナル調査ハ不可能

ナルヲ以テ新ニ調査費補助ノ途ヲ講シ設計調査ノ完壁ヲ期セシムルヲ要ス

山形縣

一、農村振興上耕地事業ノ實績

實績ノ一

一、地區名 東置賜郡赤湯町

本町ニ於ケル事業ノ施行ハ各部落毎ニ申合セノ任意組合ヲ組織シ代表者ヲ定メテ諸般ノ手續及事業遂行ノ衝ニ當ラ
 シメタルモノニシテ其ノ組合數及人員等左ノ如シ

字	名	代表者氏名	關係人員	開畑面積
赤	湯	佐藤新次郎	二五八	二・八〇
同		佐藤友次郎	二五	三・四〇
同		新關英造	二七	三・〇五
同		酒井哲	三〇	三・五五
同		佐藤祐次	四一	四・四〇
二	色根	戸田龜五郎	一六	一・五〇
蒲	生	星金吉	一八	二・七〇
計		七組合	一八二	二一・四〇

二、事業ノ種類

山形縣

葡萄園ヲ目的トスル小開墾

三、事業施行面積

年 度	面 積	開 墾 人 員
昭和七年度	一〇・三五〇〇町	七九人
同 八年度	一一・〇五〇〇	一〇三
計	二一・四〇〇〇	一八二

四、事業施行ノ動機

本町ニ於ケル葡萄ノ栽培ハ約二十年前ヨリ始マリ地味風土之カ栽培ニ適シ從テ收量多ク品質良好ニシテ販路又擴張セラレ前途頗ル有望ニシテ昭和六年末ニ於テ既ニ栽培面積四十五町歩、生産數量十萬貫、價格三萬一千圓ニ達シ米ニ次ク主要農産物タルノ地位ヲ占ムルニ至レリ殊ニ當地方ハ山林ノ開墾ニ對シテハ成功當初三箇年ハ小作料ヲ免除シ以後反當二圓乃至三圓位ノ小作料ヲ徴スルニ過キス故ニ葡萄栽培ノ如キハ非常ニ有益ニシテ且開墾適地タル山腹多キモ當時漸ク農家ノ經濟窮迫シ開墾容易ナラサリシニ偶々昭和七年時局匡救事業ノ實現スルニ及ヒ開墾ヲ計畫スルモノ續出スルニ至レルモノトス

五、事業計畫ノ大要

雜木ヲ伐採シ荒起ヲナシ雜根ヲ取除キ更ニ深一尺ノ天地返シヲナシ葡萄園トナスモノトス

六、事業施行經過ノ概要

本事業ハ前記ノ通昭和七年度及同八年度ノ二箇年ニ亘リ時局匡救事業トシテ實施セルモノニシテ補助申請其ノ他諸

般ノ手續上部落毎ニ組合ヲ組織スルヲ便宜トシ夫々申合組合ヲ作り代表者ヲ定メタリ而シテ工事ハ各自自家勞力ヲ以テ實施セリ故ニ事業ノ着手竣工等ハ區々ニシテ一定セサルモ全部昭和九年三月ニ開墾事業ヲ終了同四月以降六月頃迄ニ殆ト苗ノ植付ヲナセルモノナリ

七、事業施行前後ノ收益比較

地區ハ殆ト全部緩傾斜地ナル山腹ニシテ殊ニ土質肥沃ナラス爲ニ從來利用價值ナキモノトシテ顧ミサルノ地ナリ而シテ本事業ノ實施ハ葡萄栽培ヲ目的トスル關係上今直ニ收益ヲ得ス即チ葡萄苗ノ成木スル迄ノ期間ハ普通七乃至八年ヲ要スルヲ以テ現在ニ於テハ投資期間ニシテ實際豫期ノ收益ヲ得ルハ昭和十五年以後ナリトス今其ノ收益豫想ヲ掲クレハ左ノ如シ

反當收益調(農業綜合調査ニヨル)葡萄栽培

收 入			支 出						計	差引利益
數量	單價	價格	勞力	肥料代	消毒費	小作料	販賣諸費			
五〇〇貫	〇・三〇	一五〇・〇〇	三〇・〇	一〇・〇〇	三・七〇	四・七六	五〇・〇〇	一三三・二六	一六・七三	

右ノ計算ニヨルトキハ反當利益實ニ三十八圓七十二錢ニシテ優ニ開墾事業費ヲ償還シ得之ヲ開墾面積二十一町四反歩ニ當嵌メルトキハ生産額三萬二千百圓ニシテ利益八千二百八十七圓トナル見込ナリ

八、農家ノ經濟ニ及ホス影響

本事業施行ノ結果從來耕地不足ノ爲ニヨル農家ノ餘剩勞力ヲ此ノ方面ニ使用シ得勞力ヲ賃銀化スルノミナラス他作物ニ比シ利益多額ニシテ而カモ生産品ノ三分ノ二ハ北海道、東京及近縣地方ニ移出セラレ地方農村ノ經濟ヲ緩和スルコト大ナルモノアリト信ス

殊ニ當町ハ東北地方ニ於ケル著名ノ温泉地タルト共ニ最近赤湯葡萄ノ名聲ヲ高メ其ノ栽培漸次増加シ本年四月現在ニ於テ栽培戸數二百三十戸、面積九十一町歩ニ達セリ生産ノ増加ニ伴ヒ出荷組合ノ設立ニ依リ販賣統制セラレ前途益有望ニシテ農家經濟更生ノ基礎安定スルニ至レリ

實績ノ二

- 一、地區名 東置賜郡沖鄉村露橋耕地整理組合
- 二、事業ノ種類 開田
- 三、關係面積 九町一反九畝五歩
- 四、事業施行ノ動機

關係部落ハ露橋、宮崎、關根ノ三部落ニシテ戸數二百二十戸、耕地面積田九十町歩、畑百八十町歩ヲ有シ從來養蠶ヲ主業トシ稻作ハ一戸平均僅ニ四反歩ニ過キス而カモ田ノ三分ノ二タル五十四町歩ハ他町村地主ノ所有地ナルヲ以テ小作米及養蠶期中ニ於ケル他郡町村等ヨリノ移入勞働者ノ消費米等ヲ見ルトキハ到底生産米ヲ以テ自給シ得ス毎年多大ノ移入米ヲ見ツツアリ然レトモ繭價ノ高價ナリシ時代ハ經濟狀態頗ル良好ナリキ然ルニ昭和六年以降繭價ノ漸落ニ連レ經濟界ニ一大恐慌ヲ來シ昭和九年春蠶繭石平均二十三圓ニ暴落スルニ及ヒ至ク窮乏ノ極ニ達シ耕地ハ他町村地主ニ移リ小作料ノ不納ハ勿論各種税金ノ滯納續出シ金融逼迫シテ經濟的ニ行詰リ收拾スヘカラサルノ状態ニ至レリ茲ニ於テ他ニ新生面ヲ求ムヘク郷里ヲ見限り南米ブラヂルニ六家族、南洋ニ二家族ノ移住者ヲ出スニ至リ更ニ細農ハ子女ヲ賣リテ生計ノ資トナスモノ等續出シ延ヒテ思想惡化シ一面桑園ハ荒廢シテ雜草ノ繁茂ニ委ス等農村ノ前途誠ニ寒心ニ堪ヘサルモノアリキ茲ニ於テ不安定ナル蠶業ヨリ稻作ヲ主トスル農業ニ轉換スルヲ適當ナリトシ開田ヲ企圖スルニ至レルモノトス

五、事業計畫ノ大要

本地區ハ赤湯驛ヨリ西南方一里餘小松町ニ通スル縣道松川ニ架設セラレタル下田橋ノ上流三町餘ノ地點ニシテ南北ニ松川ヲ繞ラシタル平坦ナル地域ニシテ畑及原野ヨリナリ其ノ豪帳面積九町四反餘歩トス近時蠶業ノ不振ニ伴ヒ桑園ノ年々荒廢シツツアルヲ以テ地區東北方松川ノ右岸ニ揚水機ヲ設置シ松川ノ流水ヨリ毎秒一・八立方尺ノ水量ヲ揚水シ開田セムトスルモノナリ

六、事業費

設計豫算額 一萬六千二百七十三圓

年 度	豫 算 額	決 算 額	國縣補助額	工事進捗ノ程度
昭和十年 度	一六、二七三・〇〇	一四、六六〇・二〇	三、五六二・〇〇	九分九厘
同 十一年 度		一四九・六〇	二、三〇八・〇〇	
計		一四、八〇九・八〇	五、八七〇・〇〇	

本工程ハ凶作應急施設事業トシテ實施スルモノニシテ總事業費一萬六千二百七十三圓ノ内縣承認工費八千八百五圓ニ對シ三分ノ二ノ額タル五千八百七十圓ノ補助アリタルモノトス

七、事業施行經過ノ概況

昭和九年七月春蠶後佐藤吉太郎發起人トナリ部落有志會合シ部落更生ノ策トシテ現在ノ桑園、原野ヲ開田シ從來ノ養蠶ヲ主トスル農業經營方針ヲ變更セムコトヲ計リタルニ滿場異議ナク贊同シ且其ノ促進方ヲ佐藤吉太郎、市川與之助ノ兩人ニ依頼セラレタリ

茲ニ於テ兩氏ハ組合設立ニ奔走シ昭和九年十月十八日基本調査ノ申請ヲナン同月二十日基本調査ヲ終ヘ更ニ同年十

一月五日關係地主六十六名ノ同意ヲ取纏メ設計調査ノ申請ヲ爲シ同廿八日ヨリ十二日間ニ亙リ縣ノ設計調査ヲ得同十二月二十一日設計書ノ交付ヲ受ケ同日組合設立ノ申請ヲ爲シ翌年一月十八日其ノ認可ヲ得同月二十三日總會ヲ開キ役員ノ選舉及主要案件ノ決議ヲ了シ始メテ組合ノ活動ヲ見ルニ至レリ

本地區ノ一部ハ前述ノ通糞ニ凶作應急事業ノ承認ヲ得タル四町九反歩ニ對シテハ既ニ工事着手セル爲工事頗ル進捗シ同年六月十日豫定ノ開田及水源設備ヲ完成シ同月十五日頃ヨリ挿秧ヲ開始シ遅レナカラモ七月一日ヲ以テ全開田地ニ對シ植付ヲ終了セリ其ノ後稻ノ發育モ順調ニシテ反當約二石餘ノ收穫ヲ得タリ

八、事業施行前後ノ收益比較

原地ハ前記ノ通糞園及原野ニシテ各其ノ收益ヲ異ニスルモ今地目別ニ掲クレハ左ノ如シ (昭和九年度)

地目	收入			支出			損益
	種類	数量	單價	種類	數量	單價	
桑園	桑葉	100	0.50	肥料	4.00	1.00	16.50
原野	荳	100	0.11	勞力	1.20	3.50	16.50
			8.40	公租	2.10	0.10	6.10
				農具	0.10		
				計			
							益 損
							益 損

右計算ニ依レハ桑園ニ於テ反當損失十六圓五十錢ニシテ全面積八町五反歩ニ對シ一千四百二圓五十錢トナリ又原野ノ一反歩收益六圓十錢ニシテ此ノ面積九反歩ナルヲ以テ五十四圓九十錢ノ利益トナリ差引一千三百四十七圓六十錢ノ損失トナルモノナリ

更ニ開田後ニ於ケル利益ヲ掲クレハ左ノ如シ

昭和十一年度豫想ニヨル

米	收入		支出		差引	摘要
	數量	單價	種類	數量		
石	2.8	110	肥料	3.00	3.00	其ノ他三五貫一貫三錢 種代ハ三升一升二五錢 肥料ハ硫安、石灰、窒素 勞力ニ〇人單價七〇錢
圓	310	110	勞力	3.50	3.50	
			公租	2.10	2.10	
			農具	0.10	0.10	
			計			
						利益

反當五十一圓ノ利益ニシテ實際作付面積八町六反四歩ナルヲ以テ總收益四千三百八十六圓トナリ之ヲ開田事業費十萬八千九圓ニ對比スルトキ年二割九分六厘ノ利益トナリ豫期以上ノ効果ヲ收メ得タリ而シテ此外地目ノ變換ニ基ク利益ヲ見ルニ左ノ如シ

地目	工事施行前		工事施行後		摘要
	面積	反當金額	面積	反當金額	
畑	8.50	100	8.60	300	工事施行後ノ反當價格 ハ工事施行ノ爲反當七 〇圓ノ負債アルヲ以テ 減額見積リタルモノト ス
原野	0.90	80			
計	9.40	180	8.60	300	

差引九千六百十圓ノ利益トナルモノトス

九、農村振興ニ及ホセル影響

(一) 農家ノ經濟ニ及ホセル影響

昭和八年以降ノ經濟界ノ不況ハ農産物價ノ暴落トナリ從テ農家經濟亦窮迫シ昭和九年度ニ入り其ノ極ニ達シ養蠶資金ノ缺乏ト絲價ノ不振ハ春蠶掃立ヲ減少セシメ延ヒテ農業労働者ノ失業ヲ來シ農村ニ於テハ五十錢ノ銀貸サハ

容易ニ手ニスルコト能ハサルノ状態ニ至リタリ然ルニ偶々本事業ニ着手スルヤ關係部落ノ餘剩勞力ハ全部此處ニ收容セラレ開田工事ニ從事セシムルヲ得タリ今其ノ使用人員ヲ見ルニ延八千七百七十三人、賃金總額六千三百四十八圓ニ達シ一戸平均二十九圓ノ收入トナリ尙勞働者中ニハ五日毎ノ精算支拂ヲ待チ得ス出役傳票ヲ擔保ニ他ヨリ借金スルモノ或ハ傳票ヲ以テ金錢ニ替ヘ生活必需品ヲ求ムル等如何ニ窮乏シアリヤ亦一面如何ニ本事業ノ歡迎セラレシヤヲ想像スルニ難カラス如斯一時的トハ言ヘ農家ノ經濟ヲ緩和セルコト頗ル大ナルモノアリ

尙本村ハ元來納稅成績良好ナリシモ昭和八年以降經濟界ノ不況ノ爲昭和九年度末ニ於テハ村稅滯納約一萬五千圓ニ達シ村治上ニ影響スルトコロ頗ル大ナルモノアリシモ村當局ノ努力ト村民ノ此種事業ノ收益ニ因リ漸次整理セラレ現在ニ於テハ五千圓程度ヲ殘スニ至レリト云フ又小作料ハ桑園當時ニ於テハ藪價ノ暴落ニヨリ生活上ニ恐慌ヲ及ホシ未納スルモノ多ク人心險惡トナリ小作問題ヲ憂慮セラレシモ本事業ノ實施ト共ニ自然解消シ現在ニ於テハ殆ト未納者ナク從テ小作問題等ヲ耳ニスルコトナキニ至リシト云フ

(二) 農業經營ニ及ホセル影響

從來ノ養蠶ヲ主トシ稻作ヲ從テセル農業經營方針ヲ轉換スヘク其ノ第一段トシテ今回ノ開田ヲナセルモ尙開田地區ノ擴張ノ必要ヲ認メ更ニ八町餘歩ノ適地ヲ求メ目下手續進捗中ニシテ之カ成功ト共ニ益經濟更生ノ基礎ヲ確立スルモノトス

(三) 人心ニ及ホシタル影響

本開田事業前ニ本村ニ於テハ到底生計シ得スト爲シ海外或ハ他ニ移住セムトスルモノ續出スルノ傾向ヲ示シ一般人心ノ安定ヲ缺キ本村ノ將來誠ニ寒心ニ堪ヘサルモノアリシモ開田工事ノ進捗ニ伴ヒ漸ク人心安定シ殊ニ本村ノ如キハ多キハ當反四石以上ノ收穫アリシニ力ヲ得益農事ニ勵ミ今ヤ經濟更生ニ向ヒ邁進シツツアリ

實績ノ三

一、地區名 最上郡新庄町中山耕地整理組合

一、事業ノ種類 古田ノ補水設備(集水暗渠)

二、關係面積 五十九町七反一畝步 組合員百十三名

三、事業施行ノ動機

本地區ハ元新庄町耕地整理組合ニ屬シ明治四十二、三年ニ亘リ開田セルモノニシテ其ノ水源不十分ナル爲毎年植付後ニ水量減少シ旱害甚シク殊ニ近年水源涸渴シ昭和四年ノ如キハ收穫皆無ノ爲二十三町步餘ノ免租地ヲ出スニ及ヒ荒廢ニ歸セムトセリ茲ニ於テ有志相計リ他ニ水源ヲ求ムヘク縣ニ其ノ對策ノ調査方ヲ申請セリ而シテ調査ノ結果現水源地ノ實施設計ヲ得昭和七年ノ時局匡救事業トシテ施行スルニ至リタルモノトス

四、事業計畫ノ大要

本地區ハ泉田川ノ地下水地區内ノ湧出水ニ依リ灌漑セラルルモ近時水源涸渴シ加之通水途中ノ盜水多ク年々旱魃ノ被害尠カラス故ニ新ニ補水源ヲ地區ノ上流部約三百三十間ノ指首野川ヲ堀鑿シ同川ノ地下水ヲ集水暗渠ニヨリ集水ノ上地區ニ導水補給シ尙其ノ河川下流約五百六十間ノ箇所字稻荷前ニ於テ第二集水暗渠並第二補水源ヲ新設シ灌漑水ノ補給ヲ計ラムトスルモノナリ

五、事業費 總額一萬九千圓

科	目	金額	科	目	金額
工	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	工	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
事	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	事	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
務	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	務	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	七、〇〇〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	六〇〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	四五〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一〇、五五〇・〇〇	費	第二集水暗渠費	六、三八〇・〇〇
費	第一集水暗渠費	一七、〇〇〇・〇〇	費	第二集水暗	

創 業 費	三〇・〇〇	計	一九、〇〇〇・〇〇
補 償 費	六五〇・〇〇		

六、事業經過ノ概要

本事業ハ昭和六年縣ノ調査設計ニナリ昭和七年度ニ於テ時局匡救事業トシテ承認ヲ受ケタルモ耕地整理組合設立準備中ナリシ爲差當個人施行トシテ實施シ同七年十二月組合設立ト共ニ組合事業トシテ繼續實施セリ工事ハ隧道ノ如キ特種工事ハ請負ニ附シタルモ他ハ全部直營ヲ以テ施行シ豫定ノ通昭和十年三月竣工セリ

七、事業施行前後ノ收益比較

本地區從來ノ水源ハ萩野村大字萩野仁田山ヨリ通水セルモノニシテ其ノ延長約二里ニ及ヒ近年水源ノ涸渴ト共ニ通水途中ノ損失水量多ク年々満足ナル收穫ヲ得タルコトナク昭和四年度ノ如キハ殊ニ甚シク今工事施行前タル昭和六年度ニ於ケル事實ヲ掲クレハ左ノ如シ

收 種 率	地	積	反 當 收 量	總 收 量
作 付 不 能		〇・三六	石	
六 分 作		二・六八	一・〇八	二八・九四四
八 分 作		二二・六八	一・四四	三二六・五九二
平 年 作		一二・四〇	一・八〇	二二三・二〇〇
計		五九・六七	平均 一・二六五弱	六九五・一〇六

以上ノ通ニシテ灌溉水ノ状態ニヨリ作柄非常ニ不同ナリシモ工事施行ノ結果灌溉水全地區ヲ潤スニ至リタルモ元來

地味瘠セ且水温低キ爲大ナル收量ヲ望ミ難キモ本年度ノ如キハ反當約一石八斗平均ヲ得ル見込ナリ故ニ其ノ數量一千七十四石ニ達シ工事施行前ニ比シ三百七十九石ノ增收ニシテ米價石二十五圓ニテ計算スルトキハ實ニ九千四百七十五圓ノ利益トナルモノト殊ニ中山部落(四十三戸)ニ於テハ年々飯米不足數量二百餘石ナリシモ今後ハ完全ニ自給自足シ得ルニ至ルヘシト

八、農村振興ニ及ホシタル影響

(一) 農家ノ經濟ニ及ホシタル影響

(イ) 事業施行ニヨル勞銀收入

本地區ノ中心タル中山部落ハ元來耕地少ナク農業ノ傍ラ日傭勞働若クハ土工トシテ他部落ニ出稼シ賃銀ヲ得テ生活セルモノ多シ然ルニ近年經濟界ノ不況ニヨリ殆ト收入ノ途ナク且凶作ニ災セラレ部落擧ケテ餓死線上ニ彷徨フカ如キ實情ニアリシニ昭和七年本事業ノ施行ニヨリ就勞シ其ノ延人員一萬五百餘人、賃金六千五百七十六圓餘ヲ得テ活路ヲ開キ得タルモノトス

(ロ) 水引ニ要スル勞力ノ節約

次ニ本工事施行前ハ水源及水路不完全ナル上ニ導水路延長二里ニ及フ關係上途中ニ於ケル盜水多ク之カ防止ノ爲毎年挿秧後六、七、八ノ三箇月間ハ雨天ノ外毎日十一、二人ツツ水番トシテ午前四時頃ヨリ午後七時頃迄出役シ又地區田地ノ配水灌溉人夫トシテ一戸一人ツツ灌溉期間出役セサレハ到底灌溉シ得サリシヲ以テ此ノ仕事ニノミ要セシ人夫約三千人ニシテ之ヲ平均賃銀七十錢ト換算スルトキハ二千百圓トナリ當字ノ如キ貧弱部落ニ於テハ容易ナラサル負擔ナルノミナラス其ノ上尙良收穫ヲ擧ケ得サリシ如キ誠ニ惠レサル地方ナリシニ本事業完成ノ結果其ノ勞力ヲ他方面ニ利用シ得ルニ至リ効果具體的ニハ計上シ得サルモ之カ爲農家ノ經濟ヲ救済セルコト誠ニ大ナルモノアリト云フ

(ハ) 本地區ニ對シ自作農ヲ創設ノ目的ヲ以テ自作農創設資金ヲ貸り受ケタルモノ十一名ニ達セリ然ルニ前記ノ如キ連年ニ亘リ水不足ニ原因スル凶凶作狀態ヲ繰返シツツアリシヲ以テ該資金ノ償還ハ毎年滯納ヲ續ケ利子ノ納入ニモ容易ナラス延期ヲ願出ツルノ止ムナキ有様ナリシモ今後ハ收穫ノ増加ニ伴ヒ十分償還シ得ルニ至レリト云フ

(ニ) 人心ニ及ホシタル影響

灌漑水源ノ不足ニ起因スル水源地萩野村大字萩野及水路接續落部トノ爭議ハ年々幾回トナク發生シ警察當局ノ調停ヲ煩シタルコトモ數回ニ及ヒタリシモ本工事施行ノ結果全ク係争ヲ見サルニ至リ安シテ農耕ニ勤ムコトヲ得ルニ至レリ

實績ノ四

一、事業ノ種類 暗渠排水事業

二、地區名 飽海郡北平田村大字中野曾根外四大字

三、關係面積 百六十五町四反歩

四、事業施行ノ動機

本地區ハ飽海郡耕地整理組合區域ニシテ明治四十三、四年ニ於テ整理施行セラレ區劃整然トシテ道水路ノ設備全ク成リ且地味肥沃ナルモ地區ノ大部分ハ泥炭層ニシテ地下水高ク之カ原因ヲナシテ毎年稻ノ發育ヲ阻害セラレ庄内平野ニ位置スルニモ拘ラス反當收量平均二石二斗前後ナリ之カ對策トシ從來暗渠排水工事ヲ計畫セルモ技術幼稚ナリシ爲良好ナル成績ヲ得ス廣ク普及スルニ至ラザリシモ偶々昭和二年本縣ニ於テ暗渠排水工事補助ノ途ヲ啓カルルヤ本村農會卒先シテ之カ實施ヲ勸奨セルモノトス

五、事業計畫ノ大要

當初施行セルモノハ主トシテ丸太ヲ使用セシモ次テ土管ヲ使用セルモノ大部分ヲ占メ昭和七年度以降ノモノハ混凝土管ヲ使用セリ丸太ヲ使用セシ部分ノ埋設ノ深サハ一尺五寸乃至二尺五寸ニシテ其ノ他ノモノハ三尺以上トセリ各線ノ間隔地勢ニ依リ一樣ナラサルモ概ネ八間幅トセリ排水何レモ良好ナリ
今材料別施行面積ヲ示セハ左ノ如シ

大字名	施行面積	材料ノ種類	
		丸太	土管
中野曾根	六八・九町	三・五町	一五・〇町
漆曾根	五五・三町	一〇・〇町	三五・三町
新青渡	二三・三町	一〇・〇町	二三・三町
久保田	一二・五町	一・一町	一二・五町
曾根田	五・四町	一・一町	五・四町
計	一六五・四町	一三・五町	九一・五町

一、事業費

大字名	施行面積	反當工事費	工事費總額
中野曾根	六八・九町	二五・〇町	一七、二二〇・〇町
漆曾根	五五・三町	二〇・〇町	一一、〇六〇・〇町
新青渡	二三・三町	四三・〇町	九、七八六・〇町

久保田	一・二・五 ^町	二八・五 ^町	三、五六二・五 ^町
會根田	五・四	二二・五	一、二一五・〇
計	一六五・四		四二、八四三・五

以上ノ通總工費四萬二千八百圓ヲ要セルモ其ノ約七割ハ土工費ニシテ尙材料中藥、松葉等ハ何レモ自給シ得タルヲ以テ他ニ支拂ヒタルハ土管代ノミニシテ約三萬五千圓餘ハ施行者ノ收入トナリタルモノトス

六、工事施行ノ經過概況

工事ハ村農會主トナリ各部落ヨリ施行希望者ヲ募リ共同シテ調査ヲ申請シ共同施行ノ形式ヲ以テ實施セルモノニシテ當初資金ハ殆ト村信用組合ヨリ借受ケ所要土管ハ之ヲ共同購入ノ上分配スル等ノ便宜ヲ計リタリ尙事業ハ縣補助事業ニ續キ時局匡救及凶作應急施設等ト各種機會ヲ捕ヘ逐次實施シ今日ニ及ヘリ

七、事業施行前後ノ收益比較

本施行地區ハ庄内平野ノ一部ニシテ殊ニ飽海耕地整理組合地區ニ屬シ整理施行濟ノ地ナルヲ以テ地勢頗ル平坦ナルカ故ニ山地方面ノ如キ傾斜地ニ比較シ暗渠排水ニ依ル增收率著シカラサルモ尙左表ノ通ノ增收ヲ得タリ

施行地區名	施行面積	反當增收量	同上價格	增收總數量	同上價格
中野會根	六八・九 ^町	〇・三〇	七・五〇	二〇六・七〇	五、一六七・五〇
漆會根	五五・三	〇・二〇	五・〇〇	一一〇・六〇	二、七六五・〇〇
新青渡	二三・三	〇・三〇	七・五〇	六九・九〇	一、七四七・五〇
久保田	一二・五	〇・二五	六・二五	三一・二五	七八一・二五

會根田	五・四	〇・二〇	五・〇〇	一〇・八〇	二七〇・〇〇
計	一六五・四			四二九・二五	一〇、七三一・二五

右ハ增收ノミニヨル利益ナルモ更ニ勞力ニ於テ反當三人ヲ節約シ得即チ此ノ延人員四千九百六十二人、一人一日七十錢トシテ計算スルトキハ三千四百七十三圓四十錢ノ節約トナリ又產出米ハ普通四等級ナリシモ排水良好トナリシ結果品質、米等級向上セルカ故ニ石ニ付二十五錢高値ニ取引セラルルヲ以テ工事施行面積ニ對シ反當平均二石五斗、總收量四千三百三十五石ニ對シ一千三十三圓餘ノ増額トナル以上施行前ニ比シ一箇年ノ利益合計一萬五千二百三十八圓トナルモノトス

八、農家經濟ニ及ホセル影響

本地區ノ事業ハ昭和三年度ヨリ施行セルモ最多ク實施セルハ昭和六年度ニ於ケル農山漁村失業救濟資金三萬五千二百圓ノ借入ヲ以テ實施セルモノニシテ之カ爲農家ノ勞力ハ賃銀化セラレ當時困憊セル農家經濟ヲ緩和セラレタルハ勿論ニシテ其ノ他增收ニ依ル利益ノ爲他ニ比シ甚キ經濟的苦痛ヲ感セサリシト云フ殊ニ昭和九年ノ冷害凶作ノ如キ施行地以外ノ田ハ五分作以下ナリシニ施行地ハ殆ト平年作ニ近キ收穫ヲ得他ノ美望ノ的トナリツツアリ故ニ未施行地ニ於テモ實施希望スルモノ續出シ現在百二十町歩ニ達スルノ盛況ニアリ

九、農村振興ニ及ホセル影響

本村ハ前述ノ通飽海郡耕地整理組合地區内ニ屬シ大正六年工事竣工ヲ見タリ然ルニ一部地主間ニ耕地整理ノ結果ト其ノ増歩ニ對シ小作料ノ増徴ヲ主張スルモノアリテ茲ニ小作問題ノ端ヲ發シ爾來毎年抗爭ヲ續ケ縣下ニ於ケル小作爭議地トシテ知ラレシモ大正十四年頃漸ク終熄シ其ノ後平穩ニ農事ニ勵ミツツアリテ暗渠排水施行後一件ノ小作問題等ヲ見ス又本村ニ於ケル納稅成績良好ニシテ國縣稅ノ完納ハ勿論村稅ノ納期内納入ハ實ニ千分ノ九百九十六ニ達

シ而カモ整理期間内ニハ完納シ過年度收入トシテ處分セルモノ更ニナク殊ニ累年ノ不況ト昭和九年度ノ冷害、凶作ニ基ク農家經濟疲弊、困憊其ノ極ニ達セル折ニモ拘ラス良ク納税ノ成績ヲ持續シ一厘ノ滞納處分ヲモ出サスニ終リタルカ如キハ暗渠排水ノ力又與テ大ナルモノアリト信ス

尙本村唯一ノ金融機關タル信用組合ハ偶々暗渠排水工事開始ノ前年ニ組織セラレタルモノニシテ當初工事實施ニ要セシ資金等ハ殆ト本組合ヨリ融通セルモノニシテ暗渠排水施行者ノ大部分ハ組合員タルハ勿論ナリ今參考迄ニ現在ニ至ル預金狀況ヲ示セハ左ノ如クニシテ米價ノ高低及豊凶ニ依リ多少ノ減ハアルモ人員及金額ノ累加シツツアルハ直接、間接ニ暗渠排水事業施行ノ結果齎セル影響大ナルヘク從テ農村振興上多大ノ効果アルモノト信ス

預金 調 (北平田村信用購取利用組合)

年 度	貯 金 總 額	人 員
昭 和 三 年 度	三二、三八二 ^四	六二七 ^八
同 四 年 度	七五、八七二	七六一
同 五 年 度	九九、八四三	八五七
同 六 年 度	一六四、一二〇	九五三
同 七 年 度	一二八、〇二七	一、〇一三
同 八 年 度	一三〇、二八一	一、一五二
同 九 年 度	九七、七四一	一、二四一
同 十 年 度	一一〇、三三六	一、三二四

實績ノ五

一、地區名 飽海郡南平田村耕地整理組合

二、事業ノ種類 開田及開畑

三、關係面積 從前總面積二百三十六町四反一畝二十步

内

開田トナリタル面積 二百九町四反七畝二十一步

畑トナリタル面積 十町三反九畝十四步

四、事業施行ノ動機

本地区ノ中心タル南平田村大字砂越部落ハ從來田少ク開田ヲ希望スルコト切ナリシニ内務省治水工事ニ依リ將來最上川洪水ニ際シテモ地區内ヘ氾濫ノ憂ナキニ至リタルヲ以テ開墾助成法ノ恩典ヲ受ケ開墾事業ヲ計畫スルニ至リタルモノトス

五、事業計畫ノ概要

本事業ハ水源ヲ最上川ニ求メ畑及原野ヲ開田シ灌溉組織及排水ヲ完全ナラシメ交通運搬ノ便ヲ計ラムトスルモノニシテ地勢ノ關係上第一段及第二段ニ揚水シ第一段揚水機ハ最上川ヨリ揚水シ二百三町步餘ヲ灌溉スルモノニシテ實揚程十四尺、揚水量四十立方尺、電動機ハ五十五馬力直結型三臺、各口徑二十二吋トス、第二段揚水機ハ第二用水幹線ヨリ揚水シ六十一町五反步餘ヲ灌溉スルモノニシテ十五馬力直結型口徑十七吋唧筒一臺ニシテ實揚程五尺五寸、毎秒十二立方尺ヲ揚水スルモノニシテ開田面積二百二町步餘、畑十四町步餘、其ノ事業費四十八萬圓ニシテ工事着手ハ大正十五年、同竣工昭和九年八月ニ亙リ七箇年ノ繼續事業トセリ

六、事業費

事業費ノ豫算決算ヲ示セハ左ノ如シ

年 度	收 入		支 出		縣補助金 助成金	工事進捗ノ概況
	豫算額	決算額	豫算額	決算額		
第一年度	一五、九八、〇〇〇	一五、八〇、四七〇	一五、九八、〇〇〇	三三、〇三、六六〇	〃	ナシ
第二年度	二三、九三、〇〇〇	二三、六八、〇二五	二三、九三、〇〇〇	二〇、〇三、〇〇〇	〃	三分
第三年度	二〇、一八、〇〇〇	一九、七六、三三〇	二〇、一八、〇〇〇	一六、三三、一〇〇	三〇、八六、〇〇〇	三分五厘
第四年度	一〇、八〇、〇〇〇	一一、五〇、七三〇	一〇、八〇、〇〇〇	八、八〇、〇〇〇	一〇、八〇、〇〇〇	一分二厘
第五年度	三三、三六、〇〇〇	三三、七〇、〇〇〇	三三、三六、〇〇〇	一七、六三、〇一〇	一七、四七、〇〇〇	四厘
第六年度	九、二六、一〇〇	九、四三、五〇〇	九、二六、一〇〇	六、四三、三九〇	一、〇〇、〇〇〇	六厘
第七年度	一〇、九三、三〇〇	一〇、三三、七〇〇	一〇、九三、三〇〇	五、五〇、四〇〇	五〇、〇〇〇	六厘
第八年度	九、八四、〇〇〇	九、四〇、一五〇	九、八四、〇〇〇	六、九三、二〇〇	四七、〇〇〇	五厘
第九年度	八、三三、〇〇〇	八、四三、三〇〇	八、三三、〇〇〇	五、八〇、七〇〇	三、三九、〇〇〇	二厘
第十年度	七、八三、三〇〇	七、七四、一〇〇	七、八三、三〇〇	五、三三、九〇〇	三、三三、九〇〇	〃
第十一年度	七、五〇、〇〇〇	七、八四、一〇〇	七、五〇、〇〇〇	六、三三、五〇〇	三、三九、〇〇〇	〃
計	一、三〇一、七六、四四五	一、二九、五六、八八五	一、三〇一、七六、四四五	一、〇三三、六三、七五〇	一、六、六六、八〇〇	〃

七、事業施行ノ經過

大正十二年四月九日實施設計申請ヲ縣ニ提出シ大正十四年十月九日組合設立認可申請、大正十五年三月二日組合設立認可ヲ得タルモノトス大正十五年十一月四日起工式ヲ行ヒ爾來工ヲ進メ歲ヲ重ネタルコト九箇年ニシテ工事ノ主要ナルモノハ第一、第二揚水場工事、第一、第二用水幹線、舊砂越排水路埋立及新設等ニシテ開田地積二百三町六反歩餘豫想以上ノ成績ヲ收メ完了セリ

而シテ年々ノ稻作收量成績又頗ル良好ニシテ左表ノ通トス

年 度	作 付 地 積	反 當 收 量	總 收 量
昭和二年	六〇、七四、一九	二、三一二	一、四〇四、四一二
同 三 年	一三四、三七、一七	二、六七六	三、五九六、〇六八
同 四 年	一五九、七五、二七	二、七六六	四、四一八、七四五
同 五 年	一六八、二六、一七	二、六九二	四、五二九、〇六九
同 六 年	一八〇、五三、一〇	二、五一一	四、五三七、二〇〇
同 七 年	一九三、〇八、一九	二、五七六	四、九七五、四二四
同 八 年	二〇三、六三、二一	二、九二七	五、九六〇、九五八
同 九 年	二〇六、七三、二四	一、九三二	三、九九四、七八八
同 十 年	二〇七、一八、一四	二、六三九	五、四六七、四九三
同 十 一 年	二〇九、四七、二一	二、七〇一	五、六五七、九七四

前表ノ通收量豫想以上ノ好成绩ヲ收メタルヲ以テ組合員ノ分賦金ノ納入成績モ亦良好ニシテ其ノ狀況ヲ掲ケレハ左

計	二二・五〇〇	一	三五・七一七・九〇
---	--------	---	-----------

事業費六十一萬二千二十圓 自創 立 事業ニ要シタル支出總額
 利廻リ五分八厘 至第十一年度末

以上ノ通ニシテ年々ノ收益尠カラサルノミナラス工事期間中ハ恰モ農村不況時代ナリシニ本工事施行ニ際シテハ特種ノモノヲ除ク外ハ全部各部落ノ代表者ヲシテ工事引受人トシ其ノ使役人夫ハ殆ト組合員ヲ出役セシメタリ依テ中産階級以下ノ組合員ハ其ノ勞銀ノ收入ヲ貯蓄シ以テ組合費用ニ充テタル爲組合費ノ納入ニモサシテ苦痛ナク納入セリ今各部落別勞銀收入ヲ示セハ左ノ如シ

引受工事費總額 十二萬六千八百六十九圓十四錢

内 譯

引受部落名	金額	引受部落名	金額
大字砂越	三七、一五・七〇	大字遊摺部	二四、七四三・八〇
同飛鳥	三、一五〇・〇〇	同丸沼	四、九四八・七六
同茨野新田	一四、八四六・二九	同榎木	一九、七九五・一五
同小牧	二二、二六九・四四		

猶本地區整理前ハ過半卑濕ナル畑、不毛ノ原野及水源ヲ有セサル僅カノ天水田ナリシモ整理後急速ナル生産増加ニ伴ヒ農家經濟ニ餘裕ヲ生シ疲弊セルモノハ逐次負債ヲ整理シ或ハ貯蓄ヲ爲シ納稅、小作料ノ如キハ納入成績極メテ

良好ニシテ不納ノモノ皆無ナリト云フ開田以前ハ前記ノ如ク田地少ナキ爲組合員中自家用飯米ノ半ヲ他ヨリ購求シタルモノ數十戸アリシモ事業ノ恩澤ニヨリ何レモ自給自足シ得且砂越部落ノミニテモ米藏ヲ建テタルモノ十一戸ニ及ヘリト如何ニ經濟的方面ニ對シ好影響ヲ齎シタルヤ親ヒ知ルヲ得ヘシ

實績ノ六

- 一、地區名 西村山郡川土居村稻澤原耕地整理組合
- 二、事業種類 開田事業(導水路ノ新設)
- 三、施行地ノ實測面積

地目	面積	地目	面積
畑	二二・九四〇三	計	三二・七二二三
山林	九・六〇〇五	國有地	〇・七六〇〇
原野	〇・一六一五		
宅地	〇・〇二〇〇	合計	三三・四八二三

四、事業施行ノ動機

由來本稻澤部落ハ水田面積少ク一戸當ノ耕作面積僅ニ三反歩餘ニ過キス飯米ハ寧他ヨリ供給ヲ受ケツツアリシモ幸ヒ農作物又ハ蠶繭價額ノ調和ニ依リ辛シテ農家經營ヲ維持シ來リタルモ近年農產物蠶繭價額ノ暴落ニ遭遇シ爾來財界不況ノ持續ニ依リ農家ノ經營著シク困難ヲ來シ再ヒ立ツ能ハサル如キ狀況ヲ呈セリ從テ之等農家ノ經營ヲ更生スルハ本部落内ノ耕地開發ニアリトナシ本計畫ヲ企圖スルニ至リタルモ偶々農村窮乏打開策トシテ政府ノ施設タル二

年量開墾助成ノ恩典ニ浴シ事業ノ始期ヲ早メ有利ニ事業遂行ヲ見タルモノナリ

五、事業計畫ノ大要
地區ハ西村山郡川土居村大字吉川地内ニシテ羽越三派ノ支派ヲ負フ高臺地ニシテ地區ノ面積ハ前記ノ如ク三十二町步餘就中畑、山林ハ大部分ヲ占ムル土地ナリ水深ハ本地區ノ上流約二千間ノ地點山形電氣株式會社吉川發電所ノ落水ヲ使用スル協定ヲ得テ新ニ導水路ヲ新設セリ而シテ取入口ヨリ八十二間ヲ暗渠トナシ途中ノ四百七間ノ隧道、二百七十八尺ノ逆サイフォンニ依ル外素堀開渠ヲ以テ所要水量四立方尺ヲ導水シ本地區ノ水源トセリ而シテ之カ開田面積ハ二十町八反餘歩ヲ施行シタルモノナリ

六、事業費 反當百七十八圓二十五錢

年度	豫算額	決算額	國縣補助額	工事進捗ノ概況
昭和七年度	一三、一四三・三〇	一三、一四三・三〇	一、二九九・五一	時局匡救二年量開墾助成金 全工事ノ一割八分
同八年度	二七、九二〇・四六	二七、九二〇・四六	一四、九八九・七八	全工事ノ六割
同九年度	四、九三七・〇七	四、九三七・〇七	九一六・九〇	全工事終了
同十年度	八、一六六・〇三	六、九九五・六八		
同十一年度	八、五九三・七五		二、〇〇〇・〇〇	凶作應急施設事業補助金
計	六二、七六〇・六一	五二、九九六・五一	一九、二〇六・一九	

七、事業施行ノ經過

工事ハ昭和七年十二月五日着手セリ本工事ハ前述ノ如ク本部落更生ノ根本對策トシテ將來ニ於ケル飯米ノ自給ヲ主眼トシ直接ニハ工事ニヨル勞銀ヲ得セシメ以テ現在ニ於ケル農家經營ノ調和ヲ計ル見地ヨリ出來得ル限り部落民ノ

就勞ヲ期シタリ從テ工事ハ全部直營ヲ以テ實施セムトセルモ工事ノ性質上一部請負ヲ餘儀ナクセラレタリ然リト雖總工事費ノ約六割二萬七千餘圓ハ勞銀トシテ部落民ニ還元セラレタル狀況ナリ而シテ工事ハ順調ニ進行シタルモ偶々昭和八年七月九日前後ノ豪雨連續ニヨリ排水路ノ設備未タ不完備ナル爲導水路ハ溢水シ導水路及既成田ノ一部決壊ノ災厄ヲ蒙リタルモ其ノ他大ナル障害ナク昭和九年九月三十日當初ノ目的タル工事ノ完成ヲ告ケタリ

八、事業施行前後ノ收益
整理前ハ前記ノ如ク畑、山林等ニシテ收益微々タルモ整理後ニ於ケル田ノ收益ハ反當四十三圓トナリ反當事業費百七十八圓二十五錢ニ對スルトキハ約二割ノ利廻トナレリ之カ總收益左ノ如シ

地目	整理前			整理後		
	面積	反當收益	總收益	面積	反當收益	總收益
田	三、九四〇町	三、〇〇	六八八・二五	二〇、八〇五町	四、〇〇	八、四七・七〇
畑	九、六〇四町	一、〇〇	六、〇〇	一〇、三六六町	三、〇〇	三、〇〇・九六
山林	九、六〇四町	一、〇〇	六、〇〇			
原野	〇、一六五町	一、〇〇	一、六〇			
宅地	〇、〇一〇〇町					
計	三三、七二〇町		七五・八五	三三、一七二町		九、二五八・五三

九、農村振興ニ及ホセル影響

(一) 農家經營ニ及ホセル影響

本部落ノ農家戸數ハ二十五戸ニシテ耕作面積七町步餘、一戸當平均三反步ニ過キサレ水田面積ナルヲ以テ其ノ收

量ヲ以テシテハ到底飯米ノ自給不可能ニシテ年々一戸當約五石ノ供給ヲ受ケツツアル状態ナリ從テ現金ノ支出著シク加フルニ近年ノ財界不況ニ惱サレ農家ノ困憊極度ニ達シタリ然ルニ現在ニ於テハ約三倍二十町八反餘歩ノ水田面積ノ擴張トナリ飯米ノ自給ヲ得テ尙一戸當約三石餘ノ剩米ヲ移出シ得ル現状ニアリ且工事中ニ於テハ直接勞銀所得ニヨリ幾分ニテモ農家經濟ノ不況ヲ緩和シ得タル等之カ爲農家經營著シク好調ヲ來セル状態ニ至リタリ

(二) 農業經營ニ及ホセル影響

本部落ハ前記ノ如ク耕作面積少ナキ爲常ニ小作地ヲ求ムルニ頗ル困難ナル實情ニアリタリ尙又本地方ノ農家ハ草履表ノ製造ヲ副業トセルモ原料ハ是亦他ヨリ供給ヲ受ケツツアリタリ然レ共耕地ノ擴張ニ依リテ之等ノ問題ヲ解決シ得タル外農事改良實行組合ヲ組織シ經營ヲ益強化ナラシメ農業ノ經營安定ヲ得ルニ至レリ

(三) 人心ニ及ホシタル影響

近時農村ニ於ケル人心ハ耕地狹隘ノ爲一層個人主義ニ移ラムトスル傾向濃厚ナルトキ今回ノ耕地擴張ハ之ヲ一掃シ共同一致ノ精神ヲ涵養シ益本部落ノ更生ニ協力スル等頗ル好結果ヲ齎ラシメタリ

一、農村振興上耕地事業ノ將來採ルヘキ指導方針

耕地事業ノ振否ノ農村振興上多大ノ影響アルハ今更暇々ヲ要セサルトコロナリ即チ本事業ノ施行ニ依リテ農家自體ノ生産ヲ増加シ以テ農業經營ヲ合理化シ農家經濟ヲ緩和シ延ヒテ農村全般ノ振興トナル主要事項ナリ殊ニ現在ノ如キ農村經濟ノ不況時ニ於ケル本事業ノ實施ハ農村經濟更生上最有効適切ニシテ直ニ農家ニ對シ勞銀ヲ與ヘ窮乏セル農家經濟ヲ救済シ一ハ當面ノ應急策トナリ一ハ將來ノ生産ヲ増加シ即チ恒久策トナリ其ノ効果實ニ甚大ナルモノアリ故ニ極力之カ獎勵ヲ計ラサルヘカラスト雖克ク農村ノ實情ト耕地事業ノ現況トニ鑑ミ從來ノ獎勵指導方針ヲ踏襲スルハ勿論ナリト雖更ニ左ノ事項ニ注意シ指導セムトス

北振興計畫ヲモ織込ミ指導方針ヲ確立セムトス

二、經濟更生指定町村ノ耕地事業計畫ニ對シテハ特ニ擔當技術員ヲ定メ指導ノ徹底ヲ致シ以テ事業ノ促進ヲ計リ速ニ經濟更生ノ實ヲ擧ケシムルコト

三、曩ニ實施セル匡救事業及凶作應急事業ハ事業ノ配分上並施行期間ノ制限等ニ因リ一般ニ姑息ナル小事業ノ實施セラレタルモノ多ク從テ水利交通等ノ連絡統一ヲ缺キ將來ノ農村計畫ニ支障ヲ來セルヤノ嫌ナキニ非ラス故ニ將來ハ十分之カ矯正ニ注意シ専ラ永久的施設ノ完全ヲ期スルノ方針ヲ以テ指導スルハ勿論農村計畫ノ樹立ニ向ヒ努力セムトス

四、東北地方特有ノ災害タル冷害ノ防止ニ注意スルコト即チ其ノ方法トシテ灌溉水ノ保温及水温上昇ニ關スル設備及滲透水ノ減少ヲ計リ水温、地温ノ保持並用水量ヲ節約スヘク床練、床締工ノ獎勵或ハ地下冷水ノ控除ノ爲暗渠排水工事ノ普及獎勵ヲ計ラムトス

五、縣下ニ於テハ山村僻陋地ニシテ食糧自給ニ乏シキモノ多キヲ以テ之等ニ對シテハ國庫ノ助成ヲ仰キ小開墾事業ノ實施ヲ獎勵スルト共ニ國ノ方針ニ策應シ自作農創設ノ目的ノ下ニ集團農耕地ノ開發事業ヲ獎勵シ將來農業經營ノ基礎ヲ確立スルト共ニ農村振興ニ資セムトス

六、耕地整理組合ニ對シテハ特ニ會計事務ノ監督ヲ嚴シ不正事件ヲ未前ニ防キ又工事ニ對シテモ嚴正ナル指導監督ヲ行ヒ以テ事業ノ完全ナル遂行ヲ期セムトス

福島縣

一、農村振興上耕地事業ノ實績 (昭和十年度迄)

農村ノ振興又ハ衰退ノコトタルヤ幾多ノ社會的或ハ經濟的事情ニ基クモノニシテ耕地事業力其ノ間ニ在リテ如何ナル

程度ニ寄與スル處アリシヤヲ明カニスルコトハ蓋シ容易ノコトニ在ラス
然レトモ往古ヨリ農村カ極度ニ疲弊シタル場合ニ其ノ救済策トシテ或ハ食糧缺乏ヲ來セル際當然ノ要求トシテ爲政者
カ開墾事業及之ニ伴フ灌漑施設ヲ行ハシメタルコトノアル點ヨリシテ農村振興上有效ナル事業ナルコトハ何人モ認ム
ル處ナルヘシ

今最近ニ於ケル本縣ノ實績中稍々顯著ナル事項ヲ列擧スレハ次ノ如シ

一、安積平野ノ開發

明治新政府ハ國土開發ト廢藩ニ伴フ士族ノ生活安定ヲ圖ラムトシテ安積疏水事業ヲ起シ七千町歩ノ水田ヲ開發シ今
日一市十三箇町村、十一萬住民ノ生活地ヲ造成セリ

二、凶作對策事業

明治三十八年東北地方大凶作ニ見舞ハルルヤ罹災農民ヲ救済シ併セテ將來ノ農村振興ヲ圖ルニハ耕地整理事業ヲ以
テ最適切ナルモノト認メ事業費ノ補助、事業資金ノ貸與、工事並事務ノ指導ヲ爲シ明治三十九、四十、四十一年ノ
僅カ三箇年間ニ一萬六千餘町步即チ現在迄ノ整理施行面積ノ半ヲ實施セリ之カ爲事業施行地ノ今日受ケツツアル
農耕、生産上ノ利益實ニ大ナルモノアリ

次ニ昭和九、十兩年ノ冷害ニ於テモ前記同様ノ目的ヲ以テ耕地事業ノ施行ヲ獎勵シ特ニ冷害防止ヲ目的トスル用排
水ニ關スル施設ヲ行ハシメ幾多ノ實效ヲ收メツツアリ

三、時局匡救事業

昭和七年時局匡救事業ヲ實施セラルルニ當リ耕地事業ヲ其ノ一ニ選定セラレタルハ農村救済ニ最適切ナリシモノナ
リ即チ其ノ一時的救済ヲ爲シ得タルハ勿論其ノ生産的事業ナル點ニ於テ將來ノ農村振興ノ基礎ヲ確立シ得タル特徴
ヲ有ス

四、以上ハ臨時事業ノ主ナルモノナルモ本縣ハ明治三十六年以來毎年耕地整理及土地改良事業ヲ實施シ時ニハ水害復
舊、旱害防備等ノ施設ニモ意ヲ用ヒ農村ノ振興ヲ助ケタルコト大ナルモノアリ其ノ詳細ハ別表ノ通トス

次ニ之ヲ耕地面積ニ付キ觀察シ特ニ注目ニ値スル點ヲ記載スレハ次ノ如シ

一、本縣耕地ハ毎年平均六百九十五町步(最近十箇年平均)ツツ潰廢シツツアルニモ拘ハラズ尙耕地總面積ニ於テハ漸
増ヲ示シツツアルハ耕地整理法、開墾助成法其ノ他政府ノ應急策ニ基ク耕地擴張改良施設ニ依リ潰廢面積以上ノ擴
張ノ行ハレツツアル結果ニシテ之レ農村振興上重要ナル役割ヲ果シツツ在ルコト明ナリ

二、前記ノ如ク耕地總面積ハ漸増ヲ示シツツアリト雖之ヲ相對的ニ見ルトキハ寧減少ヲ見ツツアリ即チ人口増加ニ基
ク一人當乃至農家一戸當耕地面積ハ漸減ヲ辿リツツアリ殊ニ農家一戸當耕地面積ノ減少ハ農業經營上重大問題ニ屬
シ從テ農村ノ振興ト至大ノ關係アルモノナリ而シテ本縣農家一戸當耕地面積ハ三十年前ノ明治三十九年當時一町三
反六畝步ナリシニ耕地整理ノ施行ト農家戸數ノ減少ニ依リ漸増ヲ示シツツアリタルモ大正六年ノ一町五反八畝步ヲ
頂上トシテ漸減ニ轉シ昭和十年末ニ於テハ一町三反五畝步ニ激減シ毎年平均一畝三步ノ減少率ヲ示シ甚ク憂フヘキ
現象ヲ眼前ニ展開シツツアリ然ルニ此間ニ在リテ昭和七、八、九ノ三箇年ノ一戸當耕地面積ハ昭和六年ニ於ケル一
町三反七畝步ヲ持續シ減少停止ノ狀態ヲ出現シタリ之レ前記時局匡救及凶作應急等ノ農業土木事業トシテ耕地擴張
ヲ行ヒタル結果ナリト見ルコトヲ得ヘシ

三、更ニ之ヲ耕地整理法其ノ他ニ依ル耕地保護政策ヲ行ハスシテ耕地ヲ潰廢ノ儘ニ放置シ其ノ擴張ヲ行ハサリシモノ
トスレハ過去三十年間(明治三十九年ヨリ)ニ於ケル潰廢面積ハ一萬六千六百四十八町步ニ及ヘルヲ以テ昭和十年末
ノ耕地總面積ハ十五萬八千九百九十七町步(農家一戸當現在戸數ニテ)一町一反二畝步トナリシモノナリ

然ルニ現在耕地總面積十九萬一千六百五十一町步(一戸當一町三反五畝步)ヲ保有シ得ルハ其ノ間三萬二千六百五十
四町步(一戸當二反三畝步)ノ増加ヲナシタル結果ニシテ此數字ノ大部分カ耕地政策ニ基ク直接又ハ間接ノ獎勵ニ因

ルモノト見ルヲ得ヘシ
 從テ現在三十年前ニ比シ一萬三千百五十五戸ノ農家ノ増加ヲ見ルニ至レルハ以上ノ關係ヨリシテ耕地政策ニ負フ處
 尙最近施行シタル耕地事業ニ付キ時局匡救又ハ災害應急ノ目的タル就勞狀況ヲ調査スルニ左表ノ如シ

自昭和七年
 至同十年 四箇年間ノ耕地事業ニ依ル就勞狀況一覽

事業種別	事業費	受益面積	就勞延人員	勞銀支給額	摘
匡救又ハ應急施設事業	四、四六、七四圓	七、〇七一町	三、〇〇三、三三一人	二、四〇、六八圓	匡救及應急事業ヲ含ム
農業水利改良事業	一、〇八、八五三	一、五八、六四	一、〇九、四四五	九七、五五	
一般耕地整理及土地改良事業	一、八二、五三六	三、七二六	一、五五、七二	一、三六、七七	摘
計	七、三七、一八五	九、〇、五二	五、七六、六八	四、六三、〇〇	

備考 縣下戸數割平均等位以下ノ農家戸數 九三、三一六戸
 内 要救済戸數(右ノ三分ノ一) 三一、一〇五
 右一戸當取得貨銀 總額 一四九、一四〇
 一箇年當 三七、二八五

耕地擴張改良事業實施成績 (明治三十六年以降)

事業種別	耕地擴張		耕地改良		事業費	摘
	田	畑	田	畑		
明治三十八年凶作對策	二、二、二五町	空町	一、一、七〇町	一、〇、四三町	二、四三、〇〇圓	耕地整理

事業種別	耕地擴張		耕地改良		事業費	摘
	田	畑	田	畑		
昭和七、八、九年度時局匡救事業	八、七	七	五、六六	二、七	三、五三、〇五	耕地整理 土地改良 農業水利 開墾助成等
昭和九年度凶作冷害應急事業	一、一、〇〇	一、〇	一、一、〇〇	一、〇	一、〇九、一〇	
一般耕地整理事業	一、一、〇〇	一、〇	一、一、〇〇	一、〇	一、〇九、一〇	暗渠排水ヲ含ム
一般土地改良事業	一、一、〇〇	一、〇	一、一、〇〇	一、〇	一、〇九、一〇	
農業水利改良事業	一、一、〇〇	一、〇	一、一、〇〇	一、〇	一、〇九、一〇	
開墾助成事業	一、一、〇〇	一、〇	一、一、〇〇	一、〇	一、〇九、一〇	
計	六、五、四	九、〇	二、三、三	二、七、〇	二、六、八四、三三圓	

耕地増減狀況年次別表

年次	農家戸數	耕地面積		擴張	潰廢	摘
		總數	農家一戸當			
明治三九年	二八、〇六	一、五、六五町	一、一、一五町	不詳	不詳	三十年前
同 四〇年	二八、一五	一、四、三三町	一、一、一五町	不詳	不詳	
同 四一年	二七、〇三	一、六、四九町	一、一、一五町	不詳	不詳	
同 四二年	二六、五六	一、七、三九町	一、一、一五町	不詳	不詳	
同 四三年	二五、六一	一、八、〇五町	一、一、一五町	不詳	不詳	
同 四四年	二四、六五	一、八、四三町	一、一、一五町	不詳	不詳	
同 四五年	二四、三三	一、八、八七町	一、一、一五町	不詳	不詳	
同 四六年	二四、〇三	一、九、〇七町	一、一、一五町	不詳	不詳	
同 四七年	二三、三三	一、九、〇七町	一、一、一五町	不詳	不詳	
同 四八年	二二、六四	一、九、〇七町	一、一、一五町	不詳	不詳	

テ用排水ノ改良ニ勉メタル結果今日全ク面目ヲ一新スルニ至レリ其ノ実績ニ付調査スルニ左ノ如シ

一 關係町村數	二郡二十三箇町村		
二 受益水田地積	六、八一九・二〇	内譯	上田 一、六九六・五〇 中田 二、一九二・二五 下田 二、九三〇・五二
三 事業施行ニ依ル増収量(年)	一七、〇四四・九二	内譯	上田 二、三八三・六二 中田 五、三三九・八二 下田 九、三一一・四八
四 増収ニ依ル利益金(年)	五一一、三四七・六〇	内譯	上田 七一、五〇八・六 中田 一六〇、四九四・六 下田 二七九、三四四・四
五 實施セル耕地事業費	一、九九四、一五五・〇〇	内譯	縣管排水事業 一六七〇、〇〇〇 時局匡救小用排水事業 一二九、九〇〇 水害應急事業 四〇、七三九 水害復舊事業 一五三、五一四
六 事業費負擔區分(總額)	一、九九四、一五五・〇〇	内譯	國庫補助金 九九三、〇〇〇 縣費負擔金 三七九、二九七・一四 地元負擔金 六二一、八五四・二六(三割一分)
七 利益關係ノ説明			

大體以上ノ如キ内容ヲ有スル事業ナルカ年々増収ニ依ル利益金五十一萬一千三百四十七圓ヲ總事業費、各負擔區分事業費ニ對シテ其ノ利廻リヲ見ルニ總事業費ニハ二割五分六厘、國庫補助金ニハ五割一分一厘、縣費負擔金ニハ三割五分、地元負擔金ニハ八割二分三厘ニ當ル更ニ土地賣買價格増進ニ依ル利益金二百六十八萬五千三百四十九圓ニ對スル利廻リヲ見ルニ總事業費ニハ三割四分六厘、國庫補助金ニハ二十七割四厘、縣費負擔金ニハ七割八分四厘、地元負擔金ニハ四十三割二分三厘ニ當ル計算ナル右ノ中土地賣買價格増進額ハ單ニ事業施行ノ結果ノミトハ見難キモノアレトモ増収關係ノ利益ハ大體事業施行ノ結果ニシテ耕地事業ト其ノ利益トノ關係ノ一斑ヲ窺フニ足ルヘシ尙事業施行ノ結果間接ニ受クヘキ地元農家ノ利益ハ蓋シ莫大ニシテ枚舉ニ遑アララス

一
二
三
四
五
六
七

茨川沿岸農業水利改良事業地域ハ茨城縣北相馬、稻敷兩郡ニ跨リ一十一箇村ヲ抱擁シ面積一萬二千町歩ヲ有スル一團ノ低濕耕地ニハ中央ヲ東西ニ貫流スル新利根川及支派線其ノ他ヲ改修シ以テ改良ヲ期シ農家ノ收益ヲ多カラシムル目的ニ依リ大正十五年開始昭和二年起工其ノ後着々工事進捗シ昭和十年度事業完了ノリキ、此ノ間新利根川改良事業ト並行シ時局匡救龍ヶ崎町外十ヶ村農業水利改良事業、下利根川小貝川沿岸水害豫防組合ノ小用排水事業ヲ施行シ支派線ノ一部其ノ他ヲ改良シ効果大ニ看ルヘキモシニ拘ラス昭和十年九月二十六日利根川未曾有ノ洪水ニ遭遇シ小貝川ノ決潰ニ基因シ一萬二千町歩ノ耕地ニ氾濫シ大泥海ト化ト雖此時既ニ新利根川ノ改修ハ略完成ニ近ツキツアリテ其ノ早カラシメ地域ノ大部分ハ數日ナラスシテ減水シ往年ノ如キ利根川ノ決潰ニ依ル慘害ヲ見スシテ救ハレタルハ全ク新利根川改良ニ依リ排除以外豫期セサル洪水ニ基ク湛水ノ被害ヲ輕減シタルニ依リモ是カ爲既ニ完了セル各種工事ノ一部破壊流失等多大ノ損害アリシカ直チニ復舊工事ニ着手シ昭和十一年度ノ稲作ニ支障ナカタリ以上各種事業ノ爲百九十九萬四千圓餘ヲ投シタリト雖別表現況ニ於テ年々ノ收益増加五十一萬餘圓、土地價格増進二百六十四圓餘ヲ示シ其ノ成績見ルヘキモノアリ

新利根川改修ニ依ル受益表

町種別	村別	面積			積計	年々				計	増収量	増収金額 (石百圓ノ割)	平均反當 土
		下田	中田	上田		下田	中田	上田	計				
北相馬郡	川原代村	六町三	四町九	一町三	一〇七石	四三石	六三石	一〇七石	一〇七石	四三石	六三石	一〇七石	二五〇圓
高須村													
北文間村													
文間村													
布川町													
東文間村													
文間村													
龍ヶ崎町													
大宮村													
八原村													
生板村													
源清田村													
長竿村													
長戸村													
根本村													
柴崎村													
高田村													
太田村													
大須賀村													
伊崎村													
金江津村													
十餘島村													
本新島村													
計													

新利根川沿岸農業水利改良事業費

昭和十一年十一月現在調査

經過概要

種別	種別	負擔區分			
		總額	國庫補助	縣負擔	地元負擔
新利根川沿岸農業水利改良事業費	龍ヶ崎外十七箇村農業水利改良事業費	1,500,000圓	750,000圓	1,200,000圓	450,000圓
下利根川	沿岸水害豫防組合小用排水事業費	1,200,000圓	600,000圓	1,000,000圓	400,000圓
小貝川	沿岸水害豫防組合小用排水事業費	300,000圓	150,000圓	200,000圓	80,000圓
同	水害應急事業費	400,000圓	200,000圓	300,000圓	100,000圓
同	水害復舊事業費	1,100,000圓	550,000圓	800,000圓	300,000圓
同	新利根川沿岸農業水利水害復舊事業費	1,400,000圓	700,000圓	1,000,000圓	400,000圓
合	計	1,900,000圓	950,000圓	1,300,000圓	500,000圓
事業費負擔割合	計	100%	50%	19%	3%

以上事業費ニ對スル利益

種別	種別	事業費負擔區分ニ對スル利益歩合			
		總額ニ對シ	國費ニ對シ	縣費ニ對シ	地元負擔ニ對シ
年々増收ニ依ル利益		51,347.6圓	2,568.0圓	5,136.0圓	1,943.6圓
土地價格増進ニ依ル利益		2,653,390.0圓	1,326,695.0圓	2,700,000.0圓	1,026,695.0圓

新利根川沿岸農業水利改良事業地域ハ茨二町二十一箇村ヲ抱擁シ面積一萬二千町シテ其ノ中央ヲ東西ニ貫流スル新利根川耕地ノ改良ヲ期シ農家ノ收益ヲ多カラシムル事業ヲ開始昭和二年起工ノ後著々工事豫定ナリキ、此ノ間新利根川改良事業ト七箇村農業水利改良事業、下利根川小貝水改良事業ヲ施行シ支派線ノ一部其ノ他ノアリシニ拘ラス昭和十年九月二十六日シ支流小貝川ノ決潰ニ基因シ一萬二千町シタリト雖此時既ニ新利根川ノ改修ハ略排水ヲ早カラシメ地域ノ大部分ハ數日ナ根小貝決潰ニ依ル慘害ヲ見ステ救ハレリ内水排除以外豫期セサル洪水ニ基ク湛然レトモ是カ爲既ニ完了セル各種工事ノ蒙リタリシカ直チニ復舊工事ニ着手シ昭ラシメタリ以上各種事業ノ爲百九十九萬ノ如ク現況ニ於テ年々ノ收益増加五十一十八萬圓餘ヲ示シ其ノ成績見ルヘキモノ

新 潟 縣 農 業 概 況

郡	町	村	戸数	人口	耕地	家畜	産業	備考
北見	北見	北見	1,234	5,678	100,000	100	農業	
上川	上川	上川	1,567	6,789	120,000	150	農業	
中川	中川	中川	1,890	8,012	150,000	200	農業	
下川	下川	下川	2,123	9,345	180,000	250	農業	
津和野	津和野	津和野	2,456	10,678	200,000	300	農業	
雄勝	雄勝	雄勝	2,789	11,801	220,000	350	農業	
秋田	秋田	秋田	3,123	13,456	250,000	400	農業	
山形	山形	山形	3,456	14,678	280,000	450	農業	
福島	福島	福島	3,789	15,801	300,000	500	農業	
茨城	茨城	茨城	4,123	17,012	350,000	550	農業	
栃木	栃木	栃木	4,456	18,234	400,000	600	農業	
群馬	群馬	群馬	4,789	19,456	450,000	650	農業	
埼玉	埼玉	埼玉	5,123	20,678	500,000	700	農業	
千葉	千葉	千葉	5,456	21,801	550,000	750	農業	
東京	東京	東京	5,789	23,012	600,000	800	農業	
神奈川	神奈川	神奈川	6,123	24,234	650,000	850	農業	
山梨	山梨	山梨	6,456	25,456	700,000	900	農業	
長野	長野	長野	6,789	26,678	750,000	950	農業	
岐阜	岐阜	岐阜	7,123	27,801	800,000	1,000	農業	
富山	富山	富山	7,456	29,012	850,000	1,050	農業	
石川	石川	石川	7,789	30,234	900,000	1,100	農業	
福井	福井	福井	8,123	31,456	950,000	1,150	農業	
滋賀	滋賀	滋賀	8,456	32,678	1,000,000	1,200	農業	
京都	京都	京都	8,789	33,801	1,050,000	1,250	農業	
大阪	大阪	大阪	9,123	35,012	1,100,000	1,300	農業	
和歌山	和歌山	和歌山	9,456	36,234	1,150,000	1,350	農業	
奈良	奈良	奈良	9,789	37,456	1,200,000	1,400	農業	
徳島	徳島	徳島	10,123	38,678	1,250,000	1,450	農業	
香川	香川	香川	10,456	39,801	1,300,000	1,500	農業	
高松	高松	高松	10,789	41,012	1,350,000	1,550	農業	
愛媛	愛媛	愛媛	11,123	42,234	1,400,000	1,600	農業	
高知	高知	高知	11,456	43,456	1,450,000	1,650	農業	
福岡	福岡	福岡	11,789	44,678	1,500,000	1,700	農業	
佐賀	佐賀	佐賀	12,123	45,801	1,550,000	1,750	農業	
熊本	熊本	熊本	12,456	47,012	1,600,000	1,800	農業	
大分	大分	大分	12,789	48,234	1,650,000	1,850	農業	
宮崎	宮崎	宮崎	13,123	49,456	1,700,000	1,900	農業	
鹿児島	鹿児島	鹿児島	13,456	50,678	1,750,000	1,950	農業	
沖縄	沖縄	沖縄	13,789	51,801	1,800,000	2,000	農業	
北海道	北海道	北海道	14,123	53,012	1,850,000	2,050	農業	
合計			1,234,567	5,678,901	100,000,000	1,000,000	農業	

一、農村振興上耕地事業ノ將來採ルヘキ指導方針

耕地事業ニ付テハ本省ノ施政方針ニ基キ斯業ノ促進達成ヲ圖ルハ勿論時勢ノ進運ニ順應シ指導獎勵ノ施設ヲ一層完備シ大規模ノ用排水改良事業ノ實施ヲ期スルト共ニ小規模ノ改良擴張事業ニ對シテモ指導獎勵ヲ一層徹底セシムトス尙最近ノ實狀ニ徴シ左記事項ニ付テハ特ニ留意セムトス

一、不測ノ障害其ノ他ニ依リ經營困難ニ陥レル組合ニ對シテハ事業資金ノ利子引下ケ長年賦資金ノ借換ニ依リ之ヲ救済ノ途ヲ講セラレタル此ノ機會ニ於テ各組合員ニ其ノ主旨ノ徹底竝組合員ノ精神ヲ更新セシムルト共ニ組合財務ノ整理維持管理ニ力ヲ致シ以テ組合ノ更生ヲ圖ルヘク組合ヲ十班ニ分チ夫々擔當者ヲ定メ特別指導督勵ヲ爲シ以テ健全ナル組合ニ立直サムトス

二、耕地擴張改良事業ハ農村經濟更生ノ根源ナルヲ以テ經濟更生指定町村ニ對シテハ特ニ留意シ本事業ノ施行ヲ指導督勵シ以テ農村更生ノ實績ヲ擧ケシムトス

三、人口増加ノ割合ニ耕地面積増加セス從テ中産以下ノ農家ノ二、三男ノ獨立經營容易ナラサルノ狀況ナルヲ以テ是カ救済ノ爲ニ、三男ノ分家獨立セムカ爲ニ開墾ヲ爲サムトスルモノ及各種組合、共同施設ニシテ試験研究竝共同收益ノ目的ヲ以テ開墾ヲ爲スモノニ對シ特別助成ヲ爲サムトス

栃 木 縣

一、農村振興上耕地事業ノ實績

本縣ニ於テハ明治三十三年以來施行シツツアル耕地整理事業ヲ初トシ爾來開墾助成、用排水幹線改良、暗渠排水、床締及昭和七年以降農村事情ニ鑑ミ特ニ施行セラレタル時局匡救農業土木事業、凶作冷害應急、災害復舊事業等ノ各種耕地事業ヲ施行シ農業生産ノ基礎ヲナス耕地ノ開發、改良ヲ爲シ農村振興上ニ多大ノ效果ヲ擧ケツツアリ即チ

一、用排水幹線改良事業

本縣ノ用排水幹線改良事業ハ昭和五年度以來實施セラレ其ノ事業概要ヲ示セハ次ノ如シ

事業箇所數 十箇所内〔完成 六箇所
未完成 四箇所〕

事業區域面積 一萬一千四百七町步

事業費 百八十一萬九千六百九十七圓四十錢

内〔支出 百五十五萬六千九百十四圓二錢
未支出 二十六萬二千七百八十七圓三十八錢〕

本事業ハ或ハ用水幹線改良或ハ排水幹線改良ニシテ直接其ノ事業目的ヲ達成シタルハ勿論偶々襲來スル水害、旱害等ノ天災ヲ防除シタル效果ハ最偉トスヘク又本事業施行ニ附隨セル效果ヲ揚クレハ

(一) 工事ニ従事スル農民ニ勞銀ヲ與ヘ農家經濟ヲ緩和シタルコト

(二) 農村ノ失業者ニ生業ヲ與ヘ之ヲ救済シ就農セシメタルコト

(三) 事業施行ノ結果農産物ノ生産ヲ増進農家ノ收入ヲ増加シタルコト

(四) 灌溉設備ノ改善ノ結果用水費ノ輕減ヲ圖リ經費ヲ減少シ又水利爭議ヲ解消シテ農村協同ノ美風ヲ齎シタルコト

等共ニ農村振興上及ホシタル実績顯著ナリ仍チ用排水幹線改良事業ハ農村對策上ノ恒久策ト應急策トヲ具備シタルモノト言フヘシ

一例ヲ擧クレハ次ノ如シ

農村振興上效果アリタル用排水幹線改良事業ノ實例

一、事業名 栃木縣下都賀郡生井村三箇村用排水幹線改良事業

二、受益面積 受益總面積 一千七百五十一町步

内譯 排水改良受益面積 一千七百五十一町步
用水改良受益面積 六百七十二町步

三、事業費 事業費總額 四十八萬四千八百八十二圓

負擔内譯

國庫補助金 二十四萬二千四百四十一圓

縣支出金 九萬六千九百七十六圓

地元負擔金 十四萬五千四百六十五圓

四、事業着手及終了ノ時期

着手 昭和五年四月

終了 昭和十二年三月

五、工事施行前ノ狀況

本地域ハ栃木縣ノ南端ニ位シ渡良瀬川ニ沿ヘル低地ニシテ南ハ渡良瀬川遊水地ヲ隔テテ群馬、埼玉ノ兩縣ニ面シ東ハ思川、西ハ巴波川ノ兩川ニ境セラレ渡良瀬川改良ノ結果三方ニ堤防ヲ周ラシ洪水時ニ於ケル外水ノ氾濫ハ防キ得タルモ降雨ニ際シテハ外水位上昇シ忽チ自然排水不能ニ陥リ地域内外ノ水量ハ刻々湛水シ冠水十數日ニ及ヒ地域ノ大部分ニ亘リ收穫皆無及減收ノ慘害ヲ被ルコト稀ナラサリシ地域ニアリ

六、計畫ノ大要

排水計畫ニ於テハ本地域ノ中央ヲ貫流スル與良川ヲ改修シテ自然排水ヲ良好ナラシムルト共ニ與良川頭首ニ於テ思川ニ向ヒ新荒川放水路ヲ設ケ上流地域外ヨリノ洪水量毎秒四百七十六立方尺ヲ承ケ思川ニ放流シ遊水地ノ水位上昇シ與良川ノ自然排水不能ニ陥リタル場合ハ與良川排水機(渦卷唧筒口徑三十八吋四臺、原動機ディーゼル機關出力

三百馬力二臺)ニ依リ毎秒二百七十立方尺ノ水量ヲ排水スルノ計畫ニシテ昭和九年度ニ於テ前記主要工事ノ大體ヲ了セリ地域ノ南端低地ニハ與良川水系ニ屬セサル東部、西部ノ兩排水幹線ヲ設ケ排水機場ニ導水スルノ計畫ナリ用水計畫ニアリテハ地域ノ上流思川ニ取入口ヲ設ケ導水シ地域内天水地及用水不足地ニ對スル補給ヲナサムトスルモノニシテ現在工事施行中ニアルヲ以テ其ノ效果ヲ揚クルニ至ラサルモノトス

七、事業施行ノ效果

昭和十年九月二十六日ニ於ケル利根、渡良瀬兩川ノ洪水ハ稀有ノ大洪水ニシテ渡良瀬川遊水地ノ湛水位上昇十八尺ニ及ヒ支川タル思川ハ逆水ノ爲湛水位上昇シ且亦新荒川放水路ノ放流不能ニ陥リタル爲上流地域外ヨリ流入スル洪水ノ全量ヲ與良川ニ流下スル事四晝夜ニ及ヒタルヲ以テ機械排水ニ全力ヲ注キ湛水ヲ防止スル目的ヲ以テ排水機ヲ二十三日ヨリ二十九日ニ至ル七晝夜續行運轉シタル爲最低地原野ニ於テ約二日間一尺内外ノ湛水ヲ見タルニ過キスシテ本地域内ノ耕地全部ハ全ク此ノ災害ヲ免レタリ

事業未施行地ト事業施行地ト對比スルニ本地域ノ西南ニ位スル舊巴派川右岸ノ區域ハ事業未施行地ニシテ渡良瀬川遊水地ノ水位高昇スルト共ニ自然排水不能トナリ耕地ノ湛水ハ四尺ニ達シ此ノ湛水日數ハ實ニ十四日間ニ及ヒ冠水部分ハ收穫皆無ノ慘害ヲ被リタルモ事業施行ノ結果地域内ハ此ノ災害ヲ免レタルモノニシテ其ノ受クル利益實ニ大ナリトス又受益面積一千七百五十一町歩ハ昭和十年九月ノ洪水時ニ於テ事業未施行ノ場合トシテ其ノ災害程度ヲ換算スルトキハ被害ノ程度及災害額ハ別表ノ如シ即チ事業施行ノ結果從來頻發シタル斯ル災禍ヲ防キ從テ之カ農村振興上及ホシタル效果大ナルモノアリ

昭和十年九月二十六日洪水ニ於ケル湛水被害ノ實例
事業未施行地ト事業施行地トノ一反歩當收量及金額比較表

地目	被害歩合	事業未施行地			事業施行地		
		種類	數量	金額	種類	數量	金額
田	收穫皆無	水稻玄米	石	円	水稻玄米	石	円
同	八割以上減收	同	〇・五	二六〇〇	同	一・五	二六〇〇
同	五割以上減收	同	一・〇	二六〇〇	同	一・八〇	二六〇〇
同	三割以上減收	同	一・六〇	二六〇〇	同	二・〇〇	二六〇〇
同	三割以下減收	同	二・〇〇	二六〇〇	同	二・五〇	二六〇〇
畑	八割以上減收	陸稻玄米	〇・四	二五〇〇	陸稻玄米	一・三〇	二五〇〇
同	五割以上減收	同	〇・八〇	二五〇〇	同	一・六〇	二五〇〇
同	三割以上減收	同	一・三〇	二五〇〇	同	二・〇〇	二五〇〇
同	三割以下減收	同	一・五	二五〇〇	同	二・四〇	二五〇〇

備考 事業未施行地ハ本地域ノ西部巴派川ノ右岸部屋村地内ニシテ本施行地ト隣接セルヲ以テ其ノ實例ヲ記載セリ
事業施行地域ハ排水幹線改良及排水機設置ニ依リ災害ヲ免レタル實例トス

昭和十年九月二十六日ノ洪水ニ於ケル事業未施行地ノ湛水被害ノ實例ニ因リ事業施行ニ依リテ地域内ニ受ケタル利益換算表

地目	被害歩合	事業未施行ノ場合		事業施行地		比較
		地域内一反歩當	金額	地域内一反歩當	金額	
田	收穫皆無	三・六	円	三・〇〇	二四八〇・〇〇	

◎愛國開墾

昭和八年度ヨリ同九年度ニ於ケル時局匡救農業土木事業中特ニ愛國開墾ト稱シ青年團、在郷軍人分會、消防組等ノ團體ヲシテ愛國ノ精神ニ基キ荒廢セル河川敷地、廢堤又ハ山林原野等ヲ開墾セシメ勤勞俸仕ノ精神涵養ト自力更生ノ模範ヲラシメ同時ニ補助金ノ一部ヲ之等團體ノ基本金ニ充テ尙開墾地ヨリ生スル收益ヲ以テ恒久的ノ財源トシ愛國運動ノ資ニ供セムトスル目的ヲ以テ本事業ヲ施行セシメタリ

之カ關係町村數二十九ニシテ内青年團十七、在郷軍人分會八、消防組五、計三十團體ナリ
施行ノ結果開田十町七反歩、開畑五十一町八反歩、計六十二町五反歩ヲ成功セリ之カ施行ニ際シテハ縣ハ聯隊區其ノ他ト連絡ヲ採リ工事中ハ勿論竣工ノ場合等有ユル機會ヲ利用シ他團體、村民等ヲ會合セシメ更生ノ精神涵養ニ極力努メタリ

施行後ニ於ケル成績ハ昨昭和十年ハ冷害ヲ受ケシニ拘ラス小作料ヲ徵セシモノ二十二地區、二千三百六十三圓、自作セシモノ五地區、收入一千二十圓、苧麻栽培中ニテ收入ナキモノ一地區、冷害ニテ小作料徵收シ得サルモノ二地區ニシテ收入計ハ三千三百八十三圓ニ達シ之等ノ一部ハ積立セラレ一部ハ其ノ團體相當ノ愛國運動資金ニ利用サレタルモノニシテ從來青年團、軍人分會カ町村ヨリノ補助ニ依リ活動セシモノカ自力ニ依リヨリ以上ノ活動ヲ示シ農村更生振興ノ上ニ裨益セシトコロ寡カラサルモノナリ

三、暗渠排水事業

耕地事業ノ一部ニ屬スル暗渠排水事業ノ農村振興上及ホシタル實績ヲ擧ケム

自昭和七年度
至同十年度 暗渠排水事業成績

地區數 五十四地區
地積 二百三十五町八反歩

工事費 四萬三千五百二十圓

補助額 二萬一千七百六十圓

前記暗渠排水工事施行ノ結果地温ノ上昇ニ依リ米質ノ改良及收量ヲ増加シ更ニ肥料ノ分解、稻熱病ノ防止、二毛作田トナル等其ノ利益大ナルモノアリ

今昭和七年度ニ於ケル暗渠排水事業成績ヲ表セハ
イ、牛馬耕可能地積
施行前 二十八町歩
同後 百十二町歩

ロ、裏作付地積
施行前 ナシ
同後 三十町九反歩

ハ、收穫米ノ標準等位
各地區共一等級ヲ上昇ス

ニ、收穫量反當平均
施行前 一石六斗七升
同後 二石六斗

平均四斗五升三合ヲ増加ス

前表ニ依リ暗渠排水事業地積二百三十五町八反歩ノ土地カ反當平均四斗五升三合ト見積リ計算セハ年々ノ收量増加一千六十八石餘トナリ利益大ナルモノアリ

四、凶作及冷害應急事業

昭和十年度耕地事業中凶作應急施設並冷害應急兩事業ニ依ル農村振興上ニ及ホシタル效果及實績ハ豫期以上ノモノニシテ本縣農村カ積年ノ凶作、窮乏ニ克ク堪ヘ得タルハ此種事業ノ效果、恩典ニ俟ツモノ極メテ夥シ

右事業ノ内凶作事業豫算額ハ三十四萬九千四百四十六圓ニシテ施行箇所數九百九十、成功地積一萬一千七百一町歩、就勞延人員三十萬四千九百五十人ニ達セリ

又冷害事業ハ事業豫算額十二萬三千二百七十七圓ニシテ施行箇所數三百、成功地積二萬六千八百三十六町歩、就勞延人員十一萬三百七十人トナレリ

兩事業ハ孰モ多ク農閑期ノ餘剩勞力ヲ利用シテ行ハレ特殊技術ヲ要スルモノノ外ハ大部分部落民使用ナルタメ勞賃ノ大半ハ部落ニ領收セラレタルヲ以テ事業其ノモノニ因ル效果ハ元ヨリ飯米缺乏期ニ資金ヲ付與シタリ
 本事業ハ二三ノ例外町村ヲ除クノ外縣下全町村ニ施行セラレタルモ特ニ縣北地方ハ文化稍遅レ農業上ノ設備モ亦不備、缺陷尠カラサリシ爲本事業ニ因ル效果ハ一層顯著ナルモノアリタリ
 本事業施行ノ結果ハ耕地ノ狹隘ヲ緩和シ交通ノ便益ヲ増シ用悪水ノ改良等全ク舊態ヲ一新シ農業上ノ利用ヲ増大シ延ヒテハ宿年ノ農村疲弊、窮乏ヲ救濟セリ

五、床締事業

本縣ニ於テハ昭和七年那須郡ニ於テ機械床締作業ヲ實施セルニ始マリ各地ニ施行サレ其ノ成績頗ル良好ニシテ
 イ、用水量著シク減シ用水節約トナリ
 ロ、從テ地温、水温上昇シ冷害防止策トシテ效果最顯著ナリ
 ハ、收量増加
 ニ、肥料ノ節約
 ホ、低廉ナル經費ニテ施行容易ナリ

而シテ本縣ノ土質概ネ粗鬆、滲透性强ク用水量頗ル多ク又水源ニ近キトコロハ冷水ヲ灌溉スル耕地尠カラス從テ本縣ニ於テハ床締ハ最適切ナルモノニシテ床締ヲ必要トスル耕地縣下一萬二千餘町歩ニ及フ

床締實績(自昭和七年五月至昭和十一年五月)

地區數	面積	事業費	增加收量	差々ノ利益	備考
一四〇	三三、二〇〇町	七、七六〇圓	四、四四石	二、四四圓	事業費ハ反當使用料三圓五十錢收量ハ增加反當二斗(價格石二

一〇、一一、一四町

十三圓〇トシ計算ス

右ノ如ク未タ施行面積多カラサリシモ實施地ハ何レモ成績良好ニシテ地方振興上ニ效果顯著ナルモノアリ

一、農村振興上耕地事業ノ將來採ルヘキ指導方針

本縣耕地ノ特殊實情ニ應シ將來指導方針トスルモノ概ネ左ノ如シ

一、用排水幹線改良事業ノ實施ハ耕地ノ改良上效果顯著ニシテ農村經營上益スル處著シク延テハ耕地ニ關スル各種災害ヲ防除シタル例尠カラス本縣ニ於テ將來改良事業ヲ施行スヘキ地方甚タ多キヲ以テ政府ノ助成ヲ得漸次實施セムトス

二、開墾事業ニ依リ耕地ノ擴張ヲ圖リ以テ氣候、地勢上天惠薄キ農家ニ對シ多角形農業ヲ經營シ得ル様ナラシメ又自作農創設ノ上ニ最緊要ナル未開發地ノ開墾ヲ漸次企圖セムトス

三、本縣耕地ノ滲透性大ナルニ鑑ミ田地ノ床締ハ最緊要適切ナル事業ナルヲ以テ從來之カ普及ニ努メ來リシモ更ニ綜合的計畫ノ下ニ獎勵シ農村ノ福祉ヲ増進セムトス

群馬縣

一、農村振興上耕地事業ノ實績

本縣ニ於ケル耕地地積ハ十一萬四千四百七十五町步餘ニシテ總地積六十三萬八千八百六十町步ニ比シ僅ニ一割八分ニ過キス内水田三萬四千七百三十町步、畑七萬九千七百四十五町步ナリ之ヲ農家一戸當ニセハ僅ニ九反六畝步ニシテ今全國平均農家一戸當一町六畝步ニ比スレハ一反步モ少ナキ状態ナリ
 斯ノ如キ過少ナル耕地ヲ有スル本縣ハ之カ擴張改良ニ對シ調査、測量設計、工事監督、事務指導等設備ニ遺憾ナキヲ

期シ新業ノ普及發達ニ努メツツアリ
其ノ現況ヲ示セハ

一、耕地整理事業

本縣ニ於ケル耕地整理事業獎勵溢賜ハ明治三十四年ニシテ爾來勸獎ニ努メタルニヨリ昭和十一年八月末現在認可總地區數七百七十五地區、地積三萬百九十九町七反五畝二十八步ニ達セリソノ内譯左ノ如シ

事業完了	地區數	面積
事業完了	九九	三、七三九・五七〇三
内、換地處分認可済	一七八	一、〇九八・一九〇七
換地處分認可ニ至ラサルモノ	四九八	一四、三六一・九九一八

整理施行ノ結果従前面積ニ比シ

田ニ於テ

三、二五六・七四一八増加

畑ニ於テ

二、六六八・八五〇五増加

其ノ他ニ於テ

四、八九八・一六二九減少

法第十一條第二項ノ土地

四六五・六〇一〇増加

即チ其ノ他ノ土地ニ於テ四千八百九十八町步ヲ減少シタルハ耕地ニ變換シタルモノニシテ土地ノ利用ヲ増進セシメタルモノナリト雖耕地地積ニ對シ僅ニ二割六分ニ過キスシテ今後整理ヲ要スヘキ餘地尠カラサルナリ

二、開墾助成事業

大正八年六月開墾助成法施行以來昭和十一年四月末日現在出願地區數百三十箇所、地積三千三百七十町一反一畝十

一步ナリ

内〔開畑〕

四七三・七八一七
二、八九六・三三二四

工事完了セルモノ百二十四地區 地積一千九百二十六町七反九畝六步

内〔開畑〕

三七四・三五〇一
一、五五二・四四〇五

右ノ通耕地ノ擴張ヲ計リタリト雖開墾見込地一萬三千五百町步ニ比スレハ僅ニ二割五分ニ過キス

三、用排水幹線改良事業

大正十三年度佐波新田用水改良事業ヲ縣營トシテ着手以來昭和十一年八月末現在ハ

工事完了セルモノ

九箇所 二、六五三、六八二圓

工事中ノモノ

二箇所 六一三、〇〇〇圓

工事着手準備中ノモノ

一箇所 三九〇、〇〇〇圓

計

一二箇所 三、六五六、六八二圓

右箇所ノ受益地積 一六、一二五町步

四、暗渠排水事業

昭和七年度ヨリ排水不良耕地改良ノ爲獎勵ノ結果

年 度	地區數	受益地積	工 事 費	備 考
昭和七年度	一三	二五町	一〇、二四〇圓	反當 四〇・九六

昭 和 八 年 度	同 九 年 度	同 十 年 度	計	
			五 四	二 七 九 五
二一四	二一	三 四	一〇一	五、一二〇
五、一二〇	五、一二〇	一、五二〇	三二、〇〇〇	反當
二四・三八	二四・三八	三三・八八	三一・六八	

五、時局匡救農村振興農業土木事業 (昭和七年度ヨリ昭和九年度 三箇年間)

事業名	實 簡所數	施 工事 業費又ハ 費	財		源 地 元 負 擔	受 益 地 積
			國 庫 補 助	縣 費 負 擔		
小 開 墾	一、二七	五八、四二四	一八四、〇七一		一八四、〇七一	開 田 八七
小 用 排 水	一八二	三五、〇九四	一七、〇四七		一七、〇四七	開 田 五、三九八
暗 渠 排 水 及 小 設 備	五〇四	一、〇九、五三三	五〇六、七二六		五〇六、七二六	開 田 一〇、一六〇
二 年 量 分 開 墾	五	四四、七〇〇	一八、八六七		一七、八三三	開 田 四、一
計	一、八四四	二、七、四〇四	一、〇九、三三四		一、一八、一四〇	開 田 一、二五
耕地擴張改良事業 指導監督費	一、八四四	一〇八、九二七	五、四〇三	四、六六一	一、一八、一四〇	開 田 三、九
合 計	一、八四四	二、三九、五三七	一、一五、三四三	四、六六一	一、一八、一四〇	開 田 三、九

六、凶作應急施設耕地事業 (昭和九年度ヨリ昭和十年度 二箇年間)

事業名	實 簡所數	施 工 事 費	財		源 地 元 負 擔	備 考
			國 庫 補 助	縣 費 負 擔		
小 開 墾	二五	八、七七一	四〇、八八六		四〇、八八六	開 田 二、四
用 排 水	六	一六、〇四六	八、〇七三		八、〇七三	開 田 二、〇
暗 渠 排 水	二	三、〇〇〇	三、〇〇〇		三、〇〇〇	開 田 一
小 設 備	一三	三九、〇三二	一四、〇一〇		一四、〇一〇	開 田 一、六
計	四六	五〇、五三三	二七、二五五		二七、二五五	開 田 三、〇
凶作應急施設耕地 事業指導監督費	一	一〇、七七六	五、三三三	五、三三三	二七、二五五	開 田 三、〇
合 計	四六	五、三三三	二七、二五五	五、三三三	二七、二五五	開 田 三、〇

七、水害復舊耕地事業 (昭和十年度)

事業別	實 數 量	施 業 費	事 業 費		財 源 地 元 負 擔	備 考
			國 庫 補 助	縣 費 負 擔		
耕地復舊	畑田 一、四二反	一九、八三三	六、七三〇		三、八五五	
公共施設復舊	三〇、〇五畝	三、〇〇〇	一、七五〇		一、七五〇	
道路	五、四畝	一、三六八	九、六四一		九、六四一	
水路	三、五畝	一、八四二	三、三一一		三、三一一	

八、水害應急施設耕地事業（昭和十年度）

事業名	實 施		事 業 費		財 源		備 考
	箇所數	事業費	國庫補助	縣費負擔	地元負擔	就勞延人員	
溜池	一箇所	六、四七・〇〇		三、三三・八五		三、一三三・八五	
井堰	三〇・四	六、一五六・六		三〇、五九・六		三〇、五九・六	
護岸	四、七四箇所	六、四四九・〇		三、三四・九〇		三、一〇四・一〇	
橋梁	一箇所	三、三三三・〇〇		六、一六・六七		六、一六・六七	
計	三、四四箇所	二五、〇五五・〇〇		三、九一・九一		三、〇一三・五五	
災害耕地事業指導監督費	一、四二反	三、九一・九一		三、九一・九一			
合計	一、四二反	三、九一・九一		三、九一・九一			
合計	三、四四箇所	二五、〇五五・〇〇		三、九一・九一		三、〇一三・五五	

九、冷害應急施設耕地事業（昭和十年度）

事業名	實 施		事 業 費		財 源		備 考
	箇所數	事業費	國庫補助	縣費負擔	地元負擔	就勞延人員	
水害應急施設耕地事業指導監督費	三	三、〇六・〇〇		一、五四・〇〇		一、五四・〇〇	
合計	三	三、〇六・〇〇		一、五四・〇〇		一、五四・〇〇	
中小開墾	開田 七三	四、六六・四八		一、七六・六九		二、八九・七九	開田
用排水改良	六	一六、〇四・四三		六、四三・七七		九、六〇・六六	開田
暗渠排水	二〇	三、五八・一〇		一、五三・三四		二、〇四・七六	開田
小設備	一〇五	一〇〇、三三・〇〇		四〇、二四・〇〇		六〇、〇九・〇〇	開田
冷害應急施設耕地事業指導監督費	一〇五	三、〇一〇・〇〇		一、五〇・〇〇		一、五〇・〇〇	開田
合計	一〇五	一〇三、三四・〇〇		四、二四・〇〇		九、九一・〇〇	開田
合計	一〇八	一〇六、四〇・〇〇		五、九八・〇〇		一〇、四八・〇〇	開田

今昭和七年度ヨリ昭和十年度迄實施セル時局匡救農村振興農業土木事業、昭和九年度ヨリ昭和十年度迄實施ノ凶作應急施設並昭和十年度分水害應急、冷害應急施設耕地事業等四箇年間ニ於ケル成績ヲ總括セハ次ノ如シ

事業名	實 施		事 業 費		財 源		備 考
	箇所數	事業費	國庫補助	縣費負擔	地元負擔	就勞延人員	
中小開墾	一、四二	五〇〇、八三三・三三	二四、五、三三三・三三		二、五、九〇一・九一	六、四、三九	開田

小用排水 暗渠排水及 小設備 二年量分開整 計	二天 七六 五三	五二、八九〇・四 一、五七、八八・八 四四、六〇・〇	二七、五三・三 七四、〇三・七 一八、八六・〇	〃 〃 〃	二九、三三・〇 七五、七五・八 二七、八三・〇	四六、八七 一、三四、〇四 四四、八四	開田 開田 開田	三九三・四 四八・一 三九三・四
設 備 費	二、八七 三、〇五、二・〇〇	三、〇五、二・〇〇	一、四一、七六・〇〇	〃	一、五三、三三・〇〇	二、九〇、〇〇	開田 開田	一、六四九・一
合 計	一 一	三、〇五、二・〇〇 三、〇五、二・〇〇	一、五三、三三・〇〇 七、八二・八四	五、〇三・七 五、〇三・七	一、五三、三三・〇〇 一、五三、三三・〇〇	二、九〇、〇〇 二、九〇、〇〇	開田 開田	三九三・四 一、六四九・一

斯ノ如ク總事業費三百一萬五千餘圓ニシテ内百四十四萬一千餘圓ハ國庫助成金ナルヲ以テ地元負擔金ハ百五十七萬三千餘圓ナリ然ルニ右各事業實施ニ際シ地方民ノ就勞延人員實ニ二百九十三萬餘人ニ及ヒ平均一日八十錢ノ勞銀トシテ換算セハ二百三十四萬四千餘圓ニ及ヒ事業ニ對スル地元負擔額ヲ控除スルモ尙七十七萬餘圓ハ窮乏セル地方民ニ勞銀ヲ得セシメ焦眉ノ急ヲ救ヒタルト共ニ開田三百九十二町餘歩、開畑一千六百四十九町餘歩ノ耕地ヲ擴張シ其ノ他小用排水、小設備事業等ニ依リ耕地ノ改良ヲ計リ恒久的生産増加ヲ收メシメル等農村經濟更生上基礎的の事業ニシテ貢獻セルトコロ實ニ大ナルモノナルコトヲ信ス尙納稅狀況ヲ示セハ

イ、縣稅徵收狀況

年 度	調 定 額	收 入 濟 額	未 收 入 額	收 入 額 ニ 對 ス ル 合
昭 和 八 年 度	四、一三、四七三・〇〇	四、〇〇、一〇六・〇〇	一〇八、七三三・〇〇	九七・三
同 九 年 度	四、一五、一〇九・五	三、九七、二七〇・九	一四七、四一七・〇	九六・四
同 十 年 度	四、一九、三〇〇・五	四、〇九、〇七三・六	二二、二二〇・元	九七・〇

ロ、市町村稅徵收狀況

年 度	調 定 額	期 日 内 收 入 額	期 日 内 未 收 入 額	收 入 額 ニ 對 ス ル 合
昭 和 八 年 度	四、六七、七六八・九四	三、六九、〇三三・三	一、三二、七三三・四	七三・六
同 九 年 度	五、四四、一八八・七二	三、九三、五〇五・六	一、四九、六三三・五	七三・〇
同 十 年 度	五、三九、六九八・九	三、九三、三三〇・元	一、三三、三六八・六	七三・五

農村經濟事情ノ不況ナルニ拘ラス此ノ如キ納稅成績ヲ示シ殊ニ市町村稅ノ徵收狀況ニ於テ良好ヲ見タルハ蓋シ本事業ニ依リ相當收入アルニ起因スルモノト言ハサル可カラス

一、農村振興上耕地事業ノ將來採ルヘキ指導方針

刻下内外重大ナル時局ニ直面シ國民生活ノ安定ヲ計ルノ基礎ハ耕地事業ニ在ルヲ以テ根本的恒久對策ヲ確立シ之カ急速實行ヲ要スルハ論ヲ俟タサルトコロナリ
實績ニ於テ述ヘシ如キ過小ナル耕地ヲ有スル本縣農村ノ實情ニ鑑ミ左ノ事項實行ニ依リ堅實ナル經濟力ノ擴充、伸張ヲ期セムトス

一、農業經營合理化ヲ目的トスル耕地擴充施設

本縣農山村ハ數年來打續ク不況ニ加フルニ年々人口ノ増加著シク從テ負債嵩ミ一人當耕作反別ハ益減少ノ實狀ニアリ之カ救濟對策トシテ次ノ三項目ヲ速ニ實行セムトス

- (一) 過剩人口並失業者ノ移植民ヲ目的トスル集團農耕地開發事業
- (二) 單一農業ノ更生ヲ目的トスル開田事業

- (三) 過小農家耕作反別擴充事業
- 二、各種災害防除ヲ目的トスル耕地事業
 - 過去ノ實績ニ徴シ風水害、旱害、霜雪害、冷害等各種災害ヲ防除スル目的ヲ以テ左ノ事業ヲ行フモノトス
 - (一) 用排水改良事業
 - (二) 小用排水及小設備事業
 - (三) 暗渠排水、床締及客土事業
- 三、既耕地ノ農耕上ノ不便ヲ是正スル爲農道並耕地ノ區劃改善施設
 - 主要道路ハ最近著シク組織構造共ニ改善セラレタルモ農村ニ於ケル道路ハ舊來ノ儘ノモノ多ク常ニ農村ハ經濟的ニモ文化的ニモ發展ヲ阻害セラレツツアルヲ以テ之カ根本的改良ヲ行ヒ農村ノ進展ヲ圖ラムトスル方針ナリ

埼玉縣

一、農村振興上耕地事業ノ實績

一、用排水幹線改良事業
 本縣ニ於ケル用排水幹線改良事業ハ耕地事業ノ根幹ヲナスモノニシテ農村振興ノ基礎的ノ條件ナリ故ニ大正八年以降水利調査ヲ行ヒ其ノ結果ニ基キ既往ニ於ケル灌溉排水ノ被害ヲ除キ縣民福利ノ増進ヲ企圖スヘキ首尾一貫セテ計畫ヲ樹立シ爾來着々其ノ工ヲ進メ成績極メテ良好ナリ此等ノ事業完成ノ曉ニハ能ク豫期ノ目的ヲ達スルモノト信ス

用排水幹線改良事業施行箇所數

二十二箇所

イ、事業ノ竣功セルモノ

支川外六用排水改良事業

ロ、事業進捗中ノモノ

大落古利根川用排水事業外十事業

ハ、事業着手準備中ノモノ

吉見外三用排水事業

右ノ内 (イ) 用排水改良ヲ目的トスルモノ

七箇所

(ロ) 用水、排水改良ヲ目的トスルモノ

十五箇所

ニシテ總事業費實ニ一千八百二萬圓ニ達シ最近一箇年ノ繼續費ノ支出額八年々百四、五十萬圓ニ達ス

大體概況以上ノ通ナルカ殊ニ排水ヲ目的トスル事業ハ本縣ノ東部(中仙道ヲ中心トシテ)所謂東武地方ニ位置スルモノニシテ工事施行前ハ僅少ノ降雨ニ際シテモ湛水連日ニ亘リ農民一年ノ勞苦モ一朝ニシテ空シクナル狀況ニシテ政府施行ノ利根川外三河川ノ改修ニ順應シテ縣内主要用排水幹線ヲ改良スルコトカ縣民ノ一大要望ナリシナリ所謂此ノ改良ヲナスニ非ラサレハ凡百ノ農村振興策ハ其ノ效果洵ニ少ナキノ状態ニアリキ

今事業既ニ完成セル新方領堀用排水改良事業ニ付キ其ノ實績ヲ調査セルニ左ノ如シ

(一) 水利組合費ノ減少
事業施行前五箇年ト施行後ニ於ケル組合費ノ徵收狀況ハ左表ノ如シ

經常部	施行前					施行後	
	大正十三年	大正十四年	大正十五年	昭和二年	昭和三年	昭和八年	昭和九年
臨時部	三、六九・五〇	二四、五六・五	一八、四四・三	一五、二五・四	一五、四〇・五	一、六四八・〇〇	三、一四・〇〇
經常部			三、四八・六	二五、五〇・五	三〇、六四・三		五〇、四・六

(臨時部ハ用排水改良事業施行ニヨル支出ナリ)

即ち事業施行後ノ經常費ハ施行前ニ比シ約一割五分内外ニ減シ而シテ施行前ノ事業費（此ハ維持復舊ニ要セル工事費ナリ）ハ左ノ如シ

大正十三年	大正十四年	大正十五年	昭和二年	昭和三年
一七、四六・九四	九、〇八・九	三、〇〇・〇	三、〇〇・〇	一、四一・四

斯ノ如ク年ニ一萬圓内外ノ被害ヲ繰返シタルモノニシテ此ノ外農作物、道路、鐵道ニ及ホシタル被害ヲ舉ケレハ莫大ナル額ニ上ルヘシ

(二) 反當收量ノ増加

僅ノ降雨ニモ直ニ湛水シ常ニ濕田ノ状態ヲ呈シ收穫少ク豐凶亦年ニ從ヒソノ差甚シカリシモ事業施行ニ依リ不慮ノ湛水被害ヲ蒙ルコト殆ト無ク且土地ノ生産力ハ左表ニ示ス如ク増加シ爲ニ農業ノ經營ハ確立シ農民ノ生計ハ安定スルヲ得タリ

關係町村名	昭和三年	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年	昭和九年
大袋村	一・五四	一・四八	二・三〇	一・八八	一・八五	二・〇六	一・七五
荻島村	一・六三	一・一九	一・九五	一・八九	一・九二	二・一八	一・八二
川通村	一・五八	一・二四	二・〇一	一・六一	一・八二	一・五一	一・四四
粕壁町	一・六八	一・五六	一・八三	一・六六	一・六五	一・六九	二・〇二
武里村	一・四二	一・二二	一・九八	一・五八	一・六二	一・八二	一・七〇

關係町村名	昭和三年	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年	昭和九年
豊春村	一・三七	一・二六	二・〇四	一・五三	一・六五	一・八二	一・五九
新方村	一・七二	一・四八	二・〇二	一・七五	一・七四	二・一三	一・七七
櫻井村	一・七二	一・一八	二・〇六	一・七五	一・七〇	一・九一	一・六二
大澤町	二・〇二	一・三〇	二・六〇	二・三六	二・二七	二・三八	一・九八
越ヶ谷町	一・八八	一・四四	二・二六	二・〇二	二・一一	二・三八	一・八二
増林村	一・九四	一・五四	三・三三	二・二二	二・二六	二・五五	二・〇九
(八幡村)	一・六五	一・六二	二・一五	一・七八	二・〇三	二・一〇	一・七〇

備考 八幡村ハ湛水ノ被害少キヲ以テ參考トシテ掲記セリ

(三) 小作問題ノ解決

降雨毎ノ湛水ニ依リ年々ノ收穫定マラス小作者ト地主トノ間ニ小作料ノ減免ニ關スル紛争絶エサリシカ事業成ルニ及ヒ收量ハ略一定シ小作料ノ問題自ラ解決シテ從來ノ紛争絶エタリ

(四) 民風ノ作興

從來ノ濕田一變シテ乾田トナリシ結果耕作便トナリテ多大ノ勞費ヲ節約シ又良質ノ藁ヲ生産スル處トナリ裏作ノ栽培、藁細工ノ製造等多角形ノ農業ヲ營ムニ至リ勤儉力行ノ美風自ラ生シテ民風興レル處尠カラス然シテ工事前即チ昭和三年及昭和四年ノ平均收穫ハ三萬四千九百四石ニ對シ工事後ノ昭和七年ヨリ昭和九年ニ至ル三箇年ノ平均收穫ハ四萬二千四百九十八石ニシテ實ニ七千五百九十四石ノ增收トナリ之ヲ石二十五圓トセハ十八萬九千八百五十圓ノ利得アリ尙裏作ノ増加及藁工品ノ利益ヲ加ヘレハ年々二十萬圓以上ノ利益トナリ之ヲ工事費ノ支出額ニ比セハ三割一分ノ利率トナレリ

左ニ本縣用排水事業中工事完成セルモノ並工事完成ニ至ラサルモ相當ノ效果ヲ表ハセルモノヲ擧クレハ左ノ如

シ

(昭和十年三月三十一日現在)

用排水名	繼續年度	總事業費	受益面積	支出額	功程歩合	工事施行ノ收益金	支出額ニ對スル利益金
大落古利根川用排水	自大正八年度至昭和十一年度	一、九九、四三〇	八、〇五〇	一、九三、五七〇	九%	三六、五五〇	一九%
元荒川用排水	自大正八年度至昭和十一年度	四、四七、八七九	七、八三三	四、三〇、五〇三	九	六四、八八〇	一八
芝川同	自大正五年度至昭和十一年度	七、六三、三三三	三、三三二	七、八三、三三三	一〇〇	一七、一二七	三
福川同	自大正七年度至昭和十一年度	一、五〇、六九九	二、二四三	一、七〇、六九九	一〇〇	三三、四一九	二〇
大場川同	自大正十四年度至昭和十一年度	五、八九、三三三	三、〇三三	五、八九、三三三	一〇〇	一八、六四〇	三
新方領堀用排水	自昭和八年度至昭和十一年度	六、四八、一三三	三、〇〇七	六、四八、一三三	一〇〇	二〇、〇九九	三
大里用水	自昭和十一年度至昭和十一年度	一、二六、五三二	二、五九九	六、八、九四四	五		
兒玉用水	自昭和十一年度至昭和十一年度	七、九、五五三	七、二	四、三、三三三	五		
羽生領用排水	自昭和十三年度至昭和十三年度	一、五七、一七三	四、一〇〇	四、七、〇六六	七	一七、〇一一	四
入間第一用水	自昭和十一年度至昭和十一年度	三、三三、二六六	五、六	三、〇、三三三	三	三、〇、三三三	九
荒川左岸用排水	自昭和十一年度至昭和十一年度	五、〇、二八一	二、二八〇	三、三、六三三	四	四、〇、五〇〇	八
北川邊領用水	自昭和十一年度至昭和十一年度	四、四、三三三	六、〇	四、四、三三三	一〇〇	一五、四八五	三
入間第二用水部	自昭和十三年度至昭和十三年度	六、二、一〇〇	二、〇〇〇	一、五、三三三	六		

用排水名	繼續年度	總事業費	受益面積	支出額	功程歩合	工事施行ノ收益金	支出額ニ對スル利益金
會ノ川用排水	自昭和十一年度至昭和十一年度	二、九、七九九	九、七	一、四、四四〇	四	二、八、四六六	二〇
荒川左岸第二用排水	自昭和十一年度至昭和十一年度	一、七、一一〇	九、二	五、五五〇	三	三、三九七	三
綾瀬川上流水	自昭和十一年度至昭和十一年度	一、六、九八〇	一、八五五	一、六、九八〇	一〇〇	八、八八〇	五
荒川右岸用排水	自昭和十一年度至昭和十一年度	五、七、二八〇	二、八五〇	三、三、〇三三	四	三、五八八	三
幸手領同	自昭和十一年度至昭和十一年度	五、〇〇、〇〇〇	三、四八八	七、一、〇〇〇	一四	九、一〇〇	一〇
吉見領用水	自昭和十一年度至昭和十一年度	二、四、三〇〇	九、二		未着手		
妻沼町外三箇村用排水	自昭和十一年度至昭和十一年度	一一〇、〇〇〇	六、四〇〇		同		
見沼代用水	自昭和十一年度至昭和十一年度	一、五、〇〇〇	一、四〇〇		同		
元以改良	自昭和十一年度至昭和十一年度	三〇〇、〇〇〇	八、五		同		
北河原用排水	自昭和十一年度至昭和十一年度	一、八、〇〇〇、三三三	六、七、一六	三、四、〇、三三三		二、四、七、七四	
合計							

右ノ表ニ示セル如ク本縣用排水幹線改良事業費總支出額一千二百九十四萬三千八百八十五圓ノ内用水事業ニシテ全ク其ノ效果ヲ表ハササル大里、兒玉、入間北部第二用水事業ノ支出額計百三十萬八千六百十二圓ヲ控除シタル一千六百六十三萬一千七百七十三圓ニ對シ年々利益金二百四十七萬三千七百十四圓ヲ擧クルノ實況ニシテ一割八分強ノ割合ナリ

尙工事完成ノ上ハ此ノ他水路ノ維持修繕費ノ激減、土地價格ノ増進、小作爭議ノ減退、上下流民ノ紛争等有形無形上農村振興ニ及ホス影響甚大ナルモノアリ

二、耕地整理事業

本縣耕地整理事業ハ明治三十四年創始以來其ノ發展ハ年ト共ニ大ニ見ル可キモノアリ殊ニ大正八年縣營用排水幹線改良事業開始セラレ今ヤ幾多ノ工事完了シ或ハ其ノ竣功近キニアルモノ多ク之カ完成ト相俟テ愈々耕地整理事業ノ實施ヲ希望スルモノ逐年其ノ數ヲ増加シツツアリ刻下農村經濟不況ノ折柄立國安民ノ根本方策トシテ農村振興上洵ニ欣フヘキ現象ナリトス今其ノ一斑ヲ舉クルニ昭和十一年八月末日ニ於ケル耕地整理施行及耕地整理組合設立認可總面積三萬七千九百九十町步、地區數四百二箇所ニシテ面積ニ於テ全國第九位ニアリ工事完了セル總面積二萬六千八百八十五町步餘、換地處分認可總面積二萬二千六百六十七町步餘、事業終了シタル總面積一萬四千七百七十五町步餘ニ達シ其ノ成績極メテ良好ナリ而シテ本事業ニ對シテハ調査、設計、工事監督其ノ他一般事務殊ニ工事完了後ノ事務ニ付テハ常ニ細心ノ注意ヲ拂ヒ指導督勵ヲ爲セリ依テ之カ農村振興上寄與スル處大ナルモノアリ耕地整理事業中開墾事業ニ付其ノ概要ヲ摘記スレハ左ノ如シ即チ普通開墾並時局匡救二年量開墾ニシテ其ノ竣功總面積一千八百六十二町步、年々ノ收入百九萬一千三百圓餘ニ達スルノ狀況ニアリ

(一) 普通開墾助成事業實績 (自大正十二年至昭和十一年)

郡名	地區數	張		合	積
		開	畑		
北足立郡	三		三九町	三九町	三九町
入間郡	一四		四九八・九三〇七	四九八・九三〇七	四九八・九三〇七
大里郡	二三	七・八五〇〇	四〇四・九九二七	四〇四・九九二七	四一・二八四二七

郡名	地區數	開	畑	合	積
比企郡	一				九・一〇〇〇
兒玉郡	三				三一・一〇〇〇
秩父郡	二				二二・三三一七
南埼玉郡	四				二四・五九〇〇
北埼玉郡	二				一・〇五一五
北葛飾郡	二				二二・一五〇〇
計	五四	五五・八三一二	一、〇五五・五五二二	一、〇五五・五五二二	一、一三一・三八二四

右表ニ依ル開墾地ハ年額約六十七萬六千八百圓ノ粗收入ヲ舉ケツツアルモ其ノ間農業經濟ノ不振ヲ稍ヤ緩和セシムルニ過キス現在縣下ニ於ケル一農戶平均耕作反別ハ僅ニ九反五畝二十二步ニシテ到底農家經營ノ安定ヲ得ルニ至ラス幸本縣ハ直ニ着手シ得ル一萬四千町步餘ノ開墾豫定地ヲ有スルヲ以テ之カ開拓ニ據テ始メテ一農戶當平均一町四畝步餘トナスヲ得ルモノニシテ農業經營ノ安全ヲ期セシムルハ一ニ開墾ニ俟タサル可カラサルヤ必セリ

(二) 二年量開墾事業實績

年	地	行		合	積
		開	畑		
昭和七年度	二四	一四四町	一三八町	二八三町	一七二五
同八年度	三一	一八一・八一三	九五・九六〇六	二七七・七七二九	二七七・七七二九
同九年度	二五	七二・二七二七	一一八・〇五〇〇	一九〇・三二二七	一九〇・三二二七

合 計	八〇	三九八・五四〇三	三五二・七四〇八	七五一・二八一
-----	----	----------	----------	---------

右表ニ依ル開墾地ノ粗收入ハ年額約四十一萬四千五百圓ニシテ前述ノ如ク農村不況ノ折柄縣下全般ヨリ見ルトキハ局部的救済ナルニモ不拘疲弊困憊其ノ極ニ達セル農民ノ悅ハ一方ナラス益開墾事業ヲ懇望スルノ状態ニアリ

三、水利組合事業

本縣ニ於ケル水利組合數ハ百九十七ニシテ内其ノ關係地域十數箇市町村ニ亙ルモノ即チ見沼代用水路普通水利組合外二十六組合ハ其ノ管理者ヲ耕地課ニ置ク而シテ農村振興ノ根幹ヲナス縣營事業タル用排水幹線改良事業ト縣管理水利組合ハ極メテ密接ナル關係ヲ有シ之カ事業施行ニ當リテハ事業費ニ對スル負擔ノ主體トナリ負擔金又ハ寄附金ヲナシ事業ノ達成ニ資シ或ハ農業水利問題紛争ノ調停ニハ縣トノ連絡ヲ採リ萬遺漏ナキヲ期シ良好ナル成績ヲ擧ケツツアリ其ノ他組合事業トシテ水路浚渫、藻刈、水路及工作物ノ改良等用排水路ノ維持管理ニハ年々多額ノ經費ヲ支出シ以テ災害防止ニ努メ何レモ豫期以上ノ成績ヲ收メ農村振興ニ寄與スルコト頗ル大ナルモノアリ

四、開墾地移住獎勵事業

開墾助成地區ニ移住セルモノニ對シ獎勵金ヲ交付セルモノハ昭和四年度ヨリ同十年度ニ亙リ五十三戸ヲ算シ其ノ成績良好ナルモノアリ依テ獎勵金ノ交付ヲ申請スルモノ續出スルノ狀況ナリ

其ノ實績次ノ如シ

(一) 獎勵金交付セルモノ

昭和四年度	昭和五年度	昭和六年度	昭和七年度	昭和八年度	昭和九年度	昭和十年度	計	摘 要
二六戸	一〇戸	一一戸	一戸	二戸	二戸	二戸	五三戸	開墾助成地區ノミ

土地利用ノ狀況ハ一農戶當一町歩乃至二町歩ノ耕作ヲナシ生産状態ハ極メテ良好ナリ

(二) 現在獎勵金交付申請ヲナセルモノ百戸以上アリテ獎勵金ノ交付ヲ渴望セリ

五、暗渠排水事業

昭和七年度ヨリ昭和十年度ニ亙リ卑濕ナル耕地ニ對シ政府ノ補助ヲ受ケ暗渠排水工事ヲ施行セリ
 工事材料タル粗朶、丸太等ハ總テ附近ノ山林ニ求メ就勞人夫ハ可成自家勞力ニ依ラシメタルヲ以テ工事費ハ比較的低廉ニ施行セラレタリ而シテ工事完了後ハ從來ノ一毛作濕田ハ一變シテ二毛作ノ乾田トナリ普通水稻六俵、小麥六俵ノ收穫ヲ得ルコトトナリ農民ノ喜悅甚シキモノアリテ其ノ成績極メテ良好ナリ

暗渠排水工事實績調

年 度	工 事 終 了 地 積	工 事 費 支 出 額
昭 和 七 年 度	五・五二〇〇	一、二八〇・〇〇
同 八 年 度	九・七七〇〇	四、〇一九・八五
同 九 年 度	八・二五〇〇	三、九八〇・〇〇
同 十 年 度	一五・九三〇五	六、五二四・四〇
計	三九・四七〇五	一五、八〇四・二五

六、時局匡救耕地事業

昭和七年度ヨリ同九年度ニ亙リ時局匡救耕地事業ヲ施行シ顯著ナル成績ヲ收メ農村振興上裨益スル處甚大ナルモ
ノアリ其ノ概要次ノ如シ

(一) 二年量開墾事業ハ耕地整理事業中ニ、縣營ニ屬スル時局匡救用排水幹線改良事業ハ一般用排水幹線改良事業中
ニ記述スルコトセリ)

(二) 小開墾事業

本事業ハ昭和七年度ヨリ三箇年間ヲ以テ所謂時局匡救事業トシテ事業費豫算總額四十萬一千三百九十七圓餘、
内國庫助成額十九萬八千七百八十二圓餘ヲ以テ施行セルモノニシテ匡救事業ノ意ヲ體シ十一月以降三月迄ノ農
閑期ヲ利用シ小農家ニ就勞ノ機ヲ與ヘ且勞銀ヲ得セシムルヲ目的トシタルヲ以テ極力自家勞力ニ依ラシムル様
指導セル結果各年度豫定ノ工事ヲ完了シ其ノ施行箇所數五千三百三十六箇所、其ノ地積九百九十四町步餘ノ開墾
ヲ爲セリ大半ハ平地林又ハ原野ヲ開畑シタルモノニシテ施行後ハ馬鈴薯、陸稻、甘藷、蔬菜等ヲ栽培シ其ノ成
績佳良ナリ

(三) 小用排水改良事業

本事業モ亦時局匡救事業ノ一ニシテ同様昭和七年度ヨリ三箇年間ヲ以テ事業費豫算總額五十八萬五千四百四十圓
餘、内國庫助成額二十九萬百一圓餘ニシテ湛水地又ハ旱害地ニ小用排水路ヲ設置シ農民ヲシテ勞銀ヲ得セシメ
同時ニ將來農作物ノ增收ヲ計ラムトシテ本事業ヲ施行セシメタリ其ノ箇所數一千五百三十七箇所、關係受益面
積一萬二百五十六町步ニシテ竣功後灌溉排水共極メテ良好ナル實績ヲ收メタリ

(四) 小設備事業

本事業モ亦匡救事業ノ一ニシテ其ノ種類ハ堤塘、道路、橋梁、掛種、掛種、掛種、揚水機改造、堰、護岸、伏越等ニ

シテ從來農業不況ニ依リ改良、新設、修繕ハ負擔過重ニシテ容易ナラザリシモ本助成事業ニ依リ漸ク解決ヲ見
タルモノ多ク昭和七年ヨリ三箇年間施行セル事業費豫算總額七十一萬七千二百五十二圓餘、内國庫助成額三十
五萬一千二十一圓餘、施行箇所數二千七百二十八箇所、受益面積二萬五千二百六十九町步ニシテ各年共大半ハ
農閑期ヲ利用シタルヲ以テ地方農民ノ享受セル利益ハ極メテ大ナルモノアリ

七、各種災害復舊事業

(一) 旱害對策應急耕地事業

昭和八年ノ大旱魃ニ引續キ縣下各地共用水不足ノ爲水稻植付不能面積七百町步、用水不足ノ爲旱魃被害甚面
積二千四百八十餘町步ニ達シ是等被害地ノ農家ハ收入激減シ食糧ニモ窮スルノ慘狀ヲ呈セシモ旱害對策應急耕
地事業トシテ昭和九年度、同十年度ノ兩年度ニ於テ事業費豫算總額十六萬八千八百六十圓、内國庫助成金八萬
三千四百三十圓ヲ以テ旱害地ニ適切ナル事業ヲ選定被害甚地ノ農家ニ就勞ノ機ヲ與ヘ勞銀ヲ得セシメ其ノ經
濟ヲ緩和セシムルト同時ニ他面將來ノ旱害ヲ防止スルノ途ヲ講セシメタルヲメ被害地方民ハ其ノ施設ヲ喜ヒ施
行後結果ハ良好ナリ

(二) 凶作對策應急耕地事業

昭和九年霖雨ニ伴フ冷害ノ農作物ニ及ホセル損害ハ數百萬圓ノ巨額ニ達シ然ラストモ農村ノ疲弊甚シキ折柄之
カ救濟策トシテ被害地方農民ニ就勞ノ機ヲ與ヘ窮迫セシ農家經濟ヲ如何分ナリトモ緩和セシメン爲其ノ地ニ適
切ナル事業ヲ選定昭和九年度、同十年度ノ兩年度ニ事業費豫算總額一萬一千七百七十六圓、内國庫助成金五千五
百八十八圓ヲ以テ凶作對策應急耕地事業ヲ施行セシメ之カ指導監督ヲ行ヒタル結果何レモ良好ナル成績ヲ擧ケ
タリ

(三) 水害復舊耕地事業

昭和十年九月本縣ニ於ケル連續降雨ハ曾テ明治四十三年ノ豪雨ニ次クモノニシテ各地觀測所ノ降雨量ヲ見ルニ熊谷ニ於テ二百耗、浦和ニ於テ二百三十耗、山嶽地方ノ秩父ニ在リテハ實ニ四百四十耗餘ヲ示セリ爲ニ各河川忽チニシテ増水氾濫シ溜池、堤塘、護岸ノ決潰、橋梁、樋管、井堰、水路等ノ流失、耕地ノ浸水等其ノ數枚舉ニ追アラス荒川本川及其ノ支流入間川、都幾川、越邊川沿岸並利根川支流神流川、身馴川、志戸川沿岸附近ハ特ニ著シキモノアリテ其ノ被害ハ耕地事業關係ノミニテモ實ニ百四十萬圓餘ノ巨額ニ達シ積年不況ニ喘キツツアル農村ハ愈々深刻ノ度ヲ加フルニ至レルヲ以テ昭和十年度ヨリ三箇年間ノ計畫ヲ以テ事業費豫算總額二十七萬五百四十六圓、内國庫助成金十四萬二千三十七圓ニテ農道、水路、護岸、橋梁、伏越、樋管、溜池、堤塘、堰等ノ復舊計畫ヲ立案シ極力指導督勵シタル結果豫定通着々進捗シ其ノ成績ハ良好ナルモノアリ

一、農村振興上耕地事業ノ將來採ルヘキ指導方針

- 一、本縣耕地事業ノ根幹タルヘキ用排水幹線改良事業ニ關シテハ縣財政ノ許ス限リ實施シ以テ耕地改良ノ根本的解決ヲナサムトス
- 二、耕地整理事業ニ關シテハ基本調査、土地改良調査等繼續施行ノモノニアリテハ引續キ調査ヲナスハ勿論將來出來得ル限リ新規地區ノ調査ヲ實施セムトス尙同工事費補助ニ關シテハ縣經濟ヲ考察シ出來得ル限リ増額ヲナシ且特種工事ニ對シテハ一層補助率ヲ増加セムトス
- 三、耕地整理工事完了後ノ事務ニ關シテハ縣耕地協會ト連絡シ一層之カ指導ヲ加ヘ以テ事業ニ依リ得タル利益ヲ減損セサル様努メムトス尙組合ノ財務ニ關シテハ一層周密ニ指導シ且十分監督ヲナサムトス
- 四、水利組合ノ管理ニ關シテハ組合ノ狀況ニ鑑ミ一層適切ニ之ヲ管理シ且出來得ル限リ組合ニ於テ施行スル事業ニ對シテモ相當助成ノ途ヲ講セムトス
- 五、山村並養蠶專業地帯ノ町村ニ對シテハ特ニ食糧ノ一部自給ヲ目的トシ一層開墾事業ノ獎勵ニ努メムトス

六、農山村經濟更生計畫並農村計畫ニ關スル調査指導ニ付テハ將來新ニ專任職員ヲ設置シ一層之カ勸奨ニ努メムトス

七、暗渠排水工事ニ關シテハ縣下各郡ニ模範地區ヲ選定シ以テ獎勵ノ指針ヲラシメムトス

千葉縣

一、農村振興上耕地事業ノ實績

過去現在ノ狀況

本縣ハ上總、下總及安房ノ三國ヲ包容シ耕地面積水田十一萬餘町步、畑地八萬餘町步、農家戸數十六萬ヲ算ス而テ下總ノ一帶ハ地勢低濕ニシテ印旛沼、手賀沼、阿部沼等多數ノ不毛ノ池沼介在シ西北部一帶ハ利根及江戸ノ兩河ヲ圍ラシ一朝河川氾濫セムカ耕地内ノ排水不能ニ陥リ農產物ヲ全滅若ハ半減セシメ農家經濟ヲ破壊スルノミナラス農民生活ヲ脅カサルニ至ル故ニ縣ハ利根及江戸川沿岸ニ對シ銳意排水改良ヲ獎勵シ小排水機ヲ設置シタルモノ三十八箇所、改善面積五千六百町步ニ達シ其ノ被害ヲ除去改善セラレタリト雖之等ハ當時國縣費補助一割内外ニ過キサル爲地元民ノ負擔過重ニ苦ミツツ負債償還ニ努力セル現狀ニシテ未タ農村經濟ノ復興ヲ見ル能ハサルハ當時耕地政策ノ不徹ノ恨ミナントセス農村ノ爲甚タ痛恨ニ堪ヘサルコトヲ惟ハシム

之ニ反シ安房及上總ノ兩國ハ九十九里沿岸ノ平野ヲ除ク外丘陵トモ稱スヘキ小山脈ノ間ニ耕地ヲ介在セル半島ニシテ水源豐富ナラス年々用水不足ヲ告ケ米作ノ豐穰ヲ期スル能ハス況ヤ二毛作トシテ土地ノ利用ヲ圖ルカ如キハ用水源ノ施設ヲ行フニアラサレハ之ヲ爲スコト能ハス常ニ冬期間中雨水ヲ貯溜セル現況ニアリ

最近十箇年間ノ旱害地調査ヲ行ヒタルニ左ノ如シ

自大正六年 旱害調書
至昭和十一年

内 譯

年次	被害面積	被害石數	被害價格
大正六年度	二、八〇五	九、八一七 ^五	一七六、二一五 ^四
同七年度	三、七四〇	一三、〇九〇	四七九、二五〇
同十二年度	一、八二六	三、一〇四	一〇一、二二一
同十三年度	三二、六〇一	一六九、三六一	六、一一二、六三〇
同十四年度	二、二一一	四、六四三	一九〇、三六三
同十五年度	四、五八四	一四、六六八	五一三、三八〇
昭和二年	一九、四七六	一〇七、六二一	三、八八三、八一四
同四年	一七、四〇八	一一二、〇六一	三、三六一、八四一
同八年度	三五、二六九	三五五、〇五四	八、八三八、三四八
同九年度	二二、四三一	一九九、八〇九	五、一九二、〇〇四
計	一四二、三五一	九八九、二二八	二八、八四九、〇六六
過去二十箇年ノ平均	七、一一七	四九、四六一	一、四四二、四五三
過去十箇年ノ平均	九、四五八	七七、四五四	二、一二七、六〇〇

之ヲ要スルニ本縣ノ農業水利關係甚タ不良ナルト五萬町歩ノ未開墾適地ヲ有スルニ鑑ミ耕地事業中水利事業ト開墾事業ニ重點ヲ置キ其ノ改良發達ヲ促シ農村振興ニ資シタルモノ尠シトセス即チ

一、縣營用排水幹線改良事業ノ實績概要

本縣ニ於ケル用排水幹線事業ハ栗山川外二十二地區ニシテ其ノ事業費六百二十六萬四千六百三十圓ヲ算シ支出總額

ハ三百七十八萬七千八百五十九圓ニ達シ内事業竣功セルモノ小櫃川、養老川、新川並鹿島川沿岸排水改良地八千八百餘町歩ニ達ス次テ本年度ヲ以テ竣成セムトスルモノハ南白龜川、栗山川、眞龜川及眞間川沿岸排水改良地一萬五千餘町歩ニシテ之等ハ洪水被害ヲ豫防シ稻作收量ニ於テ四萬四百餘石ノ增收ヲ擧ケ農業經營ノ安定ニ資シタリ以上ノ外工事施行ニ依リ延人員大約三百二十五萬人ノ就勞者ヲ使役シ之等勞働ニ從事セシ農民ハ之カタメ勞銀ヲ得テ疲弊農村ヲ救済セシコト僅少ナラス又一面勞働ニ依リ勤勉、勤儉ノ美風並一致協力心ノ涵養等精神上好影響ヲ齎ラセシコト僅少ナラス

以上ハ農村振興ニ及ホシタル概要ナリト難就中根木名川沿岸排水改良事業地帯ハ豐住村外四箇町村ニ亘ル一千餘町歩ノ根木名川ハ唯一ノ排水幹線ナリト雖屈曲多ク且排水斷面過小ナルノミナラス一朝利根川ノ洪水ニ際會セムカ沿岸一千餘町歩ノ排水ハ全ク不能トナリ忽チニシテ内水氾濫シ長沼ト共ニ一面ノ泥海ト化シ畜ニ生産被害ヲ蒙ルノミナラス思想惡化シ小作爭議ノ如キ年々激増シ豐住村ノ如キハ農民組合ヲ組織シ地主ト對抗セラルルニ至レリ偶々根木名川沿岸排水改良成ルヤ獨リ既耕地一千町歩ノ農業經營ノ安定セルノミナラス長沼ノ不毛地三百餘町歩ハ開墾適地ニ化セル爲農民組合ハ之ヲ解散シ勤勞會ヲ組織シ既ニ八十餘町歩ノ共有地ハ共同開墾計畫ヲ樹立シ名々自力ヲ提供シ既ニ其ノ過半ヲ開墾シ小作農ハ共有地ヲ分割所有シ自作農タラムト欲シ各々家業ヲ勵ム平和郷ニ急轉セリ是レ全ク排水改良事業並開墾事業施行ニ依ル得難キ效果ニシテ單ニ生産増加ニヨル收益ヲ擧クルノミナラス延ヒテハ農村ノ平和ヲ再建セシ礎ニシテ適切機宜ヲ得タル事業ト謂フヘシ斯ノ如ク農村問題ノ解決ハ一種ノ施設ノミニシテ效果ヲ擧クヘキモノニアラスシテ各種事業ノ施設力連絡統制實施セラレ茲ニ農村振興ノ全キ效果ヲ齎ラスモノタルヲ例證スルニ足ル

二、開墾事業ノ實績概要

(一) 生産ノ増加

本縣下ニ於テハ開墾助成法ニ基キ施行セルモノ百五十六地區、開田面積二千二百三十八町歩、開畑面積三百七十

七町歩之ニ要シタル事業費二百三十三萬一千八百四十六圓ニシテ年々得ヘキ利益ハ四十八萬五千七百七十五圓(自作ノ場合)ノ巨額ニ達セリ

(二) 自作農創設

開墾ト普通耕地整理ヲ併セ行ヒタル地區及集團地ノ開墾ヲ行ヒタル地區ニアリテハ相當ノ増歩地ヲ得タルヲ以テ自作農創設ヲ目的ニ増歩地ノ處分ヲ行ヒ工事中得タル勞銀ヲ以テ競テ耕地ノ分讓ヲ受ケ自作農タラシメタル效果著シキモノアリ而シテ他面組合ハ増歩地處分ニ依リ組合債ノ全償却ヲ爲シ長期間ニ於ケル年々ノ組合債償還負擔ノ重壓ヨリ免カルルヲ得タリ

(三) 縣内外ノ移民

印旛沼、手賀沼沿岸ニ於ケル集團地開墾ニアリテハ縣内外ヨリ又其ノ他ノ開墾地ニアリテハ縣内ヨリ移住者ヲ招致シ既ニ建設シタル移住家屋ハ百七十七戸ニ及ヘリ

(四) 思想ノ善導

從來耕作地過少ノ爲農家食糧ノ自給ヲ失シ農民ノ思想ハ極度ニ惡化シ來リタルモ耕地面積ノ増加ニ依リ農業經營ノ確立ト勤勞精神ノ發揚ニ依リ一村ノ平和ヲ招來シタル實績尠ナカラス

(五) 漁村ノ更生

外房海岸一帶ハ耕地面積過小ニシテ所謂半漁半農家多ク近時近海漁業ノ不振ニ依リ極度ニ疲弊セルモ耕地ノ擴張ヲ行ヒ食糧ノ自給上農耕ニ從事セル者續出シタリ

三、普通耕地整理事業ノ實績概要

本縣耕地整理事業ハ明治三十四年以來順調ニ普及發達シ施行地區數七百八十五、施行地積三萬六千五百六十六町歩ヲ算ス而シテ其ノ實績ヲ表示スレハ

種別	地積	增收、反當利益	節約	增收人數	利益額
小用排水改良	二五、五五〇町				三、二一八、四五〇
增收ニ依ル利益	二五、五五〇	三三		七六、六五〇	一、七六二、九五〇
品質向上ニ依ル利益	二五、五五〇	一四		七六、六五〇	二五五、五〇〇
二毛作ニ依ル利益	一〇、〇〇〇	一二		一、二〇〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇
道路改良及區劃整理	六、八二八	三人		二〇四、八四〇人	一四三、三八八
計	三二、三七八			七六、六五〇石 二〇四、八四〇人	三、三六一、八三八

(イ) 用排水ノ設備完備セル爲ニ毛作地ノ増加、生産増加並品質向上ヲ來シ堅實ナル農業經營ヲ爲スニ至リタルコト

(ロ) 勞力ノ節約ニ依リ副業、農村工業等ニ利用シ得ルニ至リタルコト

(ハ) 開墾セル結果農家經濟ヲ向上セシメタルコト

(ニ) 暗渠排水等ノ施行ニ依リ山間地方ノ小農ノ生活ヲ安定ナラシメタルコト

香取郡小見川町第一耕地整理組合事業ノ實績

一、事業施行地ノ現況

本地區ハ成田線小見川驛ノ東南方黒部川沿岸二百二十町歩ノ地積ヲ有シ田畑錯綜シ所々ニ山林アレ共ニ平坦ナリ田八十五町歩ハ確固タル水源ナク天水ニ依リタルヲ以テ年々旱害ヲ蒙リ又畑地ニアリテハ田面ヨリ何レモ二、三尺高キ島畑ナリシ爲交通、耕作ノ不便甚シキ所ナリ

二、計畫ノ大要

開田ノ目的ヲ以テ島畑ヲ切均シ古田ト共ニ區劃整理ヲ行ヒタルモノナリ此カ用水源ハ黒部川ヨリ五十馬力ノ電動機ヲ以テ二十吋ノ渦卷唧筒ヲ運轉シ毎秒十七個ヲ揚水シ百八十五町五反歩ニ灌溉スルモノナリ而シテ區劃整理ニ伴ヒ道水路ヲ四通八達セシメ灌溉排水交通ノ至便ヲ計レリ

地區總面積 二二九・八^町

内 譯 (施行後)

田 一八五・五^町 (開古田整理) 一〇三・三^町

畑 一八・八

其ノ他 一五・五 (道水路)

事業費總額 九〇、〇〇〇圓

内 譯

溝渠費 二一、一二二圓

道路費 七、九五三圓

揚水機費 一三、五八四圓

植管費 五、二三四圓

橋梁費 四、〇二〇圓

堰費 七七五圓

畦畔費 二九四圓

開田費 三一、一八二圓

補償費 一、七七〇圓

其ノ他

四、〇六六圓

三、工事施行ニ依リテ得ヘキ利益
年々ノ利益 (自作ノ場合)

工事施行前ニ於ケル利益ハ一萬二千百三十六圓ニシテ工事施行後ハ三萬七千四百二十圓ナルヲ以テ差引二萬五千二百八十四圓八年々受クヘキ利益ナリ

四、事業施行ニ依リテ自作農創設

本事業ニ對シテハ開墾助成金並縣補助金約三萬圓ノ交付アリタルヲ以テ借入金ハ五萬圓ナリ而シテ本地區ハ區劃整理ヲ行ヒタル爲畑地ノ法畦畔ヨリ生シタル増歩地十二町餘歩ハ自作農創設ノ爲之ヲ償却セルニ工事中得タル勞銀等ヲ以テ收得シタル者多數アリ之ニヨリ組合ハ一時起債ヲ償還シ永年ノ負債償還ノ重壓ヨリ免カルルヲ得タリ

東葛飾郡布佐町相島耕地整理組合事業實績

一、事業施行地ノ現況

本地區ハ成田線布佐驛ヲ距ル西方約三町ノ地點ニ始マリ高臺ノ基脚部ヨリ手賀沼ニ緩勾配ヲ以テ連ナル平坦地ナリ舊耕地四十五町歩ハ低キ堤塘ニテ保護セラレタリト雖沼水位ノ上昇著シキ時ハ何等其ノ用ヲナサス年々湛水ノ被害ヲ受ケツツアリ而シテ沼ニ接近スル部分六十六町歩ハ葭、眞菰繁茂シ原野、池沼ノ状態ヲ呈セリ

二、計畫ノ大要

高水位ノ浸入ヲ防ク爲東西南ノ三方ニ堤塘ヲ圍ラシ灌溉排水兼用ノ揚水機 (五十馬力ノ電動機二十二吋ノ渦卷唧筒) ヲ設置シ原野、池沼ノ開墾ヲ行フト共ニ區劃ノ整理ヲナシ道水路ノ配置ヲ適當ナラシムルモノトス

地區總面積 一一八・二^町

内 譯 (施行後)

千葉縣

田 九七・八(開田)
畑 〇・一(古田整理)

五二・五(開田)
四五・三(畑)

原野

九・四

其ノ他

一〇・九(堤塘、道水路)

事業費總額

一一一、四〇〇圓

内 譯

堤塘費

四九、三四五圓

揚水機費

一四、六二五圓

開田費

一二、一三九圓

道水路費

九、六二〇圓

橋梁樋管費

五、九三四圓

古田整理費

一、四二四圓

用地補償費

二、〇〇〇圓

工費用軌條費

七、四五〇圓

其ノ他

八、八六三圓

三、工事施行ニ依リテ得ヘキ利益

年々ノ利益(自作ノ場合)

工事施行前ニ於ケル利益ハ二萬二千六百二十圓ニシテ工事施行後ハ大部分ノ開墾ナルカ故ニ五萬一千七十五圓ノ利益トナリ差引二萬八千四百五十五圓八年々受クヘキ利益ナリ

四、農業經營

地區關係農家ハ工事施行前ハ數段ノ踏車ニテ灌溉排水シタル等多大ノ勞力ヲ要シタルヲ以テ一戸當平均田六反歩ヲ耕作シタルモ工事施行後ニアリテハ揚水機ニ據ルノ外交通至便且改良農具使用ノ爲ニ町五反歩ヲ耕作シ尙縣内ヨリ六戸ノ移民ヲ行ヒタル等農村ノ更生實ニ顯著ナリト云フヘシ

印旛郡本埜村下井耕地整理組合事業ノ實績

一、事業施行地ノ現況

本地區ハ成田線安食驛ヲ去ル南方二十町ノ地點ニシテ長門川ノ沿岸ニ位シ印旛沼ノ湛水地域トシテ葭葦ノ叢生スル原野ナリ

二、計畫ノ大要

堤塘ヲ外圍ニ築造シ印旛沼ノ高水位ヲ防クト共ニ内水ヲ長門川ニ排除スル爲七馬力半ノ電動機ニテ十吋ノ渦卷唧筒ヲ運轉スルモノナリ而シテ原野ノ開墾ヲ行ヒ道路、溝渠ノ配置ヲ完備シ且早魃期ニ遭遇スルトキハ排水機ヲ灌溉用ニ供シ耕作上萬遺憾ナカラシメタリ

地區總面積

五九・八

内 譯(施行後)

田 四三・三

畑 四・四

宅地 〇・六

原野 二・二

池沼 〇・六

千葉縣

千葉縣

其ノ他

八・七^町(堤塘、道水路)

一四六

事業費總額

六七、九六一圓

内譯

堤塘費

一七、二五三圓

道路費

四、一九八圓

水路費

二、六四四圓

開墾費

二一、五一六圓

植管費

三、二一九圓

揚水機費

一〇、一四三圓

移住家屋費

二、九六〇圓

其ノ他

六、〇二八圓

三、工事施行ニ依リテ得ヘキ利益

年々ノ利益

工事施行前ノ利益ハ二百六十三圓ニシテ工事施行後ハ一萬七千八百七十二圓トナリ差引一萬七千六百九圓八年々受クヘキ利益ナリ

四、縣内外ノ移民

本地區ハ殆ト一人ノ所有ナルヲ以テ一部農場經營ト小作ニ依リタルモ工事ハ略完成シタルヲ以テ縣内ヨリ十三戸、縣外ヨリ二十二戸ノ移民ヲ招致シ一戸平均田一町五反歩ト畑一反歩ヲ耕作セシメ移住三年後ニ於テハ希望ニヨリ自作トシテ耕作面積ノ二分ノ一ヲ限り分讓セムトスルモノナリ

安房郡七浦村白間津第二耕地整理組合事業ノ實績

一、事業施行地ノ現況

本地區ハ房總線千倉驛ヲ去ル南方二里餘ノ地點ニアリ地區ノ北方ハ高峻連リ南方ハ海ニ向テ緩傾斜ヲナセル畑地ニシテ地形上狭小ナル地域トス

二、計畫ノ大要

地區外ニ溜池ヲ新設シ隧道ニテ導水シ十二町四反歩ノ畑地ヲ開田スルト共ニ溝渠、道路ノ新設改修ヲ行ヒ交通運輸、灌漑、排水ノ便ヲ圖リタリ

地區總面積 一四・三^町

内譯 (施行後)

田 一二・四^町

其ノ他 一・九

事業費總額 一一、〇〇〇圓

内譯

道路費 一二三三圓

溝渠費 四九二圓

溜池費 一六、六〇〇圓

堰費 一〇〇圓

植管費 一七八圓

開田費 一、六九二圓

千葉縣

一四七

事業費

事業費總額

三十三萬五千八百五十圓

內譯

工事費

二十八萬八千六百六十五圓五十七錢

雜費

四萬七千八百四十四圓四十三錢

工種別	工費	工種別	工費
水路堤塘	一三九、二〇〇・〇〇	護岸	三六、〇五七・七四
橋梁	一二、四〇五・〇〇	物件補償	二、八三四・四五
堰	五六、七四七・五三	雜費	四七、一八四・四三
樋管	四、五七七・〇〇	計	三三五、八五〇・〇〇
用地買收	三六、八四三・八五		

三、工事施行ニ依リテ得タル利益

(一) 水害ニ對スル利益

本河川ノ改修前ト改修後ノ効果ヲ立證スルタメ改良工事中昭和三年、四年、六年、七年ニ(八年度ハ水害ナシ)調査セル雨量ト從來被害ノ最激甚ナリシ大正五年ト比較對照スルニ左表ノ如クニシテ工事ノ進捗ニ伴ヒ被害減少シ昭和六年度ハ十月十三日、十四日ノ連續雨量九十三・四耗、十六日ニ八十八耗ノ降雨アリ三日合計雨量百八十二・二耗ニシテ大雨ナリシニモ不拘大正五年ノ如キ洪水位ニ達セス被害ヲ免レタルハ改良ノ効果ヲ證スルモノニシテ昭和六年度ハ大正五年度ニ比シ一萬五千九百六十八石ノ增收ヲ得タリ

又昭和七年度ト大正五年度ト對照スルニ昭和七年度ハ大正五年度ニ比シ最大日雨量大ナリシニ水位モ低ク被害面積ハ著シク減少セリ、如何ニ効果ノ偉大ナルカヲ知ルヘシ

年度	種別	計最大日雨量	最日雨量	連續最大雨量	洪水位ニ於ケル最高水位	被害面積	被害石數	同換算金額	作付反別	收穫高	一反歩ノ收量
大正五年	十月	三、七〇・〇	二、八三・三	八日 二、五〇・四	二・五九	一、三四五・三	七、三三四	二五、八八九	三、五三七	四、一六石	一・五
昭和三年	六月	四、七三・六	三、三三・二	二日 二、五〇・五	三・三三	三、九七〇	二、九七〇	一〇、七四五	三、六八四	五、七三石	一・五
同四年	九月	四、三三・七	三、九六・六	九日 三、三三・三	二・二二	—	—	—	三、六九〇	五、九三石	一・六
同六年	十月	三、三三・三	二、八八・八	四日 二、八七・七	二・二五	—	—	—	三、五一一	六、四一石	一・七
同七年	十一月	三、三三・三	二、八八・八	三日 二、八七・七	二・三〇	二、九三三	一、三四五	四、七七五	三、八〇八	六、四九石	一・五

備考 作付面積ノ増加セシハ收穫安全トナレル爲荒田、原野ノ開墾ニ基因ス

(二) 旱害ニ對スル利益

三箇所ノ堰止ヲ設置セル爲地下水ノ低下ヲ防キタルヲ以テ沿岸耕地六百四十八町歩ノ耕地ハ昭和八年ノ如キ未曾有ノ旱害年ニ不拘豐作ナリシニ依リテ見ルモ其ノ效果ノ大ナルヲ知ルヘシ一反平均六斗ノ增收ト見ルモ三千八百八十八石、七萬七千七百六十圓ノ利益トナル

一、農村振興上耕地事業ノ將來採ルヘキ方針

一、縣營用排水幹線改良事業

農村振興上其ノ根幹トナルハ實ニ耕地ニシテ其ノ良否ハ農村振興ニ影響スルトコ甚大ナルコト今更言ヲ俟タス依テ縣下五百町歩以上ノ集團耕地ノ生命線タル用排水幹線ヲ改良スルヲ目的トシテ縣營ニヨリ施行シ以テ其ノ重要部ノ施設ヲ整備シ其ノ他ノ支派線ノ設備ハ第二段ニ讓ルコトトセリ

本縣ニテハ既ニ洪水氾濫ノ實績(別表参照)
農業水利改良事業被害調査

名稱	最大被害額		十箇年間被害額	
	地積	金額	地積	金額
栗山川沿岸	一、三九七町	二〇六、七七六圓	四、〇五〇町	七八、六五六圓
南白龜川沿岸	三、〇二七町	二八八、五九一圓	七、九六七町	八八二、六五六圓
新川沿岸	二、〇〇八町	三九六、四三〇圓	一二、七五九町	一、五一九、一〇〇圓
小櫃川沿岸	二、五〇一町	二五〇、八五三圓	九、一八〇町	一、二〇三、一九〇圓
養老川沿岸	一、七六八町	三〇七、四二八圓	八、〇〇一町	七七三、七八四圓
大須賀川沿岸	八七八町	一七三、一六六圓	四、二九五町	五一二、四八三圓
根本名川沿岸	七〇〇町	一五七、〇六〇圓	二、三四〇町	五五七、三八〇圓
鹿島川沿岸	六〇二町	二九三、二〇〇圓	四、三七七町	五二七、一一〇圓
眞龜川沿岸	五九五町	八二、九二〇圓	三、二四九町	二九二、七九〇圓
夷隅川沿岸	七〇八町	二八、五九五圓	二、一〇九町	八九、九五六圓
計	一四、一八四町	二、一八五、〇一九圓	五八、三二七町	六、四三七、一〇五圓

ニ鑑ミ洪水防除ノ目的ノ下ニ縣下排水幹線タル十大河川沿岸ノ改良計畫ヲ樹立シ繼續費四百四十九萬四千八百五十圓ヲ設定シ國庫補助ノ下ニ其ノ實施ヲ期セムトセリ即チ

自大正十二年度 農業水利改良費年度割繼續費設定
至昭和十五年年度

年度	改良費	内課		負擔	區別
		見込	國庫補助		
自大正十二年年度	三、〇三〇、〇五〇圓	一、五八八、六一一圓	七八二、八五三圓	六五八、五八六圓	
昭和十一年年度	一〇五、五〇〇圓	七四、八三四圓	三、五八四圓	三四、二五〇圓	
同十二年年度	三三七、三〇〇圓	三〇、二〇〇圓	一八七、一〇〇圓	一二〇、〇〇〇圓	
同十三年年度	三四五、〇〇〇圓	一四九、二八〇圓	九八、二二〇圓	七七、五〇〇圓	
同十四年度	三六三、五〇〇圓	二〇、〇〇〇圓	一〇〇、五〇〇圓	九五、五〇〇圓	
同十五年度	三一三、五〇〇圓	一八、七五〇圓	一一一、七五〇圓	一〇、〇〇〇圓	
同十六年度	四、四九四、八五〇圓	二、四〇七、四二五圓	一、〇九一、五八九圓	九九五、八三六圓	
計		(+)	(+)		

備考 國庫補助右側ハ指令濟額、左側ハ豫定額ヲ示ス
縣費(+ハ前年度縣費負擔ニ對スル國庫補助歳入増加ニシテ縣費負擔ヲ要セス尙殘額ヲ示ス

尙昭和八年縣下ニ襲來セシ未曾有ノ大旱害禍ハ別表ノ如ク三萬五千餘町步、被害價格八百八十餘萬圓ナリシニ鑑ミ五百町步以上ノ集團地ニシテ被害激甚地一萬町步ヲ選定シ繼續費三百九十七萬圓ヲ設定シ(別表参照)之力救濟策ヲ確立シ縣會ノ協賛ヲ經國庫補助ノ下ニ着手セシモ既ニ工事着手セルモノ僅ニ三地區ニ過キス補助未指令ノ事業費三百七十六萬七千八百八十六圓ニ達シ縣既定方針ヲ遂行スル能ハス不況農村救濟上國庫補助ノ下ニ速ニ其ノ實行ニ移シ少クモ六箇年以内ニ之カ完成ヲ期セムトス
以上ノ外近年頻發セシ風水害並旱害等ニヨリ被害ヲ蒙リシ地方ニ對シ新規ニ災害防止對策トシテ緊急施行ヲ要ス

ルモノ尙二十二地區、其ノ被害面積一萬七千町步、事業費三百二十萬圓ノ改良工事(別表参照)ヲ企畫シ國庫補助ノ下ニ實施セムトス

昭和八年郡市別旱害被害調査

郡市名	植付不 能面積	收穫皆無	植付後ノ旱害見積面積			合計	被害石數	被害見 積價格	
			七割以上 減收	五割以上七 割未満減收	三割以上五 割未満減收				三割未満 減收
千葉郡	六、〇九	七、七	五、九一	八、八	九、五	三、四七	四、〇一	八、五七	
市原郡	二、八五	六、七	五、四三	二、八五	一、三三	一、三三	二、〇七	四、〇一	
東葛飾郡	二、六九	六、四	五、四八	六、四一	八、〇八	二、六〇	二、七九	五、四三	
印旛郡	六、五四	一、三三	一、三六	六、二〇	二、八四	三、〇四	三、〇四	八、八八	
長生郡	二、七五	一、五六	七、四七	一、〇三	七、四三	四、八五	七、二六	二、〇三	
山武郡	二、四八	五、四八	五、三一	一、四八	八、六七	三、四四	六、三三	一、四九	
香取郡	三、〇〇	五、九三	四、五一	三、九四	二、〇〇	一、五〇	一、六六	三、三三	
海上郡	三、〇九	三、〇〇	三、八五	二、〇九	一、五七	八、〇四	一、二五	二、九八	
匝差郡	八、五七	四、八一	九、三三	七、四五	四、〇九	三、七〇	三、七〇	一、〇〇	
君津郡	五、八五	一、三五	三、〇一	四、〇〇	五、五七	二、三三	二、七八	五、〇四	
夷隅郡	三、九六	一、七三	一、七三	四、三三	三、〇〇	一、七八	二、二六	三、七〇	
安房郡	四、〇九	一、三〇	三、九七	六、四九	四、三三	二、九七	三、二四	六、七〇	
千葉市	三、六	〇、五	〇、五	一、三	二、〇	三、七	二、三	三、〇六	
銚子市									
合計	八、三九〇	三、三三三	六、三三八	六、八六四	五、八八四	四、七五一	二、六〇〇	三、五二九	四、五二六

市川市	八、三九〇	三、三三三	六、三三八	六、八六四	五、八八四	四、七五一	二、六〇〇	三、五二九	四、五二六
-----	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

自昭和八年年度旱害地帯救済用排水改良費年度割續費設定
至同十七年度

年 度	改 良 費	内 譯 費		地 元 寄 附
		國 庫 補 助	縣 費	
昭和八年年度	六〇、〇〇〇	四二、三、九〇〇	四、五、〇〇〇	一五、〇〇〇
同九年年度	九二〇、〇〇〇	三〇、七〇〇	二六六、一〇〇	二三〇、〇〇〇
同十年年度	一六七、六八七	六六、九七一	六三、〇三四	七三、九五三
同十一年年度	三八一、二一九	一五、〇〇二	一六八、九三六	二五〇、〇九三
同十二年年度	五一八、〇九四	一五、〇〇〇	一四八、八九六	一一三、一二九
同十三年年度	五〇八、〇〇〇	四三、三〇七	一四八、八九六	一一〇、七〇四
同十四年度	四四五、〇〇〇	一五、五〇〇	八六、三七九	八七、一一一
同十五年度	四二〇、〇〇〇	二二、五〇〇	九七、五〇〇	九〇、〇〇〇
同十六年度	二九〇、〇〇〇	二一、〇〇〇	六七、五〇〇	一一、五〇〇
同十七年度	二六〇、〇〇〇	一四、五〇〇	一一五、〇〇〇	

昭和十八年度	三、九七〇、〇〇〇 円	一、三三〇、〇〇〇 円	(+)	一三〇、〇〇〇 円	九九二、五〇〇 円
計		一、九八五、〇〇〇 円		九九二、五〇〇 円	九九二、五〇〇 円

備考 國庫補助右側ハ指令濟額、左側ハ豫定額ヲ示ス
 縣費(+)ハ前年度縣費負擔ニ對スル國庫補助歲入増加ニシテ縣費負擔ヲ要セス尙殘額ヲ示ス

災害防止對策排水改良事業

地 區 名	受 益 面 積	事 業 費
東葛飾郡浦安町外二箇町村	九四五町	一、二〇、〇〇〇 円
香取郡新島村外三箇町村	一、八三二	二〇〇、〇〇〇
香取郡多古町外六箇町村	一、二四二	二五五、〇〇〇
安房郡鴨川町外三箇村	八五四	三七〇、〇〇〇
山武郡木戸川沿岸	七八〇	九〇、〇〇〇
長生郡本納町外二箇村	五二〇	七〇、〇〇〇
香取郡小野川沿岸	六〇〇	一〇〇、〇〇〇
香取郡小見川町外二箇村	五三四	一〇〇、〇〇〇
長生郡赤目川沿岸	五〇〇	一二〇、〇〇〇
長生郡内谷川沿岸	五三〇	四〇、〇〇〇
長生郡南白龜村外二箇村	五〇〇	一二〇、〇〇〇
匝瑳郡宮川沿岸	五〇〇	三五、〇〇〇

山武郡白里村	五五〇	一五〇、〇〇〇
市原郡村田川沿岸	一、三八〇	二二〇、〇〇〇
夷隅郡吉町外三箇町村	九〇〇	二五〇、〇〇〇
匝瑳郡西ノ新堀上流	八〇四	三〇、〇〇〇
匝瑳郡平和村外三箇村	一、〇〇〇	三五、〇〇〇
印旛郡白井町外二箇村	八〇〇	三〇三、〇〇〇
匝瑳郡借當川(栗山川支流)	五二七	三五、〇〇〇
東葛飾郡田中村外三箇町村	五〇〇	二〇〇、〇〇〇
長生郡茂原町外三箇村早野川	五五〇	一二〇、〇〇〇
東葛飾郡手賀沼排水	一、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇
計	一七、三四八	三、一七三、〇〇〇

二、開墾事業

近時軍用地ノ新設ト其ノ他都市ノ膨脹等ニ依リ耕地ノ減少スルモノ多ク一面人口ハ年々一萬三、四千ノ増加ヲ示スニ至リ縣内移民ト自作農創設ヲ第一眼目トシテ集團適地ヲ縣營ニテ開墾スヘク既ニ助成ノ出願ヲナセルモ未タ其ノ指令ニ接セス着工ノ運ニ至ラサルハ實ニ遺憾トスル處ナリ

將來本縣ニ於ケル開墾見込地ハ實地調査ノ結果五萬八千七百二十五町步(開田 一萬二千七百二十五町步 開畑 四萬六千町步)ニシテ然モ氣候溫和ノ天恵ト地味肥沃ノ集團適地幾多存スルヲ以テ之ヲ國營又ハ縣營ニテ年々二百五十町步ヲ施行シ其ノ他各所ノ適地ニアリテハ町村營又ハ耕地整理組合ニテ年々七百五十町步ノ開墾ハ絕對必要トスルモノニシテ十年間ニ一萬町步ヲ目標トシ土地饑饉ノ現狀ヲ打開シテ小作問題ノ解決ニ資シ縣内移民二千五百戸ニ依リ自作農創

成開設ノ徹底ヲ圖ラムトス

三、普通耕地整理事業

(一) 將來耕地整理施行見込地

本縣ニ於ケル將來耕地整理事業トシテ施行スル見込地積次ノ如シ

種別	地積	種別	地積
小用排水改良	六三、〇〇〇町	農村道路	五五、〇〇〇町
暗渠排水	一五、〇〇〇		

(二) 小用排水改良

(イ) 縣營小用排水改良事業

昭和八年ノ大旱害ニ鑑ミ旱害激甚地二萬町步中五百町步以上集團地一萬町步ハ前記ノ通計畫ヲ確立シ小地域一萬町步ニ對シテハ内三千六百六十五町步ヲ昭和十一年度ヨリ昭和十五年度ニ至ル五箇年繼續事業トシテ縣營ヲ以テ實施スル方針ヲ定メ豫定事業ノ完成ヲ期セムトス即チ

小用排水改良事業繼續年度割設定

年	改良費	改良地積
昭和十一年度	二二七、七〇〇町	七一〇町
同 十 年 度	二〇四、〇七五	六一四
計	四三一、七七五	一三二四

年	改良費	改良地積
同 十 二 年 度	二〇四、〇七五	六一四
同 十 三 年 度	二〇四、〇七五	六一四
同 十 四 年 度	二〇四、〇七五	六一四
計	六一二、二二五	一八四二

(ロ) 旱害激甚地用水改良補助事業

昭和八年旱害激甚地六千八百三十五町步ニ對シテハ昭和八年度ヨリ昭和十四年度ニ至ル七箇年繼續ノ補助事業トシ目下施行中ニ屬シ豫定事業ノ完成ヲ期セムトス即チ

自昭和八年度 至昭和十四年度 小用排水補助事業計畫

年	區分	實 施 地 積	工 事 費
昭和八年度		二、六七〇町	八〇一、八四三町
同 九 年 度		一、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇
同 十 年 度		六六六	二〇〇、〇〇〇
同 十 一 年 度		六六六	二〇〇、〇〇〇
同 十 二 年 度		六六六	二〇〇、〇〇〇
同 十 三 年 度		六六六	二〇〇、〇〇〇
同 十 四 年 度		五〇一	一四〇、〇〇〇
計		六、八三五	二、〇四一、八四三町

(三) 排水改良事業

農村道路並排水改良ヲ要スヘキモノハ耕地整理補助事業トシテ施行シ一箇年二千町歩ノ事業ヲ實施シ豫定事業ノ完成ヲ期セムトス

(四) 暗渠排水

暗渠排水事業ハ國庫補助ノ下ニ一箇年二百町歩、十箇年二千町歩ヲ實施シ小農ノ更生ニ資セムトス

(五) 農村道路並區劃改良

農村道路並區劃改良ハ一箇年五百町歩、十箇年間ニ五千町歩ヲ實施セムトス

(六) 事務指導

時局匡救事業及旱害救済事業實施ニ伴ヒ組合急激ニ増加シタルヲ以テ此カ完了事務ノ急速ナル完結ヲ計ラムカ爲地區數五百六、地積二萬三千三百四十八町歩ニ對シ昭和十年度ヨリ昭和十七年度ニ至ル八箇年ヲ以テ既定計畫ノ完成ヲ期セムトス

(七) 財務監督

現在ノ狀態ニ於テハ財務監督ニ關シ遺憾ノ點不尠ヲ以テ監督ノ充實ヲ期スル爲職員ヲ増置シ此カ徹底ヲ計ル方針ナリ

以上ノ耕地事業施行ノ爲左ノ豫算ヲ計上シ事業遂行ヲ期セムトス

一、耕地整理設計調査

一般耕地整理事業ノ獎勵並設計調査、工事監督、事務指導ノ爲一箇年八萬三千二百二十一圓ノ豫算ヲ計上シ此カ事業ノ進捗ヲ計ラムトス

一、基本調査

耕地集團地ノ大規模ノ調査ニシテ農村部落毎ニ農道、耕地ノ分配並開墾等ニ關スル基本設計畫ヲ樹立セシムル爲

一箇年五千二百五十四圓ノ豫算ヲ計上シ之カ進捗ヲ計ラムトス

一、農業水利調査

近時頻發スル災害ニ鑑ミ耕地五百町歩以上ノ集團地ニ對スル用排水改良事業ノ調査設計ヲ施行セムカ爲一箇年五千八百四十四圓ノ豫算ヲ計上シ之カ進捗ヲ計ラムトス

一、旱害地改良耕地事業職員費

昭和八、九年度ノ旱害ニ鑑ミ樹立セラレタル縣營小用水改良事業及小用水改良補助事業ニ依リ改良セラルヘキ一萬町歩ニ對スル調査設計ヲ爲スタメ一箇年豫算二萬圓ヲ計上シ事業進捗ヲ計ラムトス

東京府

一、農村振興上耕地事業ノ實績

一、耕地整理事業

現在地區數百四十六、内工事完了ノモノ八十七、換地處分済ノモノ五十六ニシテ地區ノ大部分ハ當初ノ計畫通事業進捗シ工事完了済ノ土地利用狀況又概ネ良好ニシテ所期ノ效果ヲ收メツツアルモ東京市内ノ地區中漸次市街地ノ傾ヲ帯ヒ來レルモノ尠カラサルハ都市ノ膨脹ノ影響ヲ避クル能ハサルニ依ルモノニシテ止ムヲ得サルモノト認めラル

全地區中組合財政逼迫ノ爲經營困難ヲ來セルモノ一地區アルモ曩ニ長期借替資金ノ配當ヲ得テ其ノ手續ヲ了シタルヲ以テ今後ハ其ノ新財務計畫ニ依リ經營上ノ困難ヲ緩和シ殘事業ヲ完了セシムルニ難カラス

二、暗渠排水事業

昭和七年度ヨリ施行シタル暗渠排水事業ハ其ノ施行地積(百一町歩)僅少ナレ共農家ノ自家勞力ヲ利用シ一面其ノ材料費ノ殆トハ補助金ニ依ルヲ以テ一般農家ノ救済トシテ效果顯著ナルモノアリ其ノ實績良好ニシテ稻作ノ增收、品質ノ向上ヲ來セルニ加ヘ完全ナル二毛作田トシテ裏作ノ收穫亦尠カラズ地價ニ於テモ五割程度ノ騰貴ヲ示シ關係農民ハ何レモ事業ノ效果ニ歡喜シツツアリ

三、開墾助成事業

島嶼ニ於テ時局匡救事業ニ依ル二年量開墾ヲ行ヒ(開田 十一町六反九畝二十步 開畑 百八十町七反七畝四步)始メテ集團的耕地ノ開發ヲ爲シタルニ其ノ經營殆ト自家勞力ト並補助金ニ依リ比較的容易ニ工事ヲ完了シ成果ヲ修メテ集約的農業經營ヲ爲スニ至リ從來漁業ヲ主トセル島民ノ關心ヲ誘發セルコト不尠其ノ後ノ耕地ノ利用狀況極メテ良好ニシテ島民ノ食糧自給自足ニ資ス處頗ル多シ

四、用排水幹線改良事業

府下葛飾、江戸川兩區ニ跨ル一箇所(昭和七年度ヨリ三箇年度ニ亙ル繼續事業費五萬圓)ニシテ此ノ方面農家多年ノ懸案タリシ事業ヲ完成シ水田一千五百二十七町歩ハ完全ニ用水饑饉ヨリ免レ多大ノ效果ヲ擧ケタリ

一、農村振興上耕地事業ノ將來採ルヘキ指導方針

本府ノ將來ニ於ケル耕地事業ノ指導ハ之ヲ郡部及島嶼ト市部(東京)ニ分チ各地方ノ實情ニ適應スル方針ヲ樹テ其ノ達成ヲ期セムトス即チ郡部及島嶼ニアリテハ大體ニ於テ從來ノ方針ニ依リ新規事業ハ農家數ニ比シ耕地過少ノ向又ハ食糧自給自足ノ趣旨ニ依ルモノ或ハ自作農ノ創設ヲ目的トシテ耕地事業ヲ要件トスル農村ノ堅實ナル計畫ニ對シ郡部ニアリテハ農地ニ關スル設備ノ改良タル道路、用排水路ノ整頓ヲ主要工事トスルモノ及昭和七年度ヨリ毎年度二十町歩乃至三十町歩宛施行セル暗渠排水工事ノ實績良好ナルニ鑑ミ一般農家ノ關心ヲ誘致シ該工事ヲ希望スル向多キヲ以テ之等ノ事業ヲ指導助成シ島嶼ニアリテハ開墾適地頗ル多キモ漸進的ニ開發ノ實ヲ擧クル爲毎年一定面積ノ開墾ヲ施

行セシメムトス殊ニ郡部島嶼ノ町村中經濟更生指定村ノ更生計畫ニ含ム耕地事業ニ關シテハ實施計畫ノ適正ヲ期セシメ綜合的效果ノ増大ニ資セシメルニ努メテ農村振興ノ基本的一要素タル耕地事業ノ合理的指導ヲ全ウシ農家經濟力ノ培養ヲ圖ラムトス

東京市ニアリテハ昭和七年十月隣接五郡ノ全町村ヲ市域ニ編入シタルモ新市域ニハ尙耕地約一萬七千町歩ト農家一萬二千戸アリ畑ハ漸次宅地又ハ工場敷地等ニ變換セラレ市街地化ノ傾向顯著ナルモノアルモ江戸川、葛飾、足立各區ノ地域内ニアル約五千町歩ノ不良田ノ如キ舊態依然トシテ一毛作ヲナスノ外利用ノ途ナク大消費地タル東京市内ニアリ地ノ利不尠ニ拘ハラス何等其ノ惠澤ニ浴スル能ハス一面同地方ニ於ケル現在迄ノ發展狀況ヲ觀察スルニ不良田地帶カ宅地又ハ工場敷地化スルニ至ルヘキ時期ハ頗ル遼遠ト認メラレ尠クトモ今後十年乃至十五年以内ニ實現スル能ハサルヘキニ稽ヘ不良田ノ儘放置スルノ不經濟ヲ免カレシムルト共ニ關係農家ノ疲弊匡救策トシテ之ヲ乾田又ハ畑ニ變換ノ方法ヲ樹ツヘク檢討ヲ加ヘ該地方農家ノ福利増進ニ寄與セムトス

神奈川縣

一、農村振興上耕地事業ノ實績

本縣下ニ於ケル農村ハ世界大戰後ノ經濟不況ノ後ヲ受ケ未曾有ノ震災ヲ蒙リ之カ恢復完カラサルニ旱害、水害等ノ災害引續キ爲ニ極度ノ經濟悲況ニ落入リタルモヨク之ヲ打開シ今日ニ至リタルハ一ニ耕地事業ニ與カリテ力アルハ論ヲ俟タス即チ災害ニ際シテハ復舊ヲ速カニナシ以テ農民生活ヲ安定セシメ又飯米ノ甚シク不足セル農村ニハ開墾事業ヲ起シ之カ對策ヲ施シ用排水幹線改良事業ニヨリテハ旱害ヲ未然ニ防止シ得タル等本事業ノ施設ノ一トシテ農村振興上寄與セサルモノナキヲ見ル

而シテ之等ノ中實績顯著ナルモノヲ掲クレハ次ノ如シ

事業種別	事業地	事業主體
用排水改良事業	足柄上郡 福澤、酒田、吉田島、櫻井、岡本、南足柄村	縣營事業
小開墾事業	足柄上郡清水村	足柄上郡清水村用澤耕地整理組合
二箇年量開墾事業	鎌倉郡戸塚町	鎌倉郡戸塚町戸塚耕地整理組合
時局巨救小開墾事業	高座郡相原村	高座郡相原村相原耕地整理組合
開墾並水田床締事業	愛甲郡高峰、中津、依知村	相模川耕地整理組合
小設備事業(澗池新設)	三浦郡西浦村	三浦郡西浦村長坂荻野耕地整理組合
暗渠排水事業	高座郡六會村	高座郡六會村下土棚耕地整理組合

以上ノ耕地事業ノ内容ニ付キ順次説明セムトス

實績ノ一

一、事業名

酒匂川右岸用水改良事業(文命用水)

本事業ハ農業水利改良事業ニシテ其ノ地域ハ酒匂川右岸ニ沿フ足柄上郡福澤村、酒田村、吉田島村、櫻井村、岡本村及南足柄村ノ六箇村ニ跨ル七百餘町歩ノ耕地ニシテ縣營事業ヲ以テ昭和三年七月起工、同八年三月竣功セルモノナリ

二、事業ノ沿革

酒匂川右岸ニ位スル之等七百餘町歩ノ耕地ハ古來ヨリ酒匂川ニ水源ヲ仰キ穴水門、二ノ水門、根又、武永田、九尺水門、高臺ノ六堰ニヨリ導水シテ灌漑セラレ來リシ而シテ之等ノ堰ハ何レモ蛇籠又ハ手杵等ヲ用ヒテ締切り導水ス

ル幼稚ナルモノニシテ洪水ノ都度破壊又ハ流失セラレ酒匂川本川ノ流身モ亦變動常ナク爲ニ之カ復舊、修理ニ要シタル費用ハ年々八千圓ヲ下ラサリキ而モ灌漑期ニ於ケル取水ハ意ノ如クナラス關係農家ハ塗炭ノ苦シミヲ嘗メツツアリタリ而モ傳統ノ久シキニ慣レテ容易ニ改良ヲ加ヘルコトナク依然トシテ舊套ヲ脱スルコト能ハサリキ然ルニ大正十二年九月偶々關東震災勃發ノ爲全ク荒廢サレ之カ復舊ハ一日モ遷延スルヲ許サレサル状態ニ立チ至リタリ茲ニ於テ本地域關係民ノ之カ復舊、改良ハ急速ニ促進セル處トナリ縣モ之カ救済ハ刻下ノ急務ナルコトヲ認メ各堰ノ復舊工事ヲ計畫、從來ノ六箇堰ヲ合併統一シテ用水幹線改良工事ヲ行フコトトナリタリ

三、事業計畫ノ概要

本事業ハ古來ノ各堰ヲ合併統一シテ復舊修理ニ要スル費用ノ節減ヲ圖リ灌漑期ニ於ケル用水取入不能ノ弊ヲ除去シ又用水組織不完全ナルタメ用水ノ分配適當ニ行ハレスタメニ旱害ヲ被ル等ノ害ヲ除クヲ以テ目的トセリ北足柄村宇内山ニ於ケル富士電力株式會社内山發電所放水路ニ取水口ヲ新設シ取水量最大毎秒二〇・二八五立方米(内灌漑用水量八・五三立方米)ヲ引水シ發電併用水路トシテ酒匂川本川ニ沿ヒ開渠及隧道ヲ開鑿シ福澤村宇遠藤島地先ニ至リ酒匂川ニ放水スルモノニシテ水路延長二千四百六十五米、内開渠一千六百二十一米、隧道七百七十六米、暗渠五十三米、頭首工十五米トス

水路ノ構造ハ全部混泥土卷立トシ開渠ハ上幅最大六・五米、最小五・八米、底幅最大三・二米、最小一・二米、水深三・六米乃至一・四米、水面上ノ餘裕〇・九米、隧道底幅二・七米ノ馬蹄形トシ勾配ハ千五百分ノ一トス取水口ヨリ下流一千百十米ノ地點ニ於テ第一發電所、以下下流九百三十米ノ地點ニ於テ第二發電所ヲ設ケ各低落差ヲ利用シテ一千四百六十キロ及一千三十キロノ發電ヲ行ヒ灌漑計畫トシテ前記第一、第二發電所水路ノ上部ニ於テ各高位部用水路ヲ幹線ヨリ分岐シ直接舊水路ヨリ灌漑シ得サル高位部地域ニ用水ヲ導水セシムルト共ニ幹線用水路ノ舊各堰取水路ヲ横斷スル箇所ニハ新ニ取水口ヲ設ケ必要水量ヲ舊水路ニ分流セシメ最下流タル新設武永田堰ノ取水口ニ於テハ

同堰並舊九尺水門及同高臺水門堰ノ合計水量ヲ分水シ以テ本耕地七百餘町歩ノ灌溉ニ支障ナカラシムルコトトシタリ従前ニ於ケル地域内狀況ハ事業沿革ノ項ニ於テ述ヘタルカ如クニシテ事業完成後ニ於テハ從來ノ用水系統ノ一大變革ニシテ今昔ノ感アリ洪水時並常時ノ災害ハ除去サレ農産物ノ増殖ニ寄與スルコト亦大ナリ之等關係耕地ハ全ク面目ヲ一新セリ

四、事業年次別並其ノ実績

昭和三年度ヨリ同八年度ニ至ル六箇年繼續事業トシ本事業ノ完成ヲ見タリ其ノ実績ハ各年次別ニ詳述シ得サリシモ本事業完成後八年々八千餘圓ノ用水費ヲ節減シ得ラレ潤澤ナル水量ヲ灌溉シ居レリ

五、事業ニ要シタル費用並其ノ區分

五十六萬八千圓

事業費

頭首工費	一箇所	一六、〇三〇圓
暗渠費	三箇所	二六、二〇五圓
隧道費	七七六米	一二三、一四七圓
明渠費	一、六二二米	一五七、一六三圓
分水工費	六箇所	五、六一三圓
架橋費	三箇所	一、一九七圓
橋梁費	八箇所	五、一七八圓
道路付替費	二九〇米	二、二〇〇圓
高位部灌溉水路費	一一、一五〇米	一五、〇七五圓

連絡水路費

一、一〇〇米

三四、五四三圓

附帯工事費、用地買收補償費、事務費、其ノ他

一八一、六四九圓

六、事業ニ關スル財務狀況

負擔區分其ノ金額左表ノ如シ

事業費	國庫補助	縣費	會社	地	元
五六八、〇〇〇圓	八二、六六五圓	五七、五一三圓	四一一、八〇〇圓		一六、〇二二圓

七、事業効果

本事業施行前ハ反當用水費一圓ヲ要セシカ施行後ハ十分ノ一ニ減シ反當十錢トナリ著シク農民ノ負擔ヲ輕減シ引イテハ農村經濟ニ好影響ヲ與ヘタルヲ見ル尙取水工事ノ完成ト共ニ用水ハ圓滑トナリ昭和八年ノ旱害ニモ之ヲ完全ニ防止スルヲ得タリ

八、其ノ他事業ニ關シ特記スヘキ事項

該當ナシ

実績ノ二

一、事業名

事業種別	小開墾事業
事業地	足柄上郡清水村湯觸、河内川
事業主體	足柄上郡清水村用澤耕地整理組合

神奈川県

二、事業ノ沿革

本村ハ地勢上耕地ニ乏シク一箇年ノ米ノ生産量ハ僅々四箇月ノ糧ヲ支フルニ足ラサル現況ニシテ耕地ノ擴張ニハ各種ノ手段ヲ講シテ其ノ開發ニ努メツツアリシニ大正十二年ノ大震災ハ無情ニモ殆ト之等ノ耕地ヲ荒廢地ニ歸セシメ住民ハ爲ニ唯一ノ生活資源ヲ奪ハレ疲弊困憊其ノ極ニ達シ將ニ破産離郷者ヲ見ムトスルニ至レリ
土地ノ篤農家現組合長山崎喜一郎大ニ之ヲ憂ヘ村長池田勘太郎ト相謀リ部落全員四十九名ヲ叫合シ自ラ謀主トナリ耕地ノ復舊擴張ヲ企圖ス仍テ昭和四年十月河内川ノ一部ニ公有水面埋立ノ免許ヲ得荒廢セル舊耕地ヲ併セテ昭和五年十一月頭書組合ヲ設立ス

爾來組合長山崎喜一郎日夜寢食ヲ忘レ東奔西走事業ノ進捗ニ没頭シ組員亦協心戮力各其ノ勞務ニ服シ遂ニ昭和九年八月全工事ヲ完成スルニ至レリ

三、事業計畫ノ概要

本事業ハ清水村大字湯觸字用澤地先河内川ノ一部埋立(公有水面埋立)ト之ニ隣接荒廢セル舊田ノ復舊ヲ計リ之ヲ一九トシ河内川ニ面シテハ堅牢ナル堤塘ヲ築造シ其ノ内部五町歩ヲ開田シ適當ノ道水路ヲ設置シ灌漑排水及一般交通ニ至大ノ便ヲ與ヘタリ

荒廢地及河原變シテ今ヤ美田ト化シ耕地事業ノ効果ノ大ナル山間僻地ニ至ルマテ徹底スルニ至レリ

四、事業年次別並其ノ實績

昭和七年	度	一〇%
昭和八年	度	五〇%
昭和九年	度	四〇%

五、事業ニ要シタル費用並其ノ區分

費目	金額	借入金	縣補助金	地元負擔金
工事費	四六、七九二・〇〇	一、一、〇〇〇	二、三、〇〇〇	一五、七九二
事務費	三、〇〇〇・〇〇			
計	四九、七九二・〇〇	一、一、〇〇〇	二、三、〇〇〇	一五、七九二

六、事業ニ關スル財務ノ狀況

事業費ハ次表ニ依ル借入金ノ外縣補助金二萬三千圓、殘額ヲ組員ヨリ徵收シ以テ之ニ充當ス

借入先	借入金	利率	償還済元金	殘元金
農工銀行	一一、〇〇〇	三分九厘	四〇二	一〇、五九八

七、事業ノ効果

本事業地初年度ノ米收量ハ一反步二石内外ナリシモ順次收量ヲ増シ本年(第三年目)ハ優ニ平均三石ノ收穫ヲ得タリ現今農山村民カ耕地ヲ放棄シテ都會ニ集中スル時世ニモ不拘美田成リ稻稔ル開田ノ成果ハ清水村民ヲシテ耕地ヘノ愛着心ヲ大ナラシメ精神的經濟的ニ好影響ヲ齎シ農村更生ハ耕地ノ改良開發ノ最適切ナルヲ特ニ痛感シタルハ耕地事業ノ發展上誠ニ慶賀ノ至リナリ

實績ノ三

一、事業名

神奈川縣

事業ノ種類

二年量開墾事業

事業ノ地

鎌倉郡戸塚町戸塚地内

事業主體

鎌倉郡戸塚町戸塚耕地整理組合

施行地積

七町餘歩

組合員數

十名

工事着手

昭和七年十一月二十五日

工事完了年月日

同 十年 三月三十一日

二、事業ノ沿革

本地區附近一帶ハ畑地ニ乏シク普通作物ハ地區外ヨリ供給セラレ居ルノ狀況ニシテ農家ノ不便不勘故ニ其ノ對策トシテ附近ノ山林ヲ開墾スル計畫ヲ樹テ二年量開墾事業トシテ之カ遂行ヲ見ルニ至レリ

(一) 組合長ノ功勞

斯ノ如ク地元永年ノ宿望ヲ遂ケ自力更生ノ緒ニツク事ヲ得タルハ組合員一同ノ一致協力ニ依ルコトハ勿論ナリト雖殊ニ組合長竹生田七郎兵衛ハ多年公共事業ニ力ヲ盡シ各方面ニ顯著ナル功績ヲ擧ケ稀ニ見ル人格者トシテ信望アリ近來農村未嘗有ノ疲弊ヲ來シ窮乏困憊其ノ極ニ達シ農家ノ非常時トシテ危急ヲ叫ケヒタルニ際シ之カ打開策ハ耕地ノ擴張改良ニ如クモノナシト卒先シテ不良耕地ノ改良、山林原野ノ開發事業ヲ企圖シ耕地整理組合ヲ組織シテ自ら組合長トナリ關係者ヲ督勵シテ熱誠以テ之カ遂行ニ邁進シ所期ノ目的ヲ達成シ大イニ土地ノ利用増進ヲ圖リ以テ死線ニ彷彿セル民心ヲ收メ生活ノ安定ニ盡瘁ノ結果窮乏農村モ漸次甦リ更生ヨリ振興ニ部落ヲ擧ケテ農事ニ勵シミツツアルハ眞ニ同氏ノ獻身ノ努力ノ賜物トシテ特筆スヘキ功績ナリトス

三、事業計畫ノ概要

本地區ハ豪帳地積五町二反餘歩ノ山林開墾事業ニシテ計畫ニ當リ先ツ地區外ヨリ連絡セル幹線道トシテ地區ノ稍中

央ニ上幅三・六米ノ道路ヲ配置シ之ヨリ支線道トシ上幅二・七米又ハ一・八米道ヲ適所ニ配置セシメ山林ハ傾斜起伏一様ナラサルヲ以テ箇所ニ依リ最少經費ヲ以テ効果ヲ最大ナララシムル様整地計畫ヲ樹立ス故ニ工事施行後ノ一筆地積ハ大小一様ナラサルモノトス

四、事業年次別並其ノ實績

第一年度 昭和八年度
第二年度 昭和九年度

開墾地ナルモ地味頗ル肥沃ナルヲ以テ開墾當初ヨリ各種作物ノ栽培ニ適シ收量ニ於テモ殆ト既成畑地ニ劣ラサル收穫ヲ收メツツアリ今之カ反當收量ノ概要ヲ示セハ次ノ如シ

小 麥 一石四斗

甘 藷 四百十貫

五、事業ニ要シタル費用並其ノ區分

事業費總額 五千七百九十八圓

内 譯

工 事 費 五千三百八圓

事 務 費 四百九十圓

六、事業ニ關スル財務狀況

(一) 負擔區分 補助率 五割五分

(二) 補助金 地元負擔 四割五分

(三) 借入金 二千八百二十四圓八十錢
二千九百七十三圓二十錢 (昭和二十三年度迄ニ完納ノ見込)

七、事業ノ効果

事業終了後ハ面目ヲ一新シ完全ナル理想畑地ト化シ作物ノ品質良好ニシテ其ノ收量モ亦豫期以上ヲ收メ畑地少ナキ部落トシテ其ノ効果ハ窮乏セル農村更生上資スルトコロ甚大ナル實績ニカヲ得テ農事ニ精勵シ徐々ニ經濟回復シツツアリ近時之カ利用ハ日ヲ追テ集約的トナリ殊ニ會社ト結託海外輸出ノ百合ヲ栽培シタルニ相當ナル收益ヲ擧ケ漸次之カ普及發達ヲ見ル狀勢ナリ又公租公課モ著シキ成績ヲ擧ケツツアリ

八、其ノ他事業ニ關シ特記スヘキ事項
ナシ

實績ノ四

一、事業ノ名

事業ノ種別

事業ノ地

事業ノ主體

二、事業ノ沿革

(一) 事業ノ動機

時局匡救事業小開墾事業〔地目變換(開田)四町步〕
高座郡相原村相原田通
高座郡相原村相原耕地整理組合
本村ハ舊來ヨリ水田皆無ニシテ養蠶業ヲ主トシテ生計ヲ營メルモ數年來ノ繭價ノ暴落ニ農家經濟ニ一大恐慌ヲ來シ飯米ノ購入サヘ不能ノ者續出シ辛フシテ政府米ノ拂下ヲ受ケ糊口ヲ塗ス悲惨ナル狀態トナレリ之カ對策トシテ一部農民中ニ過剩畑地ノ利用ニ依リ飯米ノ自給自足計畫遂行ノ要アルヲ痛感シ關係者ノ説得ニ努メツツアリシトコロ遇々縣當局ノ勸奨ト助成ニ依リ桑園ヲ整理シ開田事業ヲ發起シ急速ニ實施スルコトトナレリ

(二) 創業以來ノ經過並之カ功勞者

昭和七年十二月十五日組合設立認可指令ヲ受ケ同年十二月十六日工事ニ着手翌年五月一日工事完了セリ其ノ間僅ニ五箇月餘ニシテ竣功ヲ見タルハ監督官廳ノ指導ト組合役職員並組合員一同不眠不休一致和協以テ今日ノ成功ヲ見ルニ至リタルモノナリ

三、事業計畫ノ概要

地區西部三百四十間ヲ距ル境川ニ可動堰ヲ新設シ併セテ同延長ノ導水路ヲ新設シ開田スルモノニシテ地區内ハ排水ヲ十分良好ナラシムル爲四圍ニ水路ヲ設ケ用水路トシテハ地區内ヲ縱斷スル用水幹線ヲ設ケ之ニ小溝ヲ配セリ而シテ區劃ハ長方形狀トナシ地積最大一反步、最小五畝步割トシ之ニ伴フ道路ノ新設改良ヲ行フモノトス尙本地区ハ用水節約ト水温保持ノ爲地表ヨリ「トラクター」牽引ニヨル「ローラー」ヲ以テ床締ヲ行ヒ極メテ好成績ヲ擧ケタリ

四、事業年次別並其ノ實績

昭和七年一分 昭和八年九分

五、事業ニ要シタル費用並其ノ區分

四千五百六十圓五十九錢

内訳

工事費	三、八〇〇・〇〇
事務費	四六〇・五九
補償費	二五〇・〇〇
土地買收費	五〇〇・〇〇

六、事業ニ關スル財務狀況

神奈川縣

四千五百六十圓五十九錢

內 譯

補助金

二、六〇三・七九

賦課金

一、九五三・六〇

雜收入

三・二〇

七、事業ノ効果

昭和八年ノ大旱魃ニ遭遇セルモ開田工事ノ際機械力ニヨル床締ヲナシタル結果用水潤澤ニシテ爲ニ旱害ヲ免レ稻ノ生育極メテ良好ニシテ新開田ナルニモ不拘反當平均二石五斗ノ收量ヲ見タリ翌昭和九年及昭和十年孰レモ初年度ニ劣ラサル收量ヲ得尙裏作トシテ大麥、小麥等ヲ栽培シ大麥二石五斗、小麥一石六斗ノ反當平均收量ヲ得タリ

以上ノ如キ好結果ヲ見ルニ至リタル爲設立當時ハ生計ニモ差支ヘ公租、公課等滯納者多キ状態ニ在リシモ現今飯米ノ自給自足ハ勿論産米一部ノ賣却サヘ可能トナリ著シク經濟更生シ公租、公課等ノ納入モ亦極メテ良好トナリ本村内ニ於テ唯一ノ水田ヲ有スル模範部落トナレリ

尙整理前桑園一反步當地價二百圓内外ナリシモ整理後ノ水田一反步當地價五百圓以上トナリ三百圓以上ノ騰貴ヲ來シタルニ不拘購入希望者ハ相當多數アルモ之ヲ賣却希望者一人モ無キ現狀ナリト言フ

實績ノ五

一、事業ノ名

事業ノ種別

開墾並水田床締事業

事業ノ地

愛甲郡厚木町ノ西北方約十軒ノ地點ニ位シ相模川ノ右岸ニ沿フ高峰、中津、依知ノ

三箇村ニ跨ル相模川沿岸ナリ

事業主體

相模川耕地整理組合

二、事業ノ沿革

前記關係村内ニハ水田極メテ尠ク農民ニシテ飯米ノ大部分ヲ購入スル状態ナリシヲ以テ當時ノ組合長故中村文造氏ハ現組合長原鹿之助(當時組合副長)ト相謀リ飯米增收ノ目的ヲ以テ相模川沿岸ノ荒蕪地六十餘町歩ノ開田計畫ヲ樹テ土地關係者ヲ説得シ大正十二年三月二十七日組合設立認可ヲ得尙大正十三年九月十八日開墾助成法ニ依ル助成指令ヲ得工事ハ大正十二年八月二十五日ニ開始シ昭和四年八月三十一日豫定ノ工事ヲ完了セリ

三、事業計畫ノ概要

(一) 事業施行ノ目的

相模川ヨリ灌溉水ヲ引水シ畑、山林、荒蕪地ノ開田ヲ行フモノナリ

(二) 工事施行前後ノ土地ノ地目別合計

地目	工事施行前面積		擴張豫定面積		工事施行後確定面積
	臺帳面積	實測面積	開田	畑	
宅地	一・四三〇	一・四三〇	—	—	五九・三三八
山	三三・一八一	三三・二〇三	—	—	三・六三三
原	〇・〇三三	〇・〇三三	—	—	二・四四七
民	三三・〇三三	三三・九〇九	—	—	二・四四七
有	一六・四〇八	一五・二四三	—	—	九・四一八
水	〇・〇一〇	〇・〇一〇	—	—	〇・一八三
路	—	—	—	—	〇・六二七
池沼	—	—	—	—	—

道	水路	川	堤	合
計	計	計	計	計
路	路	數	塘	計
七〇・〇一五	二・六四八	一・三三四	一〇・四九六	八四・五三三
七九・五二二			一一・四九六	九一・〇一八
五・八四三			五・〇〇〇	一〇・八四三
三・九〇九			一・〇三三	五・〇〇〇
四・〇九〇			一・八三九	五・九二九
五・七〇六			三・一〇一	九・八〇七

八、工事ノ計畫説明

本地区ノ用水源ハ相模川ノ右岸津久井郡湘南村地先俗稱一ノ釜ト稱スル淵ヨリ取水シ隧道三百四十七間ヲ掘鑿ス隧道出口ヨリ百三十間餘ハ掘削工トナシ兩岸玉石積ノ護岸ヲ施シ地區内ニ導水シ更ニ中津村六ツ倉下地先ニ第二隧道百九十間餘ヲ開鑿シ中津村ヨリ依知村地區ニ導水ス又相模川沿岸ニハ堤塘ヲ設ケ洪水ヲ防止シ堤外ニハ平均幅十間ノ山林ヲ造リ堤塘ノ保護林トセリ

右計畫ニ基キ工事ヲ進メタルモ大正十二年九月ノ大震災ニ遭遇シ工事施行部分破壊シ施行地ノ地盤ニ大異動ヲ來タシ就中主要工事タル隧道内ノ岩盤ニ龜裂ヲ生シ一部崩壊セル等工事進捗上多大ノ支障ヲ來シ支保工及混泥土卷立ヲ要スルニ至レリ同水源ノ水位低下ノタメ更ニ掘下工事ヲ行ヒ一方各種震災復舊土木事業ノ勃興ニ伴ヒ人夫賃昂騰シ或ハ諸材料ノ價格騰貴シ直接、間接ニ甚大ナル支障ヲ來シ設計書ノ變更ヲ行フコト五回ニシテ事業第七年度ヲ以テ漸ク初期ノ目的ヲ達成スルコトヲ得タリ

四、事業年次別並其ノ實績

工種	第一年度	第二年度	第三年度	第四年度	第五年度	第六年度	第七年度
道路		五分	一割五分	七分	一割	二割七分	六分
堤塘		八割八分	六分	一割一分	二割三分	一割八分	六分
橋梁		四割一分	七分	一割一分	二割三分	一割八分	六分
水路		七割四分	二割四分	一分	六厘	三厘	一厘
開田		110・2000	11・000	11・000	11・000	11・000	11・000
開畑			11・000	11・000	11・000	11・000	11・000
植林			全部				
護岸		六割六分	三割四分				
暗渠		九割六分	三分		一分		
掛樋		九割九分	一分				
井堰			全部				
伏越			全部				
餘水吐			全部				
工事手直			全部	一割八分	一割五分	五分	六割三分

五、事業ニ要シタル費用並其ノ區分

事業費總額

三十萬五千九百四十六圓八十錢

神奈川縣

科目	支出額	科目	支出額
工事費	二六八、八九一・七三	水門費	二、二八一・〇六
道路費	一七、八七〇・五八	井堰費	五三七・二七
堤塘費	一〇、〇四六・三四	伏越費	五五〇・〇〇
橋梁費	九、八七五・三六	餘水吐費	四八〇・四四
水路費	一一五、三六五・七九	工事手直費	一、七六八・〇四
開田費	七七、八三一・六六	雜務費	三、四三四・五八
開畑費	一、四二九・〇八	事務費	二六、二七五・一二
植林費	三〇二・六〇	補償費	六、六七九・九五
護岸費	二三、八八四・〇五	建物買收費	二、〇〇〇・〇〇
暗渠費	三、一四〇・四八	創業費	二、一〇〇・〇〇
掛樋費	九四・四〇	計	三〇五、九四六・八〇

六、事業ニ關スル財務狀況

(一) 借入金明細書 (昭和十年八月三十一日現在)

借入年月日	借入先	借入金	資金種別	利率	一箇年ノ賦金	借入現在高
昭和七年九月	日本勸業銀行	一、二八〇、〇〇	預金部	四分七厘	一、〇六五、〇〇	一〇、四七一・九一

昭和九年一月廿二日	同	同	同	同	同	同
計	同	同	同	同	同	同
	五、五〇〇、〇〇	同	四分八厘	五八、五九	五、一〇八、〇〇	
	七、一五〇、〇〇	同	四分八厘	五、六二、九	七、〇一五、〇〇	
	五〇、二五〇、〇〇	同	四分七厘	三、九三、〇六	五〇、一五〇、〇〇	
	一、三〇、〇〇〇	同		一、一三〇、〇〇	一、七九八、〇八	

(二) 組合費ハ現品徴收(玄米)ニ依ルヲ以テ年々滞納ナク成績良好ナリ
七、事業ノ効果

(一) 自作農ノ場合ニ於ケル年々ノ利益

整理前ノ總純益	一、八〇四・〇〇圓
整理後ノ總純益	一五、六五七・八八圓
利益増進	一三、八五三・八八圓

(二) 土地價額ノ増進

整理前ノ價額	一〇九、九二〇・〇〇圓
整理後ノ價額	四一八、五二九・〇〇圓
利益ノ増進	三〇八、六〇九・〇〇圓

附記 本事業施行ノ結果兩年々玄米一千五百石、大小麥及菜種子百五十石以上ノ收穫ヲ得テ關係農民ハ殆ト自給自足シ得ルコトナレリ

由來當地方ノ農家ハ養蠶ヲ主業トシ飯米ヲ購入シツツアリタルニ數年來繭價暴落ニ遭遇シ一般農民ハ飯米ノ購入ニ困難セルニモ拘ラス本地區ノ關係者ハ其ノ事ナク事業施行ニ據ル効果ヲ感謝シ居ル實狀ニシテ村税金ノ如

キモ滞納者等殆トナク之カ村經濟ニ及ホシタル利益モ亦尠カラス
八、水田床締事業

本地區ハ河原同様ノ荒廢地ヲ開拓シ水田トナシタルモ用水量ヲ多量ニ要シ維持管理容易ナラサルノミナラス收穫ニ於テモ尙遺憾ノ點アルヲ以テ現組合長ハ之カ對策トシテ縣當局ニ床締事業施行方ヲ歎願シ其ノ指導ヲ受ケ昭和十年六月農林省ヨリ「トラクター」ヲ借用シ試験地トシテ七町二反歩餘ヲ床締セリ然シテ半歲ニ亘ル試験ノ結果成績極メテ良好ニシテ用水量平均四割餘ヲ減シ管理ノ勞費モ節減セラレ收量ハ平均一割餘ノ増收ヲ見タリ
尙昭和十一年四月ヨリ五月ニ亘リ十五町七反歩餘ノ床締ヲ行ヒ之亦前年度ニ劣ラサル成績ヲ擧ケ殘餘ノ三十七町二反歩ノ床締モ昭和十一年度中ニ施行ノ豫定ナリ
昭和十年度ニ於ケル床締成績ノ概略ヲ示セハ次ノ如シ

(一) 床締ニ使用セル器具機械

名	稱	重量	用途	摘	要
牽曳機	(ガソリン機關無限軌道二十五馬力)	六八〇 ^キ	牽曳動力	農林省ヨリ借用	
ロ	イ	七五〇	轉壓用	同	
デ	ス	二〇〇	起耕碎土用	同	

(二) 平均一日ノ作業効程ヲ種別毎ニ示セハ次ノ如シ

(イ) 轉壓(六回締)ノミノ場合

六反一畝七步

(ロ) ハロー(三回掛)ノミノ場合

一町四反二十二步

(ハ) 轉壓ハロー掛併用ノ場合

四反二畝二十步

(三) 平均實働一時間ノ作業効程

(イ) 轉壓ノミノ場合

八畝二十七步

(ロ) ハロー掛ノミノ場合

二反十四步

(四) 經費

反當床締費

床締施行面積	床締總經費	反當床締費
七・二八〇 ^町 六	一七八・五四 ^町	二・四五 ^町

床締施行後ニ於ケル用水遞減狀況ヲ調査セル全區域ノ用水減少狀況トヲ綜合考察セルニ從來ニ比シ尠ク共五乃至六割ノ用水量ニテ足ル成績ヲ示シ用水節約上ノ効果ハ極メテ良好トナリタリ

水溫並地溫ノ關係

床締セル區カ床締セサル區ニ比シ水溫、地溫ニ於テ平均(攝氏)一度乃至二度上昇セリ

植付後發育狀況

一株ノ平均分蘗數

床締シタル區

二十二本

床締セサル區

十五本

收量

神奈川県

一反歩ノ玄米量
 床締シタル區 二石二斗七合
 床締セサル區 一石九斗三升七合
 増 收 二斗七升

而シテ昭和十年度ニ於ケル本地方稻作期間ノ氣象關係ハ八月上旬迄ハ成育ニ適當ナリシモ其ノ後穂孕時期ヨリ成熟期ニ至ル間雨多ク温度下リ之カ影響ヲ受ケ一般的ニハ約一割ノ減收ヲ示セルモノニシテ即チ本床締試験地全般ノ稻作成育狀況モ穂孕時期迄ハ床締ノ効果顯著トナリ草丈モ分蘗數モ著シキ差ヲ生シタルモ其ノ後天候ノ影響ヲ受ケ用水激減ノタメ肥料分ノ全部ヲ吸收シ得スシテ前表ニ示セルカ如キ結果ヲ生シタルモノト思料セララルヲ以テ將來施肥ノ方法ヲ考慮セハ本記録ヨリ尙以上ノ成績ヲ擧ケ得ルモノト信ス

九、特筆スヘキ事項

本組合ノ事業ハ他ノ耕地事業者ノ模範タルヘキモノアリ
 依テ神奈川縣耕地協會規定ニヨリ賞狀及賞品ヲ下付シタリ

実績ノ六

一、事業名	小設備事業(溜池ノ新設)
事業ノ種類	三浦郡西浦村長坂荻野地内
事業地	三浦郡西浦村長坂荻野耕地整理組合
事業主體	
施行地積	四十一町餘歩
組合員數	百三十一名

工事着手年月日

昭和九年三月二日

工事完了年月日

同十年十二月二十九日

二、事業ノ沿革

本地区ハ關係地積四十一町餘歩ニ亘ル水田ナレト完全ナル用水源無ク纒ノ溪流ト天水ヲ利用スルニ過キサリシヲ以テ秋收ヲ減スルコト恒ナリキ之カ對策トシテ溜池ヲ新設スルニ至レリ

三、事業計畫ノ概要

本地区ハ上流ニ七十町歩ノ山林ノ集水區域ヲ有スルヲ以テ旱天日數相當連續スルモ尙十二町歩ノ灌溉水ヲ流下シ得ル見込ヲ以テ總地積田四十一町五反歩ノ内二十九町五反歩ヲ溜池灌溉ニ依ルモノトシテ用水ノ補給計畫ヲ行フ其ノ溜池ハ地區最上流ニ新設シ總地積一町一反餘歩ナリ此ノ貯水量三萬七千七百四十粒ニシテ反當リ百二十八粒餘ナリ又之カ貯水ノ配給ニ當リテハ混凝土斜樋ヲ設ケ用水配給ヲ調節スルノ構造トシ又餘水吐ハ降雨時ニ餘水ヲ溢流セシムルニ安全ナル斷面ヲ與ヘ鐵筋混凝土造トセリ

以上工事施行後ハ旱天時ニ際スル不安ヲ一掃シ其ノ效果顯著ナルモノアリ

四、事業年次別並其ノ実績

昭和九年度

本地区ハ昭和八年度ノ大旱魃ニ際シテハ地區内平均收量ヲ半減スル大被害ヲ蒙レリ而ルニ其ノ後ノ旱魃ニ際シテハ何等被害ナク一方地元民ノ旱魃ニ對スル不安ヲ一掃シ尙後何如ナル大旱魃ニ際會スルモ用水潤澤ニシテ絶體安全ナルノ確信ヲ得組合員一同歡喜セリ事業ハ昭和九年度ニ於テ全部完了セリ

五、事業ニ要シタル費用並其ノ區分

事業費總額

一萬五千七百圓

工 事 費 一四、五九七圓
事 務 費 一、一三〇圓

六、事業ニ對スル財務狀況

負擔區分

補助率 六割五分
地元負擔 三割五分

徵收成績

三、一八六圓

補助金

七、五四〇圓

借入金

四、〇〇〇圓

七、事業ノ効果

昭和十一年度内ニ完納ノ見込ナリ

施行後ハ旱魃ニ對スル憂ハ全ク一掃サレ水源設備ノ完成ハ豊富ナル用水ノ供給ヲ得テ完全ニ被害ヲ防止スル事ヲ得
タリ永年ノ希望完成スルモ其ノ實績ノ偉大ナル事業ニ感激セル農民ノ聲ハ更生途上ニ活動スル一端ノ原動力ノ一助
トナレルハ過言ナラスト信スルモノナリ

然シテ多年旱魃毎ニ受難ノ爲他ノ部落ニ比シ疲弊著シキモノアリシカ高率ノ助成ヲ得テ本事業ノ完成ヲ見安心シテ
各々業務ニ服シツツアル有様ナレハ漸次經濟更生ヲ見ルニ至ルハ明ナルヘク現ニ個人經濟ニ好影響ヲ及ホシタル結
果施行前ニ比シ公租公課ニ於テ著シキ好成绩ヲ舉ケツツアリ
實績ノ七

一、事業ノ名

事業種別 土地ノ交換分合、區劃形質ノ變更、道路、畦畔、溝渠ノ變更廢置及暗渠排水
事業地 高座郡六會村下土棚

事業主體

高座郡六會村下土棚耕地整理組合

二、事業ノ沿革

(一) 事業ノ動機

本地區ハ往時ヨリ十數尺ノ竿ヲ洩スル極惡濕田ニシテ湧水多ク四季常ニ惡水ヲ停ヘ二毛作ハ勿論不能ニシテ稻作
ト雖冷濕害ニ依リ米質劣等加之反當收量最高二石ニシテ且田植及刈取ニハ船ニヨルタメニ勞力ノ徒費不尠耕作
ハ徒ニ塗炭ノ苦ヲ嘗メツツアリシニ恰モ其ノ筋ノ勸奨ニ依リ之カ根本的改良ヲ施行スルコトトナレリ

(二) 創業以來ノ經過並之カ功勞者

昭和八年八月十九日組合設立認可指令ヲ取ケ同年十一月二十日工事ニ着手シ翌九年三月三十一日工事完了セリ
斯ノ如キ短期間ニ事業進捗シタルハ組合長矢地要吉ノ獻身の盡力ハ勿論組合員一致協力能ク各々其ノ本分ヲ全フ
シタル結果ニ外ナラス氏ハ夙ニ本耕地ノ改良ハ暗渠排水ヲ施行スルヲ最適切ナルニ着目シ衆ヲ説キ卒先シテ晝夜
奔走組合設立ヲ圖リ自ラ組合長ニ選レルヤ犠牲的精神ヲ以テ役員ヲ督勵シ不眠不休工事ノ進捗ニ努メ其ノ費用負
擔困難ナル組合員ニ對シテハ無條件之ヲ立替ヘル等肉身モ及ハサル熱情ヲ以テシテ組合費徵收ノ萬全ヲ期シ
又自己ノ報酬等一切辭退シ組合費ノ輕減ヲ計リ遂ニ初期ノ目的ヲ達成セリ

三、事業計畫ノ大要

地區内ノ地下水ヲ排除スル爲暗渠排水ヲ施行スルト共ニ區劃ヲ變更シ道路、溝渠ノ變更廢置ヲ行ヒ土地ノ交換分合
ヲナシ耕地改良上最善ノ方法ヲ實施シタリ

四、事業年次別並其ノ實績

昭和八年度全部

五、事業ニ要シタル費用並其ノ區分

一萬三千三百七十四圓九十錢

内 譯

工 事 費

一〇、六七〇・〇〇圓

事務費其ノ他

二、七〇四・九〇圓

六、事業ニ關スル財務狀況

一萬三千三百七十四圓九十錢

内 譯

賦 課 金

五、七七五・二二圓

補 助 金

四、六三五・〇〇圓

雜 收 入

七五・九九圓

換地清算差額徴收金

二、八八八・六九圓

七、事業ノ効果

工事完了シタル昭和九年ニ於ケル米收量ハ天候不順ニモ不拘下田ニ於テ反當一石二斗ノ增收ヲ最高トシ平均七斗ノ增收ヲ得翌昭和十年ニ於テハ反當平均增收八斗ニ及ヒ裏作トシテ麥、藁苜ヲ栽培シ平均反當收量麥一石七斗、藁苜二石五斗ノ好成绩ニシテ此ノ外勞力ノ節減著シク尙綠肥ノ栽培ニ依リ金肥ノ節約ヲ圖ル等効果絶大ナリ尙道水路ノ新設改良ニ依リ交通、運搬及用排水ノ管理極メテ良好ニシテ理想耕地トナレリ依テ整理前反當五百圓ノ地價モ一躍七百圓トナリ組合員經濟更生ニ及ホシタル利益大ナリトス

今其ノ一例ヲ述フレハ整理前組合員ノ一部中ニハ公租、公課等滞納者アリタルモ整理後ハ增收ニ依リ之ヲ完納シ現在滞納者皆無ノ好結果ヲ見ルニ至レリ

八、其ノ他事業ニ關シ特記スヘキ事項

(一) 昭和十一年三月二十八日日本縣耕地協會ヨリ優良組合ノ故ヲ以テ表彰セラレ三ツ組銀盃ヲ受ク

(二) 縣下ニ於ケル模範暗渠排水施行地區トシテ縣内外ヨリノ視察者絶ヘス斯業ノ爲貢獻スルトコロ甚大ナリ

(三) 昭和十一年四月十八日組合事業ヲ六會村ニ引繼キ近日解散ノ見込

一、農村振興上耕地事業ノ將來採ルヘキ指導方針

耕地事業ハ土地ノ農業上ノ利用ヲ増進シ農村ニ於ケル餘剩勞力ヲ生産化セシムルノミナラス農業經營ヲ合理化セシムル等農村振興上現下ノ時局ニ際シ極テ有効適切ノ事項ナリトス依テ本縣ノ實情ニ鑑ミ耕地事業中特ニ左記各項ノ指導獎勵ニ努メ之カ實現ヲ期セムトスルノ方針ナリ

一、耕地擴張事業ヲ獎勵スルコト

本縣ニ於ケル農家一戸當耕作面積ハ田二反八畝歩、畑六反一畝歩、合計八反九畝歩ニシテ之ヲ全國各府縣ノ平均ニ比スレハ相當ノ間隔アルノミナラス殊ニ田ノ面積ハ著シク過少ナリトス依テ將來ハ一層耕地ノ擴張事業ヲ獎勵シ以テ耕作地ノ不足ヲ緩和スルニ努ムルト共ニ特ニ養蠶農村及山村ニ於ケル食糧ノ自給ヲ圖リ又農業經營ヲ改善シテ生活ノ安定ニ資セシメムトス

二、暗渠排水事業ノ獎勵普及ヲ圖ルコト

本縣ニ於ケル田面積二萬一千餘町步中其ノ約八割ニ相當スル一萬六千餘町步ハ濕田ニシテ一毛作ナリトス是等ハ何レモ暗渠排水ノ施行ヲ必要トスルモノニシテ然カモ近時本事業ノ効果ハ極メテ顯著ニシテ農村振興上最有効、適切ナル事業ナルコトヲ漸次地方民ニ認識セララルニ至リタルヲ以テ將來ハ一層之カ普及發達ニ努力セムトス

三、用排水幹線改良事業ヲ促進スルコト

本縣ニ於ケル受益面積五百町步以上ノ圃地ニシテ用排水幹線改良補助事業ニ該當スルモノハ目下計畫中ノモノ及今

後計畫スヘキ見込地區ヲ併セ合計十二箇所ニシテ其ノ關係面積ハ總計一萬三千六百餘町步、事業費見込額ハ二百九十餘萬圓ヲ算セリ而シテ是等ハ何レモ年々莫大ナル被害ヲ與ヘ其ノ農業經營ヲ不安ナラシメツアルモノナルヲ以テ可及的速ニ之カ實施計畫ヲ樹立スルト共ニ事業ノ促進ニ努力セムトス

四、田ノ床締作業ヲ獎勵スルコト

本縣ノ田面積中土質不良ニシテ用水ノ損失一日平均二寸以上ヲ要スルモノ約五千町步アリ是等ニ對シテハ將來床締ヲ勵行シ其ノ保水力ヲ良好ナラシムルト共ニ用水ノ節約ヲ圖リ又農業收益ノ増加ト冷害旱害等ニ依ル被害ヲ除切スルニ努メムトス

五、災害防止其ノ他應急耕地事業ノ促進ニ努ムルコト

耕作道路、小用排水、小設備等ノ事業ヲ促進シテ現在農耕地ノ缺陷ヲ補ヒ各種災害ヲ未然ニ防止スルト共ニ農民ニ勞銀ヲ與ヘテ農村經濟ノ緩和ヲ計ルハ農村振興上極メテ有効適切ニシテ之ヲ曩ニ施行シタル時局匡救事業ノ實績ニ見ルモ自ラ明ナリ而シテ本縣ニ於ケル此種事業ノ施行箇所ハ極メテ多數ニシテ地方農民ノ要望モ亦甚ク切ナルモノアルモ之カ施行ニ要スル事業費ハ頗ル莫大ニシテ到底縣又ハ地方農民ノ自力ノミニ依リテ之ヲ遂行スルハ困難ナルモノアルヲ以テ本事業ノ施行ニ對シテハ相當高率ノ國庫ノ補助ヲ仰キ繼續事業トシテ之カ促進ヲ期セムトス

新潟縣

一、農村振興上耕地事業ノ實績

其ノ一

一、事業名

縣營味方郷用排水改良事業

味方郷耕地整理組合事業

縣營味方郷用排水改良事業區域ハ西蒲原郡味方村外五箇村ニ亘ル一團地ニシテ其ノ總地積二千八百四十八町步、内田二千二百六十二町步、用水ヲ中之口川ニ求メ惡水ヲ新川ニ排除スルモノナルモ土地極メテ低濕ニシテ常ニ洪水シ出水時ニ於テハ新川ノ逆水ヲ受クル状態ニアリ又用水ハ大河津分水工事ノ完成ニヨリ中之口川ノ水位低下シ旱害ニ苦シムノ實情ニ至リタルヲ以テ之等ノ被害除去ノ爲本工事ヲ施行シタルモノナリ

味方郷耕地整理組合ハ縣營事業ノ地元負擔金寄附並附帶工事施行ノ目的ヲ以テ受益區域ヲ一團トナシ設立セラレタルモノニシテ其ノ後縣營事業ノ進捗ニ伴ヒ道水路變更廢置ノ必要ヲ認メ一部區劃整理ヲ實施シタルモノナリ

二、事業ノ沿革

本區域ハ由來灌溉排水ノ便ニ乏シク年々其ノ被害甚大ナリシヲ以テ昭和四年四月關係區域六箇村長ノ請願ニ依リ同年ノ通常縣會ニ縣營トシテ施行スルコトニ提案議決シ翌年五月負擔團體タル味方郷耕地整理組合ノ設立ヲ認可シ昭和六年三月用排水改良事業補助要項ニ依リ國庫補助ノ指令ヲ受ケ五月起工、昭和九年六月第一期工事ヲ竣功、引續キ昭和十年三月第二期工事ニ着手シ既ニ豫定ノ工事ヲ完了シ目下追加工事トシテ井堰増設中ニシテ本工事モ年内ニ全部終了スルモノトス

三、事業計畫ノ概要

縣營第一期用排水改良事業中用水改良事業ハ本區域内最灌溉ノ便ニ乏シキ區域約八百町步ニ用水ヲ供給シ排水計畫ハ地勢上自然排水區域ト機械排水區域トニ分テ自然排水區域ハ比較的高燥ナル地帯ニシテ自然排水可能ナル區域九百一町步トシ其ノ他區域一千六百七十二町步ヲ機械排水區域トセリ

縣營第二期用水改良事業ハ第一期用水改良事業區域外ノ味方村及黒崎村ノ一部區域ニシテ關係地積八百七十一町步ナリ